令和７年度入学生用

２年次（令和８年度開講）

履　修　要　項

(syllabus)

生 活 科 学 科

生 活 福 祉 専 攻
食 物 栄 養 学 専 攻

鹿児島女子短期大学
Kagoshima Women's College

令和7年度入学生　教 育 課 程

別表 第2 生活科学科 生活福祉専攻教育課程表

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
一般教養科目		**わたしを知る・わたしを創る**								
		心と思想の探求（人間の心に迫り人間を知る）								
		日本語表現の基礎	講 義		2	2	2			
		倫 理 学 ★	講 義		2	2	2			介護福祉士選択必修（人間と社会領域）
		心 理 学	講 義		2	2	2			
		健康の探求（健康な心と体をつくる）								
	13	体 育 講 義	講 義		1				1	
	15	体 育 実 技	実 技		1				1	
		社会を知る・社会につながる								
		社会の探求（社会に目を向ける）								
		社 会 学	講 義		2	2	2			
		日本国憲法	講 義		2	2	2			
		歴 史 学	講 義		2	2	2			
	17	WE LOVE 鹿児島！	演 習	1					1	
		総合教養Ⅰ	講 義		2	2				
		総合教養Ⅱ	講 義		2		2			
		AI社会論 ○	講 義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修
		キャリアの探求（職業を考え人生を設計する）								
		キャリアガイダンスⅠ	演 習	1			1			
	19	キャリアガイダンスⅡ	演 習	1				1		
		世界を知る・世界を広げる								
		異文化の探求（海外に目を向ける）								
		海 外 事 情	演 習		2		2			海外研修
		公共人類学★	講 義		2	2	2			介護福祉士選択必修（人間と社会領域）
		英語の文学とメディア	講 義		2	2	2			
		アメリカ文学	講 義		2	2	2			
		英語演習Ⅰ	演 習	2		2				英語・中国語・韓国語・日本語演習のいずれかのⅠ・Ⅱを連続選択履修
		中国語演習Ⅰ	演 習			2				
		韓国語演習Ⅰ	演 習			2				
		日本語演習Ⅰ	演 習			2				
		英語演習Ⅱ	演 習	2			2			
		中国語演習Ⅱ	演 習				2			
		韓国語演習Ⅱ	演 習				2			
		日本語演習Ⅱ	演 習				2			
		自然界の探求（いろいろな世界に目を向ける）								
		数 学 基 礎 ★	講 義		2	2	2			介護福祉士選択必修（人間と社会領域）
		理 科 基 礎	講 義		2	2	2			
		分子からみた生物	講 義		2	2	2			
		SDGs論	演 習		2		2			
		データサイエンス概論 ○	講 義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修
	21	データサイエンス演習 ◎	演 習		2			2		デジタル教育プログラム・プラス選択必修
	23	AIプログラミング ◎	演 習		2				2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修
		最低修得単位数		7	7					
		卒業最低修得単位数 14								

注：★の科目から4単位以上選択必修「人間と社会領域」
○から1科目選択必修（デジタル教育プログラム）
◎から1科目選択必修（デジタル教育プログラム・プラス）

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	卒業履修単位数 選択	介護福祉士履修単位数 必修	介護福祉士履修単位数 選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
専門科目		**【人間と社会】**										
		人間の尊厳と自立	講義	2		2			2			
		人間関係とコミュニケーション▲	講義		2	2			2			医事実務士必修
	41	チームマネジメント	講義		2	2					2	
	43	社会学概論	講義		2	2				2		
		社会と制度の理解	講義	2		2		2				
	45	社会保障論	講義	2		2					2	
	47	住環境と福祉 ★	講義		2		2			2		介護福祉士選択必修（人間と社会領域）
		レクリエーション概論 ★	講義		1		1		1			レクリエーションインストラクター資格必修
		【介　護】										
		介護の基本Ⅰ	講義	2		2		2				
		介護の基本Ⅱ	講義	2		2		2				
	49	介護の基本Ⅲ	講義	2		2				2		
	51	介護の基本Ⅳ	講義	2		2					2	
	53	生活と地域福祉▲	演習		1	1					1	
		生活と自立支援	講義		2	2			2			
		コミュニケーションの基礎▲	講義	2		2		2				
	55	コミュニケーション演習	演習		1	1				1		
		生活支援技術A	演習	2		2		2				
		生活支援技術B	演習		2	2			2			
	57	生活支援技術C	演習		2	2				2		
	59	生活支援技術D	演習		1	1				1		
		生活支援技術（住）	講義		2	2		2				
	61	生活支援技術（食）	演習		1	1				1		
	63	生活支援技術（家事）	演習		1	1					1	
		介護過程Ⅰ	講義		2	2		2				
		介護過程Ⅱ	講義		2	2			2			
	65	介護過程Ⅲ	演習		1	1				1		
	67	介護過程Ⅳ	演習		1	1					1	
	69	ケアマネジメント	演習		1	1				1		
		介護総合演習Ⅰ	演習		1	1		1				
		介護総合演習Ⅱ	演習		1	1			1			
	71	介護総合演習Ⅲ	演習		1	1				1		
	73	介護総合演習Ⅳ	演習		1	1					1	
	75	介護研究	演習		1	1				1		
		介護実習Ⅰ	実習		2	2			2			
		介護実習Ⅱ	実習		3	3			3			
	77	介護実習Ⅲ	実習		3	3				3		
	79	介護実習Ⅳ	実習		3	3					3	

介護保険実務士2科目選択必修

注：★の科目から4単位以上選択必修「人間と社会領域」
▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格2科目以上4単位以上選択必修

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	卒業履修単位数 選択	介護福祉士履修単位数 必修	介護福祉士履修単位数 選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
専門科目		【こころとからだのしくみ】										
		発達の理解▲	講義	2		2		2				
		老化の理解	講義	2		2		2				
		認知症の理解Ⅰ	講義	2		2			2			
	81	認知症の理解Ⅱ	演習		1	1				1		
		障害の理解Ⅰ	講義	2		2			2			
	83	障害の理解Ⅱ	講義		2	2					2	
		こころとからだのしくみ(医学)	講義	2		2			2			医事実務士必修科目
	85	こころとからだのしくみ(心理)▲	講義		2	2				2		介護保険実務士1科目選択必修
		こころとからだのしくみ(生活支援)	講義	2		2		2				
	87	ターミナルケア	講義		2	2					2	
		【医療的ケア】										
		医療的ケア	講義		2	2		2				
		経管栄養	講義		2	2			2			
	89	喀痰吸引	講義		2	2				2		
	91	経管栄養演習	演習		1	1				1		
	93	喀痰吸引演習	演習		1	1					1	
		医事実務士										
		基礎医学関連科目										
	95	薬理の基礎	講義		2		2				2	医事実務士必修
	97	人類学	講義		2		2				2	
		医事・実務関係科目										
		医療事務総論	講義		2		2		2			医事実務士必修
		医療事務演習	演習		2		2		2			
		介護保険実務士										
	99	介護事務総論	講義		2		2			2		介護保険実務士必修
	101	介護事務演習	演習		1		1				1	
		関連科目										
		情報機器演習	演習	2			2	2				医事/介護保険実務士必修
		レクリエーション活動援助法Ⅰ	演習		1		1	1				レクリエーションインストラクター資格必修
		レクリエーション活動援助法Ⅱ	演習		1		1		1			
	103	レクリエーションワーク	演習		1		1			1		
	105	介護ホスピタリティ	演習		1		1				1	
最低修得単位数				32	16	87						

卒業最低修得単位数　必修 32　選択 16　合計 48

最低修得単位数総計　卒業 62　[介護福祉士 101]（「情報機器演習」2単位を含むと103単位が必要）

注：　▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格2科目以上4単位以上選択必修

別表　第2の2［　介護保険実務士　］養成科目　　（○印は専門科目と重なる）

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 履修単位数 必修	履修方法 履修単位数 選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
	○社会と制度の理解	講義	2		2				
	○介護の基本Ⅰ	講義	2		2				
	○介護の基本Ⅱ	講義			2				
(49)	○介護の基本Ⅲ	講義					2		
(51)	○介護の基本Ⅳ	講義						2	
	○こころとからだのしくみ（医学）	講義	2			2			
(85)	○こころとからだのしくみ（心理）	講義					2		
	○発達の理解	講義	2		2				
	○生活支援技術A	演習	1		2				
	○生活支援技術B	演習				2			
(57)	○生活支援技術C	演習					2		
(59)	○生活支援技術D	演習					1		
	○情報機器演習	演習	2		2				
	○介護実習Ⅰ	実習	2			2			2科目　選択必修
(69)	○ケアマネジメント	演習					1		
	○介護総合演習Ⅰ	演習			1				
	○介護総合演習Ⅱ	演習				1			
(99)	○介護事務総論	講義	2				2		
(101)	○介護事務演習	演習	1					1	
	最低単位修得数総計　［　16　］		14	2					

別表　第2の3　　［　医事実務士　］養成科目　　（○印は専門科目と重なる）

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 履修単位数 必修	履修方法 履修単位数 選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
	基礎医学関係科目								
	○こころとからだのしくみ（医学）	講義	2			2			
(95)	○薬理の基礎	講義	2					2	
(97)	○人類学	講義	2					2	
	医療事務実務関係科目								
	○医療事務総論	講義	2			2			
	○医療事務演習	演習	2			2			
	○情報機器演習	演習	2		2				
	○人間関係とコミュニケーション	講義	2			2			
	最低修得単位数［　14　］		14						

別表　第2の4　レクリエーション・インストラクター養成科目

（○印は専門科目と重なる）

授業科目	授業形態	履修方法 履修単位数 必修	履修方法 履修単位数 選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
○レクリエーション概論	講義	1			1			
○レクリエーション活動援助法Ⅰ	演習	1		1				
○レクリエーション活動援助法Ⅱ	演習	1			1			
現場実習（学外）	実習	(1)			(1)			ー 2日間（9時間以上）
最低単位修得数総計　［ 3 ＋(1)］								

令和7年度入学生　教 育 課 程

別表 第3 生活科学科 食物栄養学専攻教育課程表

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
一般教養科目		**わたしを知る・わたしを創る**								
		心と思想の探求（人間の心に迫り人間を知る）								
		日本語表現の基礎	講義		2	2	2			
		倫理学	講義		2	2	2			
		心理学	講義		2	2	2			
		健康の探求（健康な心と体をつくる）								
	25	体育講義	講義		1			1		栄教免必修
	27	体育実技	実技		1			1		栄教免必修
		社会を知る・社会につながる								
		社会の探求（社会に目を向ける）								
		社会学	講義		2	2	2			
		日本国憲法	講義		2	2	2			栄教免必修
		歴史学	講義		2	2	2			
	29	食物アレルギー論◆◆	講義	1					1	こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程必修（◆◆）
	31	食と地域の未来デザイン	演習		1				1	栄養士・栄教免必修
		総合教養Ⅰ	講義		2	2				
		総合教養Ⅱ	講義		2		2			
		AI社会論 ○	講義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修
		キャリアの探求（職業を考え人生を設計する）								
		キャリアガイダンスⅠ	演習	1			1			
	33	キャリアガイダンスⅡ	演習	1				1		
		世界を知る・世界を広げる								
		異文化の探求（海外に目を向ける）								
		海外事情	演習		2		2			海外研修
		公共人類学	講義		2	2	2			
		英語の文学とメディア	講義		2	2	2			
		アメリカ文学	講義		2	2	2			
		英語演習Ⅰ	演習	2		2				英語・中国語・韓国語・日本語演習のいずれかのⅠ・Ⅱを連続選択履修
		中国語演習Ⅰ	演習			2				
		韓国語演習Ⅰ	演習			2				
		日本語演習Ⅰ	演習			2				
		英語演習Ⅱ	演習	2			2			
		中国語演習Ⅱ	演習				2			＊日本語演習は留学生対象科目 参照：別表5 留学生特別科目教育課程表
		韓国語演習Ⅱ	演習				2			
		日本語演習Ⅱ	演習				2			
		自然界の探求（いろいろな世界に目を向ける）								
		数学基礎	講義		2	2	2			
		理科基礎	講義		2	2	2			
		分子からみた生物	講義		2	2	2			
		SDGs論	演習		2		2			
		データサイエンス概論 ○	講義		2	2	2			デジタル教育プログラム選択必修
	35	データサイエンス演習 ◎	演習		2			2		デジタル教育プログラム・プラス選択必修
	37	AIプログラミング ◎	演習		2				2	デジタル教育プログラム・プラス選択必修
		最低修得単位数		7	7					
		卒業最低修得単位数 14								

注：　○から1科目選択必修（デジタル教育プログラム）
◎から1科目選択必修（デジタル教育プログラム・プラス）
◆◆こども食物アレルギー実務課程必修科目

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法						開講学期単位数				備考
				卒業履修単位数		栄養士履修単位数		栄教免修得単位数						
				必修	選択	必修	選択	必修	選択	1前	1後	2前	2後	
専門科目		**社会生活と健康**												
	109	公衆衛生学Ⅰ	講義		1	1		1				1		
	111	公衆衛生学Ⅱ	講義		1	1		1				1		
	113	社会福祉概論	講義		2	2		2					2	児童福祉を含む 栄養士・栄教免必修
		人体の構造と機能												
		解剖生理学Ⅰ	講義		1	1		1		1				
		解剖生理学Ⅱ	講義		2	2		2			2			
	115	解剖生理学実験 ☆	実験		1	1		1				1		栄養士・栄教免選択必修(☆)
	117	運動生理学	講義		1	1		1					1	
		栄養生化学Ⅰ	講義	2		2		2		2				
		栄養生化学Ⅱ ◆	講義		2	2		2			2			こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
	119	生化学実験 ☆	実験		1	1		1				1		栄養士・栄教免選択必修
		食品と衛生												
		食品学総論	講義	2		2		2		2				
		食品学各論◆	講義	2		2		2			2			食品加工学を含む こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
		食品学実験 ☆	実験		1	1		1		1				栄養士・栄教免選択必修(☆)
		食品衛生学	講義		2	2		2		2				
		食品衛生学実験	実験		1	1		1			1			
	121	食品加工学実習 ☆	実習		1	1		1				1		栄養士・栄教免選択必修(☆)
		栄養と健康												
		栄養学総論	講義	2		2		2			2			
		応用栄養学 ◆	講義	2		2		2			2			こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
		応用栄養学実習 ◆	実習		1	1		1			1			こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
		食事摂取基準・献立論	講義	2		2		2		2				
	123	臨床栄養学概論 ◆	講義		2	2		2				2		こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
	125	臨床栄養学実習	実習		1	1		1				1		
		栄養の指導												
		栄養指導論Ⅰ ▲	講義	2		2		2		2				栄養カウンセリング論含む
		栄養指導論Ⅱ ◆ ▲	講義		2	2		2			2			こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
	127	栄養指導実習Ⅰ	実習		1	1		1				1		
	129	栄養指導実習Ⅱ	実習		1	1		1					1	
		公衆栄養学	講義	2		2		2			2			

☆の科目から3単位以上選択必修(栄養士・栄教免)

▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格:教育心理学又は教育相談のいずれかを含む4単位以上必修

◆の科目から1単位以上選択必修(こども食物アレルギー実務課程)

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 卒業履修単位数 必修	卒業履修単位数 選択	栄養士履修単位数 必修	栄養士履修単位数 選択	栄教免修得単位数 必修	栄教免修得単位数 選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
専門科目		**給食の運営**												
		給食管理◆	講義	2		2		2			2			こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
	131	給食実務演習Ⅰ	演習		1	1		1				1		
	133	給食実務演習Ⅱ	演習		1	1		1					1	
	135	給食管理実習Ⅰ	実習		1	1		1				1		
	137	学外実習Ⅰ・Ⅱ指導	演習		1	1		1				1		
	139	給食管理実習(学外Ⅰ)	実習		2	2						2		＊学外実習(保育所、施設等)
	141	給食管理実習(学外Ⅱ)	実習		2			2				2		栄養士選択必修(ただし、栄教免履修者は学校給食管理実習(学外Ⅰ)を必修とし、給食管理実習(学外Ⅱ)は選択) ＊学外実習(保育所、施設、病院)
	143	学校給食管理実習(学外Ⅰ)	実習		1	1		1				1		栄教免履修者のみ必修
	145	給食管理実習Ⅱ	実習		1	1		1					1	
		調理学	講義	2		2		2		2				
		調理学実習基礎	実験･実習		1	1		1		1				
		調理学実習Ⅰ	実習		1	1		1			1			
	147	調理学実習Ⅱ	実習		1	1		1				1		
	149	実践調理学実習◆	実習		1	1		1					1	こども食物ｱﾚﾙｷﾞｰ実務課程選択必修(◆)
		関連科目												
		化学	講義		2		2		2	2				
		学校栄養教育論	講義		2		2	2		2				
	151	栄養士実力試験対策演習	演習		1		1		1				1	
	153	スポーツと栄養	演習		1		1		1				1	
		くらしとお茶A	講義		2		2		2	2				日本茶アドバイザー資格選択必修
	155	くらしとお茶B	講義		2		2		2			2		
		教育心理学▲	講義		1		1	1		1				
		教職概論	講義		2		2	2		2				
	157	教育相談▲	講義		1		1	1				1		
		情報機器演習	演習	2		2		2		2				
最低修得単位数				22	26	57 ※56	0	62	0					

卒業最低修得単位数　必修　22　選択　26　合計　48

最低修得単位数総計　卒業　62　［栄養士 71（栄養教諭免許履修者　70 ）］

注:　▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格:教育心理学又は教育相談のいずれかを含む4単位以上必修

◆の科目から1単位以上選択必修(こども食物アレルギー実務課程)

※栄養教諭履修者の専門必修科目は56単位

別表　第3の2　栄養教諭関連科目　（栄養に係る教育に関する科目及び教職に関する科目）
（〇印は専門科目と重なる

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 履修単位数 必修	選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
	〇学校栄養教育論	講義	2		2				
	教育原理	講義	2		2				
	〇教職概論	講義	2		2				
	教育制度論	講義	2			2			
	〇教育心理学▲	講義	1		1				
	特別支援教育	講義	2			2			
159	教育課程	講義	1				1		
161	道徳教育の指導法	講義	1					1	
163	総合的な学習の時間の指導法	講義	2					2	
165	特別活動の指導法	講義	1					1	
	教育の方法・技術	講義	1			1			
	生徒指導	講義	1			1			
	〇情報機器演習	演習	2		2				
(157)	〇教育相談▲	講義	1				1		
167	栄養教育実習指導	講義	1				1		
169	栄養教育実習	実習	1				1		学外実習
171	教職実践演習（栄養教諭）	演習	2					2	
	最低修得単位数		25						
	最低修得単位数総計　［栄教免　93 ］								

▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格：教育心理学又は教育相談のいずれかを含む4単位以上必修

別表　第3の3　こども食物アレルギー実務課程関連科目
（〇印は一般教養科目及び専門科目と重なる）

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 履修単位数 必修	選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
(29)	〇食物アレルギー論	演習	1					1	
	〇栄養生化学Ⅱ	講義		2		2			1単位以上
	〇食品学各論	講義		2		2			
	〇応用栄養学	講義		2		2			
	〇応用栄養学実習	実習		1		1			
(123)	〇臨床栄養学概論	講義		2			2		
	〇栄養指導論Ⅱ	講義		2		2			
	〇給食管理	講義		2		2			
(149)	〇実践調理学実習	実習		1				1	
	最低修得単位数		1	1					

一般教養科目

生 活 福 祉 専 攻

食 物 栄 養 学 専 攻

科目名	体育講義	**科目ナンバー**	**AF024019**
担当者	萩原　香織		
科目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	体育		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	短大生活において充実した生活を送り、さらに生涯に渡って豊かな人生を送るために、心身の健全な育成と健康の増進が不可欠である。本講義ではスポーツ及び健康についての意義や役割を多角的な視点から概説し、現代社会における健康増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる基礎的な理解を深める。			
授業の到達目標	１．運動についての基礎的な理解を深めることができる。２．健康についての基礎的な理解を深めることができる。３．運動と健康における相互関係の理解を深めることができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎	○	○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション（運動及び健康についての概念）	萩原
第2回	運動と健康を考える①（運動生理と筋活動）	萩原
第3回	運動と健康を考える②（トレーニングとダイエット）	萩原
第4回	運動と健康を考える③（こころの健康）	萩原
第5回	スポーツをめぐる現状と今日的課題	萩原
第6回	女性と運動を考える①（女性の身体の仕組み）	萩原
第7回	女性と運動を考える②（妊娠と出産）	萩原
第8回	生涯スポーツと健康スポーツ　まとめ	萩原
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	参考文献等をよく読んでおく。日々、スポーツや健康のニュースや話題に触れるようにする。	学習合計時間(h)	15
事後学習	講義内容を振り返り、健康を維持できるよう運動や食事等について理解を深める。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題（授業ごとの小レポート・小テスト等）を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水曜日　12:20～13:10　研究室（体育館202号室）		

テキスト	適宜資料を配布する。
参考文献等	『もっとなっとく使えるスポーツサイエンス』　征矢英昭他　講談社　2017年　2,000円（税抜き）（ISBN 978-4062806640）『JOAオリンピック小事典』　日本オリンピック・アカデミー　メディアバル　2016年　1,800円（税抜き）（ISBN 978-4896101607）
成績評価基準	健康に関する理解を深め、積極的に健康管理ができるようになること。
成績評価の方法	毎回授業後に実施する小レポート（50%）、小テスト（30%）、受講態度（20%）で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	体育実技	**科目ナンバー**	**AF024020**
担当者	川畑　和也		
科目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	体育		
授業形式	実技		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	クラス分け
免許・資格情報	―		

授業の概要	身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まっている。そこで、様々なスポーツ種目に取り組むことにより、スポーツの「楽しさ」や健康に及ぼす影響を理解し、各自が生涯にわたり、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に関わることができるようにする。
授業の到達目標	１．スポーツの「楽しさ」を理解できる。２．身体活動が健康に及ぼす影響を理解できる。　３.「楽しむ」「認め合う」「協調する」を意識してスポーツを実践することができる。

ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション・レクリエーション	川畑
第2回	ニュースポーツ①（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第3回	ニュースポーツ②（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第4回	ゴール型スポーツ①（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第5回	ネット型スポーツ①（基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第6回	ネット型スポーツ②（応用練習・対抗戦）	川畑
第7回	ニュースポーツ②（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第8回	ゴール型スポーツ②（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第9回	ネット型スポーツ③（基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第10回	ニュースポーツ④（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第11回	個人・チームスポーツの実践①（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第12回	個人・チームスポーツの実践②（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第13回	個人・チームスポーツの実践③（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第14回	個人・チームスポーツの実践④（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第15回	個人・チームスポーツの実践⑤（応用練習・ゲーム企画）	川畑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日常生活において、身体運動やスポーツを実施できるようにする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	ルール等を理解して、身体運動やスポーツを実施できるようにする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業時などにおいて適宜対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	事前に連絡の上、調整する。授業終了時の質問等は随時受け付ける。		

テキスト	特になし
参考文献等	実施する種目についてWeb上で検索し、ルール等の事前事後学習として利用すること。
成績評価基準	スポーツ活動の楽しさを理解するとともに、積極的に健康管理に関われるようにする。
成績評価の方法	受講態度等（70%） 小レポート（30%）
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	ＷＥ　ＬＯＶＥ　鹿児島！	**科目ナンバー**	**AF034006**
担当者	浜崎　眞美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	1単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	―		

授業の概要	地域の中で自分自身を位置づける「ローカルアイデンティティ」を「生きる力」とし、「地域活性化の担い手」となることを目指す。鹿児島は、過去の歴史を振り返っても、多くの様々な自然災害に見舞われている一方、たくさんの自然の恩恵にもあずかっている。そこで、防災や介護を主とした地域の課題を探り、その内容の理解を深める。意欲的な地域課題への取り組みを通して、地域の担い手としての意識を高め、地域に貢献するための実践的な能力を身につけさせる。			
授業の到達目標	1．鹿児島における地域の課題や問題点を理解できる。2．地域課題への取り組みを通して実践する力を身につける。3．地域の担い手としての意識を高める。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション	A
第2回	地域防災と災害時の対応について	中森
第3回	災害時の介護福祉士の役割	中森
第4回	災害時の対応①	A・B
第5回	災害時の対応②	A・B
第6回	災害時の食	改元
第7回	災害時の心のケア	松元
第8回	介護の日関連イベント（10月上旬予定）への参加	A
第9回	介護の日関連イベント（10月上旬予定）への参加	A
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	関連する身の回りの地域課題を考える。	学習合計時間(h)	10
事後学習	レポートをまとめ提出する。	学習合計時間(h)	20
課題に対するフィードバックの方法	オフィスアワーを活用し対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	金曜日　17：55～18：15 （講義室）		

テキスト	特になし　講義に応じて資料を配布する
参考文献等	「災害時の介護・介護施設が巻き込まれる5つの変化」鈴木俊文他　みらい　2014　1,200円(税別)(ISBN978-4-86015-318-2)「災害時における介護のボランティア入門～介護福祉士の専門性をいかして～」　公益社団法人日本介護福祉士会編集　中央法規出版　2018年　1，800円(税
成績評価基準	鹿児島における地域の課題や問題点を理解し、地域の担い手としての意識を高め実践する力が身についたものを合格とする。
成績評価の方法	レポートの内容と提出状況(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	COC科目　A：生活福祉専攻教員(浜崎・久留須・中森)　B：外部講師

科目名	キャリアガイダンスII	科目ナンバー	AF043015
担当者	中森　美恵子		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	1単位	担当形態	複数
免許・資格情報	―		

授業の概要	1年次のキャリアガイダンスを基に、働くことの社会的意義及び個人的意義を考える。また、卒業生を始めとした外部講師の講話等も参考に、進路のイメージを具体化し、実際の就職活動につなげる。			
授業の到達目標	1. 働くことの意義を考える　2. 社会に関心を持ち、自己実現を目指し、行動する			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション進路支援ガイダンス　就職活動の進め方	中森・A
第2回	進路支援ガイダンス　履歴書の書き方	中森・A
第3回	キャリアの将来設計	B
第4回	国家試験に向けた心構え進路支援ガイダンス(就職試験対策)	中森・A
第5回	将来設計ができるよう、労働法規などから仕事の取組み方を学ぶ	B
第6回	卒業生講話	B
第7回	将来設計とリスク管理	B
第8回	国家試験出願関連指導	浜崎
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	実務経験のある教員が、キャリア形成の参考になるような支援を行う		
事前学習	進路支援ガイド(キャリアセンター発行)の内容をよく読み、就活に活かせるように準備しておく。また、卒業後の進路に関して、情報収集しておく。	学習合計時間(h)	15
事後学習	自分に適した就職先について調べる	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	レポート等の課題に対する質問があった場合、オフィスアワーを活用し個別に対応する		
質問・相談方法	オフィスアワーを活用し、個別に対応する		
オフィスアワー	月・水曜日　昼休み(12:20～13:10)研究室(西館314号室)		

テキスト	『進路支援ガイド』 鹿児島女子短期大学 2023年
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること。
成績評価の方法	レポート等の提出状況と内容(100%)により評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	COC科目Ａ：就職ガイダンス(学生支援課職員)　Ｂ：外部講師等(福祉施設関係者や生活福祉の卒業生等)

科目名	データサイエンス演習	**科目ナンバー**	**AA043014**
担当者	村田　和也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	「データサイエンス演習」では、データサイエンスの基礎とその実践を段階的に学ぶ。現代社会においてデータサイエンスがいかに求められているか、その重要性や有用性について、実際の事例を通して理解を深める。特にAI時代において多様化する事象やデータに対応するため、統計手法や解析方法の基礎を紹介する。前半ではExcelを用いたデータ分析の基礎を学び、後半ではBIツール（Tableau）を用いて課題発見から分析・改善までの一連のプロセスを実践する。さらに、鹿児島市のオープンデータなどの実データを活用した演習を通して、地域課題の発見・分析・提案に取り組む。これらの活動を通じて、データの理解から可視化、意思決定支援までを行う実践的な能力の習得を目指す。			
授業の到達目標	次のような内容を理解し、実際にデータを使って分析することを目的としています。1.データの理解やそのリテラシーの養成。2.データサイエンスを行う流れを理解する。3.データを加工し、可視化するツールを把握する。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	ガイダンス：授業の導入と概要	村田
第2回	エクセルを用いたデータ分析演習（１）データマネジメント	村田
第3回	エクセルを用いたデータ分析演習（２）パレート分析	村田
第4回	エクセルを用いたデータ分析演習（３）クロス集計分析	村田
第5回	エクセルを用いたデータ分析演習（４）度数分布と基本統計量	村田
第6回	エクセルを用いたデータ分析演習（５）相関・予測と回帰分析	村田
第7回	BIツールを用いたデータ分析演習（１）BIツール「Tableau」のインストールと使用方法	村田
第8回	BIツールを用いたデータ分析演習（２）課題発見と絞り込み	村田
第9回	BIツールを用いたデータ分析演習（３）課題における原因の特定	村田
第10回	BIツールを用いたデータ分析演習（４）対策の検討・実行	村田
第11回	BIツールを用いたデータ分析演習（５）改善に向けた分析	村田
第12回	BIツールを用いたデータ分析演習（６）分析の目的・課題の整理	村田
第13回	実データを用いたデータ分析演習（１）地域課題の発見とデータ設計	村田
第14回	実データを用いたデータ分析演習（２）可視化と課題分析	村田
第15回	実データを用いたデータ分析演習（３）分析結果のまとめと提案	村田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	テキスト解析の経験を活かす。		
事前学習	今日の社会におけるデータサイエンスの重要性を理解し、日常的に統計に関心を持つように心がけること。毎回の授業では、理解を助けるための様々な情報を提供するので、考察するなど予習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	毎回の授業については復習を徹底し、理解を深めること。必要に応じ課題等を課す。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応		
オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良		

テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	「日本統計学会公式認定統計検定データサイエンス基礎対応 データアナリティクス基礎」日本統計学会(著) 日本能率協会マネジメントセンター 2023年 ¥2640 978-482072594||「BIツールを使ったデータ分析のポイント」黒木賢一, 下山輝昌(著) 秀和システム 2023年 ¥2640 978-
成績評価基準	
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	AIプログラミング	**科目ナンバー**	**AA044017**
担当者	村田　和也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	「AIプログラミング」ではプログラミングにおける基本的な内容を扱う。特に、機械学習で利用されるPythonを用いて、プログラミングの考え方を養う。プログラミングの基礎からアプリケーション開発の基礎、AI・機械学習を用いたアプリケーション開発を通して、プログラミングの役割を学び、興味・関心を広げる。また、AIに関する理解も同様に深める。			
授業の到達目標	1. 社会におけるプログラミングの役割や重要性を理解する。2. Javascript等のフロントエンド開発言語でプログラミングの基礎や考え方を習得する。3. WEBデザインを通して自らの手でコーディングをする。4. シナリオ型の対話型AIの開発を通して、その仕組みを学び、オリジナルのAIを開発する。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	ガイダンス :講義の流れと概要	村田
第2回	Python基礎演習①：データの種類と計算	村田
第3回	Python基礎演習②：文字列操作とリスト	村田
第4回	Python基礎演習③：ライブラリと分岐処理	村田
第5回	Python基礎演習④：反復処理	村田
第6回	Python基礎演習⑤：関数の作成とライブラリ作成	村田
第7回	Python演習①：アプリケーション作成①	村田
第8回	Python演習②：アプリケーション作成②	村田
第9回	AIプログラミング①：機械学習とライブラリ	村田
第10回	AIプログラミング②：手書き文字予測	村田
第11回	AIプログラミング③：画像認識アプリケーション作成	村田
第12回	AIプログラミング④：APIキーの利用とChatGPTを利用したアプリケーション開発①	村田
第13回	AIプログラミング⑤：APIキーの利用とChatGPTを利用したアプリケーション開発②	村田
第14回	AIプログラミング⑥：APIキーの利用とChatGPTを利用したアプリケーション開発③	村田
第15回	授業の総括	村田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
			○	ー	○

担当教員の実務経験と授業の関連	AIを用いた予測やPython,SPSSを用いた統計処理の経験を活かす。		
事前学習	今日の社会におけるプログラミングの重要性を理解し、日常的にWEBサイト等に関心を持つように心がけること。毎回の授業では、理解を助けるための様々な情報を提供するので、考察するなど予習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	毎回の授業については復習を徹底し、理解を深めること。必要に応じ課題等を課す。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応		
オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良		

テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	講義内にて参照
成績評価基準	
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	体育講義	**科目ナンバー**	**AS023014**
担当者	川畑　和也		
科目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	体育		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄教免		

授業の概要	短大生活において充実した生活を送り、さらに生涯に渡って豊かな人生を送るために、心身の健全な育成と健康の増進が不可欠である。本講義ではスポーツ及び健康についての意義や役割を多角的な視点から概説し、現代社会における健康増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる基礎的な理解を深める。			
授業の到達目標	１．運動についての基礎的な理解を深めることができる。２．健康についての基礎的な理解を深めることができる。３．運動と健康における相互関係の理解を深めることができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎	○	○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション（健康やスポーツの概念、運動の捉え方）	川畑
第2回	健康と運動①（有酸素運動と無酸素運動）	川畑
第3回	健康と運動②（トレーニングとストレッチ・運動処方）	川畑
第4回	健康と栄養	川畑
第5回	健康と休養	川畑
第6回	スポーツと国際理解	川畑
第7回	生涯にわたるスポーツ実践	川畑
第8回	これからの健康・スポーツとの関わり・まとめ	川畑
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	参考文献等をよく読んでおく。日々、健康やスポーツのニュースや話題に触れるようにする。	学習合計時間(h)	15
事後学習	講義内容を振り返り、健康を維持できるよう運動や食事・休養等について実践する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題（授業ごとの小レポート・小テスト等）を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	事前に連絡の上、調整する。授業終了時の質問等は随時受け付ける。		

テキスト	講義毎に内容に関わる資料を適宜配布する。
参考文献等	『大学生のスポーツと健康生活』福岡大学スポーツ科学部編大修館書店(ISBN 9784469268171)『これからの健康とスポーツの科学』安部孝・琉子友男編　講談社 (ISBN978-4-06-518095-2))『大学生のための「健康」論健康・運動・スポーツの基礎知識』電気通信大学健康・スポーツ科学部会
成績評価基準	健康に関する理解を深め、積極的に健康管理ができるようになること。
成績評価の方法	毎回授業後に実施する小レポート（60%）、小テスト（20%）、受講態度（20%）で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	体育実技	**科目ナンバー**	**AS023015**
担当者	川畑　和也		
科目	教育職員免許法施行規則第６６条の６に定める科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	体育		
授業形式	実技		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄教免		

授業の概要	身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まっている。そこで、様々なスポーツ種目に取り組むことにより、スポーツの「楽しさ」や健康に及ぼす影響を理解し、各自が生涯にわたり、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に関わることができるようにする。			
授業の到達目標	１．スポーツの「楽しさ」を理解できる。２．身体活動が健康に及ぼす影響を理解できる。　３.「楽しむ」「認め合う」「協調する」を意識してスポーツを実践することができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	◎		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション・レクリエーション	川畑
第2回	ニュースポーツ①（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第3回	ニュースポーツ②（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第4回	ゴール型スポーツ①（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第5回	ネット型スポーツ①（基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第6回	ネット型スポーツ②（応用練習・対抗戦）	川畑
第7回	ニュースポーツ③（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第8回	ゴール型スポーツ②（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第9回	ネット型スポーツ③（基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第10回	ニュースポーツ④（ルール説明、基礎練習・簡易ゲーム）	川畑
第11回	個人・チームスポーツの実践①（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第12回	個人・チームスポーツの実践②（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第13回	個人・チームスポーツの実践③（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第14回	個人・チームスポーツの実践④（応用練習・ゲーム企画・実施）	川畑
第15回	個人・チームスポーツの実践⑤（応用練習・ゲーム企画）	川畑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	日常生活において、身体運動やスポーツを実施できるようにする。	学習合計時間(h)	30
事後学習	ルール等を理解して、身体運動やスポーツを実施できるようにする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業時などにおいて適宜対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	事前に連絡の上、調整する。授業終了時の質問等は随時受け付ける。		

テキスト	特になし
参考文献等	実施する種目についてWeb上で検索し、ルール等の事前事後学習として利用すること。
成績評価基準	スポーツ活動の楽しさを理解するとともに、積極的に健康管理に関われるようにする。
成績評価の方法	受講態度等（70%） 小レポート（30%）
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	食物アレルギー論	**科目ナンバー**	**AS034005**
担当者	改元　香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［関連科目］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	1単位	**担当形態**	オムニバス
免許・資格情報	必修：こども食物アレルギー実務課程		

授業の概要	本授業では、食物アレルギーに関する基礎知識から現場での対応までを体系的に学ぶ。保育所や高齢者施設、病院など多様な現場において、栄養士として安全・安心な食環境を整えるための知識と実践力を身につけることを目的とする。			
授業の到達目標	1．食物アレルギーの発症機序、症状、診断・治療に関する基本的知識を説明できる。2．保育所や高齢者施設、病院等の現場で必要な食物アレルギー対応（献立管理・代替食調理・緊急時対応）を理解し、事例に応じた対応方法を考えられる。3．医師・看護師・保育士・家族など多職種と連携しながら、利用者に寄り添った支援を行うための栄養士の役割を説明できる。			
ディプロマポリシー（DP）	2 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	3 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	4 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	導入：食物アレルギーの基礎、食物アレルギーの定義と現状、発症機序（免疫学的背景）と主な症状	A
第2回	食物アレルギーに対応するための多職種連携	B
第3回	保育所・学校現場での対応、アレルギー対応献立の作成、誤食防止の仕組み、緊急時の対応マニュアル	A
第4回	高齢者施設・病院での対応、嚥下機能・持病を持つ高齢者のアレルギー管理、医療機関での栄養士の役割、食事制限と栄養バランスの調整	A
第5回	現場での実際の対応事例、家族や職員との連携方法、実務上の課題と工夫	B
第6回	食物アレルギーと診断・治療の流れ、治療の基本	B
第7回	食物表示と社会的対応、食品表示制度とアレルゲン表示の実際、外食産業・食品メーカーにおける対応	A
第8回	まとめと振り返り	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	関連する科目で学んだ内容とそのテキストを用いて、特に食物アレルギーに関する項目について事前に復習をしておくこと。	学習合計時間(h)	15
事後学習	学んだ内容と、これまで学んできた他科目とのつながりを含めて、振り返りと課題について考察しておくこと。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーなどで対応する		
オフィスアワー	オムニバス科目のため代表教員のオフィスアワーを示す。金曜日　13：00～14：00　研究室(本館　504号室)		

テキスト	資料等の配布をするためテキストは必要ない
参考文献等	特になし(関連する科目については、それぞれの科目で使用しているテキストを利用して学習すること)
成績評価基準	到達目標に達したことを、各回のレポート内容で評価し、達成しているものを合格とする。
成績評価の方法	レポート等の提出状況と内容(100%)により評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	A：専攻教員、B：外部講師 掲示やお知らせ等はUNIPAやe-mailなどを使用します

科目名	食と地域の未来デザイン	**科目ナンバー**	**AS034007**
担当者	改元　香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	オムニバス
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	本授業では、栄養士として地域社会で活躍するために必要な「社会のニーズを捉える力」「地域資源を活かす力」「未来を構想する力」を身につけることを目指す。学生は各教員が掲げるテーマのもとでゼミ形式の学習を行い、地域課題や社会の動向に関する知識を学ぶとともに、グループワークやディスカッションを通じて解決策を考案する。最終的に成果を発表し、地域と食の未来をデザインする視点を養う。			
授業の到達目標	1．地域社会における食・栄養・健康に関する課題を把握し、背景や要因を多面的に説明できる。 2．栄養士の専門性を基盤に、他分野の視点を取り入れながら地域に役立つ取り組みを企画・提案できる。 3．学んだ内容や考えを整理し、わかりやすく発表・共有することができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○	○	◎	○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション：科目の目的と進め方の説明、社会に求められる栄養士像について考える、各教員のテーマ紹介・グループ分け	A
第2回	テーマ別授業①教員によるテーマ導入講義、事例紹介・課題提示、グループ内ディスカッション	A
第3回	テーマ別授業②課題解決のアイデア検討、グループワーク：情報収集・整理、教員・学生間の質疑応答	A
第4回	テーマ別授業③アイデアの具体化・実現可能性の検討、グループ発表（中間報告）とフィードバック	A
第5回	テーマ別授業④他分野との連携や地域資源の活用について学ぶ、グループで企画案をブラッシュアップ	A
第6回	テーマ別授業⑤成果物（発表資料など）の作成、プレゼンテーション練習、まとめ準備	A
第7回	発表準備、成果発表会、各グループによる発表、質疑応答	A
第8回	成果発表会、各グループによる発表、質疑応答	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	関連する科目で学んだ内容とそのテキストを用いて、事前に復習を踏まえた学習をし、自らの課題を見出しておくこと。	学習合計時間(h)	15
事後学習	演習で身につけたことや、発見した課題について振り返り、必要に応じてさらに書物やインターネットを使用して調べておくこと。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーなどで対応する		
オフィスアワー	オムニバス科目のため代表教員のオフィスアワーを示す。金曜日　13：00～14：00　研究室(本館　505号室)		

テキスト	資料等の配布をするためテキストは必要ない
参考文献等	特になし(関連する科目については、それぞれの科目で使用しているテキストを利用して学習すること)
成績評価基準	到達目標に達したことを、各回のレポート内容で評価し、達成しているものを合格とする。
成績評価の方法	レポート等の提出状況と発表内容(100%)により評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	A：専攻教員 掲示やお知らせ等はUNIPAやe-mailなどを使用します

科目名	キャリアガイダンスⅡ	**科目ナンバー**	**AS033003**
担当者	改元　香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	1単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	―		

授業の概要	講話や研修等の活動を通して自分の生き方を考え、人生の目標を掲げることを目的とする。同時に、地域が抱える様々な課題に積極的に取り組むことで地域の中で働くことの社会的および個人的意義を考えさせる。また、社会人としての仕事への取り組みや必要なマナーなど外部講師等の講話も参考に将来のキャリア形成につなげる。			
授業の到達目標	1. 社会的・職業的自立に向け、基盤となる必要な知識や能力、態度を身につけることができる　2. 自身の希望や適性を把握して人生設計を明確にする能力を身につけることができる			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	○			◎
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	就職活動の流れ、キャリアセンターの役割、キャリタスの利用方法	A・B
第2回	採用試験に関する筆記試験・面接について	A・B
第3回	ビジネスマナー①（服装と身だしなみ、言葉遣いのマナー）	A・B
第4回	ビジネスマナー②（メール・電話のマナー、手紙・送付状・封筒の書き方）	A・B
第5回	就職活動の理解（内定に関連すること）	A・B
第6回	食から発見！自分たちにできるSDG s	A
第7回	食を通して社会に役立つ人材について学ぶ	A・C
第8回	振り返り、まとめ	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	実務経験のある教員が、キャリア形成の参考になるような支援を行う		
事前学習	進路支援ガイド(キャリアセンター発行)の内容をよく読み、就活に活かせるように準備しておく。また、卒業後の進路に関して、情報収集しておく。	学習合計時間(h)	15
事後学習	課題に対し何ができるか考える。授業後にレポート等にまとめる。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	レポート等の課題に対する質問があった場合、オフィスアワーを活用し個別に対応する		
質問・相談方法	オフィスアワーを活用し、個別に対応する		
オフィスアワー	木曜日　14:50～16:20　各講義室		

テキスト	キャリアガイドブック（本学発行、配布予定）
参考文献等	『ビジネスマナーの基本講座』 ANA ラーニング 成美堂出版 2011年　1,000円(税抜き)（ISBN-13: 978-4415035734）
成績評価基準	各講義または活動に出席し、地域が抱える課題に向き合いその課題に対し改善策を考え、レポート等にまとめ提出した者を合格とする。
成績評価の方法	レポート等の提出状況と内容(100%)により評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	A：専攻教員　B：キャリアセンター　C：外部講師 掲示や連絡、課題の配信等はUNIPAやe-mailを使用します。

科目名	データサイエンス演習	**科目ナンバー**	**AA043014**
担当者	村田　和也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	一般教養科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	「データサイエンス演習」では、データサイエンスの基礎とその実践を段階的に学ぶ。現代社会においてデータサイエンスがいかに求められているか、その重要性や有用性について、実際の事例を通して理解を深める。特にAI時代において多様化する事象やデータに対応するため、統計手法や解析方法の基礎を紹介する。前半ではExcelを用いたデータ分析の基礎を学び、後半ではBIツール（Tableau）を用いて課題発見から分析・改善までの一連のプロセスを実践する。さらに、鹿児島市のオープンデータなどの実データを活用した演習を通して、地域課題の発見・分析・提案に取り組む。これらの活動を通じて、データの理解から可視化、意思決定支援までを行う実践的な能力の習得を目指す。			
授業の到達目標	次のような内容を理解し、実際にデータを使って分析することを目的としています。1.データの理解やそのリテラシーの養成。2.データサイエンスを行う流れを理解する。3.データを加工し、可視化するツールを把握する。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	ガイダンス：授業の導入と概要	村田
第2回	エクセルを用いたデータ分析演習（１）データマネジメント	村田
第3回	エクセルを用いたデータ分析演習（２）パレート分析	村田
第4回	エクセルを用いたデータ分析演習（３）クロス集計分析	村田
第5回	エクセルを用いたデータ分析演習（４）度数分布と基本統計量	村田
第6回	エクセルを用いたデータ分析演習（５）相関・予測と回帰分析	村田
第7回	BIツールを用いたデータ分析演習（１）BIツール「Tableau」のインストールと使用方法	村田
第8回	BIツールを用いたデータ分析演習（２）課題発見と絞り込み	村田
第9回	BIツールを用いたデータ分析演習（３）課題における原因の特定	村田
第10回	BIツールを用いたデータ分析演習（４）対策の検討・実行	村田
第11回	BIツールを用いたデータ分析演習（５）改善に向けた分析	村田
第12回	BIツールを用いたデータ分析演習（６）分析の目的・課題の整理	村田
第13回	実データを用いたデータ分析演習（１）地域課題の発見とデータ設計	村田
第14回	実データを用いたデータ分析演習（２）可視化と課題分析	村田
第15回	実データを用いたデータ分析演習（３）分析結果のまとめと提案	村田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	テキスト解析の経験を活かす。		
事前学習	今日の社会におけるデータサイエンスの重要性を理解し、日常的に統計に関心を持つように心がけること。毎回の授業では、理解を助けるための様々な情報を提供するので、考察するなど予習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	毎回の授業については復習を徹底し、理解を深めること。必要に応じ課題等を課す。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応		
オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良		

テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	「日本統計学会公式認定統計検定データサイエンス基礎対応 データアナリティクス基礎」日本統計学会(著) 日本能率協会マネジメントセンター 2023年 ¥2640 978-482072594||「BIツールを使ったデータ分析のポイント」黒木賢一, 下山輝昌(著) 秀和システム 2023年 ¥2640 978-
成績評価基準	
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	AIプログラミング	**科目ナンバー**	**AA044017**
担当者	村田　和也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	一般教養科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	「AIプログラミング」ではプログラミングにおける基本的な内容を扱う。特に、機械学習で利用されるPythonを用いて、プログラミングの考え方を養う。プログラミングの基礎からアプリケーション開発の基礎、AI・機械学習を用いたアプリケーション開発を通して、プログラミングの役割を学び、興味・関心を広げる。また、AIに関する理解も同様に深める。			
授業の到達目標	1. 社会におけるプログラミングの役割や重要性を理解する。2. Javascript等のフロントエンド開発言語でプログラミングの基礎や考え方を習得する。3. WEBデザインを通して自らの手でコーディングをする。4. シナリオ型の対話型AIの開発を通して、その仕組みを学び、オリジナルのAIを開発する。			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連				
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	ガイダンス :講義の流れと概要	村田
第2回	Python基礎演習①：データの種類と計算	村田
第3回	Python基礎演習②：文字列操作とリスト	村田
第4回	Python基礎演習③：ライブラリと分岐処理	村田
第5回	Python基礎演習④：反復処理	村田
第6回	Python基礎演習⑤：関数の作成とライブラリ作成	村田
第7回	Python演習①：アプリケーション作成①	村田
第8回	Python演習②：アプリケーション作成②	村田
第9回	AIプログラミング①：機械学習とライブラリ	村田
第10回	AIプログラミング②：手書き文字予測	村田
第11回	AIプログラミング③：画像認識アプリケーション作成	村田
第12回	AIプログラミング④：APIキーの利用とChatGPTを利用したアプリケーション開発①	村田
第13回	AIプログラミング⑤：APIキーの利用とChatGPTを利用したアプリケーション開発②	村田
第14回	AIプログラミング⑥：APIキーの利用とChatGPTを利用したアプリケーション開発③	村田
第15回	授業の総括	村田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
			○	ー	○

担当教員の実務経験と授業の関連	AIを用いた予測やPython,SPSSを用いた統計処理の経験を活かす。		
事前学習	今日の社会におけるプログラミングの重要性を理解し、日常的にWEBサイト等に関心を持つように心がけること。毎回の授業では、理解を助けるための様々な情報を提供するので、考察するなど予習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	毎回の授業については復習を徹底し、理解を深めること。必要に応じ課題等を課す。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	レポートやプレゼンテーションに対する講評		
質問・相談方法	授業時間内、オフィスアワー、メールによる対応		
オフィスアワー	昼休み(月?木)、事前に連絡があると尚良		

テキスト	特になし。必要な場合は適宜配布する。
参考文献等	講義内にて参照
成績評価基準	
成績評価の方法	授業内課題100% (その他:課題提出における参加度や意欲を加算)
ＧＰＡ基準	
備考	

専 門 科 目

生活福祉専攻

科目名	チームマネジメント	**科目ナンバー**	**S13401**
担当者	川崎 友義		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［人間と社会］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	介護の実践は、介護福祉士のみならず医療や保健等からなる包括的なチームによる実践である。本科目では、介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで活躍するための能力を養う学習をする。具体的には、介護実践におけるチームマネジメントの意義、ケアを展開するためのチームマネジメント、人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント、組織の目標達成のためのチームマネジメントについて理解する学習をする。			
授業の到達目標	1. チームで活躍するために必要な力を養うための、チームマネジメントに関する基礎的な知識を身につける。2. チームワークとは何かを理解し、チームワークに必要なリーダーとフォロワーの役割について説明できる。3. 介護福祉士の多彩なキャリアを知り、自身のキャリアデザインと自己研鑽に必要な姿勢を考えることができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション、介護サービスの特性と求められるマネジメント	川﨑
第2回	チームマネジメントの基本	川﨑
第3回	介護福祉士にチームマネジメントが求められる理由、期待される役割について	川﨑
第4回	介護実践におけるチームマネジメント	川﨑
第5回	ケアを展開するために必要なチームと取り組み	川﨑
第6回	チーム力を高めるためのマネジメント、リーダーシップとフォロワーシップ機能	川﨑
第7回	介護福祉士としてのキャリアと求められる実践力	川﨑
第8回	介護福祉士としてのキャリアデザイン	川﨑
第9回	介護福祉士のキャリア支援や開発、自己研鑽の必要性	川﨑
第10回	自己研鑽に必要な姿勢を考える	川﨑
第11回	介護サービスを支える組織の構造	川﨑
第12回	介護サービスを支える組織の機能と役割	川﨑
第13回	介護サービスを支える組織の管理	川﨑
第14回	地域連携・地域貢献	川﨑
第15回	チームマネジメントを考える	川﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	介護の基本やコミュニケーション技術で学んだことを復習すること	学習合計時間(h)	30
事後学習	学習内容の振り返りを行う。わからない部分については、調べたり質問をしたりする等で理解すること	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー			

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 人間の理解』　介護福祉士養成講座委員会編集　中央法規　2019年　2200円　(ISBN：978?4?8058?5781?8)
参考文献等	特になし
成績評価基準	チームマネジメントの基礎を理解し、チームワークに必要となるリーダーシップとフォロワーシップについて考えることができる。また、介護福祉士としての自身のキャリア形成を考えることができたものは合格とする。
成績評価の方法	授業内の課題(30%)、期末試験(70%)を総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	社会学概論	**科目ナンバー**	**S11301**
担当者	倉重　加代		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	専門科目［人間と社会］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	介護福祉士に求められる「社会の理解」分野において、授業科目「社会と制度の理解」の学習に必要な内容の科目である。本授業では、まず、生活支援や福祉の体系が理解できるようになるために、生活の機能やライフスタイルの変化、家族や組織、地域社会の機能と役割について解説する。さらに、地域共生社会の実現に向けた制度や施策について、その背景や歴史を含めた理解を目指す。			
授業の到達目標	1. 生活の機能やライフスタイルの変化について理解する　2. 生活にかかわる家族や地域社会の機能と役割について理解する　3. 地域共生社会の実現に向けた制度や施策を理解する			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	生活の基本機能や生活への接近方法について理解する	倉重
第2回	社会生活のメカニズムや家庭生活の機能について理解する	倉重
第3回	ライフスタイルの変化を学ぶ	倉重
第4回	少子高齢化と健康寿命について理解する	倉重
第5回	家族の概念やその変容について学ぶ	倉重
第6回	家族の構造や形態、機能とその変化について学び、議論する	倉重
第7回	社会・組織の機能と役割について理解する	倉重
第8回	地域・地域社会の概念や変化、役割について学ぶ	倉重
第9回	地域・地域社会の変化について理解する	倉重
第10回	地域社会における生活支援組織を学ぶ	倉重
第11回	地域福祉の理念や歴史的展開について理解する	倉重
第12回	災害と地域社会について学ぶ	倉重
第13回	地域共生社会を目指す背景や理念、取り組みについて学ぶ	倉重
第14回	地域包括ケアについて理解する	倉重
第15回	授業の総括に関するディスカッションを行う	倉重

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	新聞を読んだりニュースを見たりして、世の中の出来事に関心を持つこと。教科書を読み、意味のわからない用語は調べておくこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	期末試験のために授業内容の総復習をしておくこと。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	講義終了後及びオフィスアワー等で対応する		
オフィスアワー	火曜日16:30～18:00　研究室(西館312号室)		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座２　社会の理解 第2版』　介護福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2022年　2,200円(ISBN978-4-8058-8391-4)
参考文献等	総務省統計局、厚生労働省ホームページ　ほか授業中に紹介
成績評価基準	到達目標1.～3.に記載してある事項を理解していること。
成績評価の方法	期末試験(60%)、提出物(30%)、毎時間のリアクションペーパー(10%)で評価する。(期末試験はレポートで代替する場合がある)
ＧＰＡ基準	
備考	学内他学科・他専攻開放科目

科目名	社会保障論	**科目ナンバー**	**S11401**
担当者	久留須　直也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	専門科目［人間と社会］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	生活の基本機能とライフルサイクルの変化及び家族，社会，組織，地域社会の概念を理解する。その上で，社会保障制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを講義する。			
授業の到達目標	1．社会保障制度の基本的な考え方としくみ，社会保障の現状と課題を理解する。2．人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等，介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解する。			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	高齢者保健福祉の動向について学ぶ	久留須
第2回	高齢者保健福祉に関連する法体系と介護保険制度の創設について学ぶ	久留須
第3回	社会保障の基本的な考え方について学ぶ	久留須
第4回	日本の社会保障制度の発達について学ぶ	久留須
第5回	日本の社会保障のしくみについて学ぶ	久留須
第6回	年金保険制度について学ぶ	久留須
第7回	医療保険制度について学ぶ	久留須
第8回	雇用保険と労働者災害補償保険，各種社会扶助について学ぶ	久留須
第9回	社会保障の財政に関することについて学ぶ	久留須
第10回	個人の権利を守る制度・施策について学ぶ(成年後見制度を除く)	久留須
第11回	成年後見制度について学ぶ	久留須
第12回	保健医療・生活習慣病の予防に関する制度・施策について学ぶ	久留須
第13回	感染症予防・HIV予防に関する制度・施策について学ぶ	久留須
第14回	貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策について学ぶ	久留須
第15回	地域生活を支援する制度・施策について学ぶ	久留須

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連	医療機関における医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)及び介護支援専門員としての実務経験を活かし，医療保険・年金・公的扶助等の社会保障制度について教授する。		
事前学習	次回の授業内容について，教科書等を熟読し，分からない用語は辞書等で調べておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	学習内容の復習をする中で，分からない箇所はテキストや授業資料を見直し，自主学習を行う。自主学習で不明な点があれば担当教員へ質問をする	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前にGoogleclassroomを利用したコメントシートを入力し、課題等の回答を促し，次回の授業で回答する。		
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また毎回入力するコメントシートに質問事項を入力させ，次回の授業時に質問についての解説を行う。		
オフィスアワー	月・水曜日　昼休み(12:20～13:10)研究室(西館314号室)		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 2 社会の理解(第2版)』　介護福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2022年　2,200円(税別)　ISBN 978-4-8058-8391-4　『七訂　介護福祉用語辞典』　中央法規出版編集部編　中央法規出版　2015年　2,600円(税別)　ISBN 978-4-8058-5094-7
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること。
成績評価の方法	【本試験・再試験・追試験時の評価方法】授業への参加態度(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する。ただし，状況により評価をレポートで代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目第1回目の講義に講師作成授業資料を配布するため、毎時間持参する。Googleclassを利用してコメントシートを作成する。

科目名	住環境と福祉	**科目ナンバー**	**S12302**
担当者	福田　真樹子		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［人間と社会］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	選択必修：介護福祉士(★4 単位)		

授業の概要	介護予防・在宅介護が施策で進められる中、「住宅」の重要性は増す一方である。授業を通して、従来の住宅の問題点を理解し、住環境への幅広い考察力を養うことを目的に講義する。介護業務において介護保険を利用した住宅改修計画に有効な福祉住環境コーディネーターの資格に関する科目でもある。			
授業の到達目標	1. 鹿児島県の高齢者の住宅事情について学び、住宅の課題を理解する。2. 生活行動と生活空間の関係について学び、住宅における介護予防と住宅改修の要点を理解する。3. 介護保険における住宅改修の要点について理解する。4. グループワークを通じて、バリアフリーの現状と課題を把握する。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	・地域性について・最近の住宅環境の動向について	福田
第2回	・介護実習Ⅲの目標の理解・空間寸法の把握－記録用紙の提出	福田
第3回	・カラーユニバーサルデザイン・バリアフリーデザインとは	福田
第4回	・寸法に関するフォローアップ・木質化の学校について	福田
第5回	・様々な木材の使われ方・木造住宅の利点	福田
第6回	・鹿児島の高齢化率・伝統的な住まいと役割	福田
第7回	・ICTと高齢者住宅について・近年の特老施設	福田
第8回	・自立支援のための住居改善・住まいの近代化・シングルの住まいについて配慮すべきこと	福田
第9回	・住まいの構造と構法・木造住宅の部材名称	福田
第10回	・小テスト・住まいの熱環境	福田
第11回	・福祉住環境コーディネーター試験過去問・シングルのための住まい	福田
第12回	・高齢者を中心にした町づくりの可能性・新タイプの高齢者住宅	福田
第13回	・アレルギー、シックハウス症候群・住まいの空気環境と湿気	福田
第14回	・鹿児島県の高齢化の現状・コンパクトシティとは	福田
第15回	・鹿児島県の都市計画と高齢者・建築基準法と住空間・小テスト	福田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	・まちづくりの視点やいろんな暮らし方、コミュニティのあり方などを話せればと思います。・現在、住宅・病院などの設計や工事現場の監理を担当しています。　設計監理の体験を通して、人が住む空間のポイントとなること、必要となることを楽しく伝えていきたいと考えています。		
事前学習	・意味のわからない用語を調べておくこと。	学習合計時間(h)	15
事後学習	・2回の小テストを行う。・期末試験のために総復習をすること。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	・講義の中で小テストや定期試験の要点を解説する。・課題の返却時にも個別で指導を行う。・求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	・授業の前後で対応する。		
オフィスアワー	火曜日　10:20～10：35　講義室(西館203号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『自宅でない在宅－高齢者の生活空間論』　外山義　医学書院　2003年　(ISBN：978-4-260-33291-0)『生活支援技術Ⅰ』　介護福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2019年　2200円　(ISBN： 978-4-8058-5766-3)
成績評価基準	・バリアフリーの現状と課題を理解し、室内環境調整の方法を理解する。・快適な住居について、家だけでなく町という広い範囲からの視点を持つ。・私語が多いなど、授業態度が悪い場合は評価減。
成績評価の方法	・小テスト(20%)、期末試験(80%)を総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	介護の基本Ⅲ	**科目ナンバー**	**S11302**
担当者	中森　美恵子		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士　　選択必修：介護保険実務士		

授業の概要	・介護福祉実践におけるチームケアの重要性を理解するために、様々な場面での事例を基に多職種協働や地域連携の重要性について説明やロールプレイなどの演習を取り入れて講義を行う。・「尊厳」を支える介護について、実習の体験や事例をもとに、介護福祉士としてどのような態度、視点が必要かを理解できるように講義する。			
授業の到達目標	1. 介護福祉の現場におけるチームケアの重要性が理解できる。　2. 尊厳を支える介護とは何か具体的に理解できる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	本科目の意義と目的　介護福祉士について考える	中森
第2回	介護福祉の歴史的変遷について学ぶ	中森
第3回	介護福祉士福祉を取り巻く制度について理解を深める	中森
第4回	社会福祉士及び介護福祉士法について学ぶ	中森
第5回	介護福祉士の職業倫理について理解を深める　連携の方法(報告・連絡・相談)	中森
第6回	介護福祉と社会資源について学ぶ （多職種連携とは)	中森
第7回	施設における多職種連携の実際について理解する	中森
第8回	在宅における多職種連携の実際について学ぶ(利用者主体に考える)	中森
第9回	地域で生活するための地域連携の実際について学ぶ	中森
第10回	地域で生活を開始する場合の地域連携の実際について学ぶ	中森
第11回	尊厳を支える介護の理解を深める(関連法令の理解)	中森
第12回	尊厳を支える介護の理解を深める(QOLとノーマライゼーション)	中森
第13回	自立を支える介護について理解を深める(共生社会の実現)	中森
第14回	自立を支える介護について理解を深める(自律)	中森
第15回	介護の基本とは何かを考える	中森

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士の実務経験を活かし、介護の現場及び必要な視点について教授する。		
事前学習	授業の予習(テキストを読む。わからない語句を調べておく)	学習合計時間(h)	30
事後学習	学習内容を振り返りをする。わからなかった部分は、調べる。質問を行い解決する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	・前回の学習内容についての小テストの実施。・必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	火曜日　15:00～16:30　研究室(西館316号室)		

テキスト	『最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版　2022年(ISBN　978-4-8058-8392-1)　2,420円(税込)　『最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版　2022年(ISBN　978-8058-
参考文献等	『七訂介護福祉用語辞典』中央法規出版編集部編集　中央法規　2015年(ISBN　978-4-8058-5094-7)　2,600円(税別)
成績評価基準	・チームケアの重要性と多職種連携について理解している。　・尊厳を支える介護とは何か説明できる。　・関連する法律や施策について理解している。
成績評価の方法	定期試験(80%)、小テスト(20%)で総合的に判定する。但しレポートで代替する場合がある
ＧＰＡ基準	
備考	単位互換［KRICE］提供科目

科目名	介護の基本Ⅳ	**科目ナンバー**	**S11403**
担当者	中井　康貴		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	必修
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士　　選択必修：介護保険実務士		

授業の概要	◆高齢者や障がい者の心身の状況に応じた生活のあり方や工夫を事例や教材を基に演習を交えながら講義を進める。◆介護サービス提供時に起こる、リスクについて予防方法や対策方法（リスクマネジメント）について講義する。			
授業の到達目標	1．生活支援の内容と意義が理解できる。　2．介護における安全の確保とリスクマネジメントが理解できる。3．事例を通して、グループワークでティスカッションを行い、リスクマネジメントの理解を深める。			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	本科目の意義と目的 生活ニーズと生活環境の重要性	中井
第2回	さまざまな生活支援　ICFの視点から生活支援を考える	中井
第3回	介護福祉職が行う生活支援とは	中井
第4回	専門的支援　介護予防	中井
第5回	専門的支援　生活の継続の視点　　QOLを高める支援	中井
第6回	専門的支援　終末期	中井
第7回	専門的支援　相談援助　　家族支援	中井
第8回	介護における安全の確保　　安全の重要性とリスクマネジメント	中井
第9回	介護における安全の確保　　事故防止と安全対策	中井
第10回	介護における安全の確保　　高齢者虐待と身体拘束禁止	中井
第11回	介護における安全の確保　　感染対策	中井
第12回	介護における安全の確保　　感染予防と食中毒	中井
第13回	介護における安全の確保 防災対策	中井
第14回	介護における安全の確保 防災対策	中井
第15回	介護福祉職と生活支援　科目まとめ	中井

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かし、介護福祉士としての基本的態度について教授する。		
事前学習	授業の予習(テキストを読む。わからない語句を調べておく)	学習合計時間(h)	30
事後学習	内容の復習、学習内容と介護実習での体験に基づいたレポート作成の課題を課す	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	・内容に関連した小テストの実施。・課題については、個別に対応する。		
質問・相談方法	授業中、メールで対応する。		
オフィスアワー	授業時間外の対応について、オフィスアワーは初回授業時に示。基本はメール対応。メールアドレス：y-nakai@soc.iuk.ac.jp		

テキスト	『最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」』第3版　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版　2026年(ISBN　978-4-8243-0339-4)　2,620円(税込)
参考文献等	
成績評価基準	・高齢者、障がい者の生活について理解し考えを述べることができる。・介護におけるリスクマネジメントについて理解している。
成績評価の方法	期末テスト(70%)、小テストと課題(30%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	生活と地域福祉	**科目ナンバー**	**S11402**
担当者	中森　美恵子		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士　　選択必修(▲4単位)：ピアヘルパー認定試験受験資格		

授業の概要	地域で生活する中での介護福祉士の役割と支援の実際について学ぶ。地域ケア会議の役割と機能を理解し、他職種連携及び介護福祉士の専門性を持った役割やチームアプローチの在り方についてロールプレイなども通じて理解できるようにする。			
授業の到達目標	1. 介護福祉士としての福祉・援助のとらえ方を理解する。　2. 地域ケア会議の役割と機能について理解する。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	地域における介護福祉士の役割について学ぶ	中森
第2回	利用者の生活の質に影響を及ぼす福祉専門職の自己覚知の重要性について理解する	中森
第3回	福祉専門職の自己覚知の重要性について理解する①	中森
第4回	福祉専門職の自己覚知の重要性について理解する②	中森
第5回	福祉専門職の自己覚知の重要性について理解する③	中森
第6回	チームのコミュニケーションについて理解する①	中森
第7回	チームのコミュニケーションについて理解する②	中森
第8回	地域ケア介護とは何か理解する	中森
第9回	地域ケア会議の役割と機能について理解する	中森
第10回	地域ケア会議の方法について理解する	中森
第11回	地域ケア会議の方法・実際の取り組みについて理解する	中森
第12回	地域ケア会議演習① 地域課題の発見	中森
第13回	地域ケア会議演習② ロールプレイ	中森
第14回	地域ケア会議演習③ ロールプレイ振り返り	中森
第15回	まとめ/地域で暮らすということの理解	中森

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かして、介護支援の専門的展開について教授する		
事前学習	ロールプレイについては、事前に自身の役割や専門性について事前学習を行っておくこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	学習内容の復習をする中で，分からない箇所は授業資料を見直し，自主学習を行う。自主学習で不明な点があれば担当教員へ質問をする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合，求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	水曜日　12：00～13：30　研究室(西館316号室)		

テキスト	特になし
参考文献等	『地域ケア会議コーディネートブック』高室成幸　第一法規株式会社　2019年 『最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版　2022年（ISBN978-4-8058-8393-8）
成績評価基準	到達目標に掲げた項目をおおよそ理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度・出席状況(50%)，レポート(50%)で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	コミュニケーション演習	**科目ナンバー**	**S13301**
担当者	久留須　直也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	オムニバス
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	人間関係とコミュニケーションで学ぶコミュニケーションの基礎的な知識を基盤に、本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を講義・演習する。また、介護におけるチームのコミュニケーションについて、情報共有の意義、活用、管理などに関する基本知識・技術を講義・演習する。			
授業の到達目標	1. 本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を身につける。 2. 家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を身につける。 3. 障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術を身につける。 4. 情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解する。			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション／介護におけるコミュニケーションの基本	篠原
第2回	話を聴く技術	篠原
第3回	家族の意向の表出と気持ちの理解	篠原
第4回	情報共有	篠原
第5回	本人と家族の意向を調整する技術	篠原
第6回	視覚障害がある人とのコミュニケーション	篠原
第7回	聴覚障害がある人とのコミュニケーション	篠原
第8回	言語障害がある人とのコミュニケーション	篠原
第9回	認知・知的障害がある人とのコミュニケーション	篠原
第10回	精神障害がある人とのコミュニケーション	篠原
第11回	チームのコミュニケーションとは	久留須
第12回	報告・連絡・相談の技術	久留須
第13回	記録の技術	久留須
第14回	会議・議事進行・説明の技術	久留須
第15回	総括	久留須

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連	医療機関および福祉施設での臨床心理士としての実務経験を活かし、高齢者や障害者へのコミュニケーション方法やチームでのコミュニケーションについて教授する。(篠原)　医療機関における医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)及び介護支援専門員としての実務経験を活かし、チームに関連するコミュニケーションについて教授する。(久留須)		
事前学習	教科書の指定されたページまでを熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	配布された資料をレジュメと照合しながら整理する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前にコメントシートを配布し、課題等の回答を促し、次回の授業で回答する。		
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また、毎回配布するコメントシートに質問事項を自由に記入できるようにし、コメントを添えて次回の授業時に返却する。		
オフィスアワー	篠原：木曜日　12：30～14：20　研究室(西館304号室)久留須：月・水曜日　昼休み（12:20～13:10）研究室（西館314号室）		

テキスト	『コミュニケーション技術　第2版』　介護福祉士養成講座編集委員会(編集)　中央法規出版　2022年　2,200円(税別)(ISBN978-4805883945)
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目をおおよそ理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する。 なお、篠原70点、久留須30点の計100点満点で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	生活支援技術C	科目ナンバー	S11303
担当者	浜崎　眞美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［介護］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修：介護福祉士　　選択必修：介護保険実務士		

授業の概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について明らかにする。生活支援技術Cでは、自立に向けた入浴・清潔保持の介護と難病に応じた介護が主な内容となる。効果的な演習となるために、お互いに介護者役、利用者役を担いながら進める。心身の状況に応じた介護が実践できるために、こころとからだのしくみ（生活支援）で学んだことを深めることができるようにする。			
授業の到達目標	1. 実践の根拠を理解し、尊厳の保持と自立支援のための入浴・清潔保持の介護が適切に実践できる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	自立した入浴・清潔保持とは入浴の可否と清潔にする方法の選択	浜崎
第2回	入浴の介助（衣服の着脱①）	中森
第3回	入浴の介助（衣服の着脱②）	中森
第4回	入浴の介助（浴室内の移動介助）	中森
第5回	入浴の介助（個浴・特浴の移動介助）	中森
第6回	自立に向けた入浴の介護（洗髪・整髪）	中森
第7回	清潔保持の介助（部分清拭）	浜崎
第8回	清潔保持の介助（陰部洗浄）	浜崎
第9回	清潔保持の介助（手浴・足浴）	浜崎
第10回	清潔保持の介助（洗髪）	浜崎
第11回	入浴・清潔保持における多職種連携の必要性	浜崎
第12回	入浴の介助（個浴：応用）障害に応じた生活支援技術【難病】	中森
第13回	入浴の介助（特殊浴槽を使用しての入浴：応用）障害に応じた生活支援技術【難病】	中森
第14回	清潔保持の介助（全身清拭）障害に応じた生活支援技術【難病】	浜崎
第15回	自立に向けた入浴・清潔保持の介護（実技試験）	浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士及び看護師としての実務経験を活かし、生活支援技術の基本的な技能が身につくように教授する。		
事前学習	・「こころとからだのしくみ（生活支援）」「生活支援技術A」で学んだことを復習し、不明な点は質問すること。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・実施した演習内容について、繰り返し練習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	中森：木曜日12：20～13：10研究室（西館316号室） 浜崎：金曜日12：20～16：00研究室(西館315号室)		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規 2022年　2200円(税別)（ISBN：978－4－8058－8395-2)『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規　2022年　2200円(税別)
参考文献等	『七訂　介護福祉用語辞典』　中央法規出版編集部編　中央法規　2015年　2600円(税別)（ＩＳＢＮ：978－4－8058－5094－7）
成績評価基準	入浴・清潔保持の介護について、利用者の心身の状況に応じた具体的援助内容を理解すること。障害に応じた生活支援技術の基本を理解すること。
成績評価の方法	実技試験とレポート(30%)、期末試験(70%)で総合的に判定する。状況によりレポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	生活支援技術D	**科目ナンバー**	**S11604**
担当者	浜崎　眞美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	オムニバス
免許・資格情報	必修：介護福祉士　　選択必修：介護保険実務士		

授業の概要	尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について明らかにする。生活支援技術Dでは、応急手当についてと災害時における生活支援、終末期の介護、障害に応じた介護が主な内容となる。心身の状況に応じた介護が実践できるために、こころとからだのしくみ（生活支援）で学んだことを深めることができるようにする。			
授業の到達目標	1. 人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援やチームケアの実践について理解できる。2. 様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術を理解できる。3. 障害に応じた生活支援技術の基本を知り、展開することができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	応急手当について	浜崎
第2回	応急手当の実際	浜崎
第3回	障害に応じた生活支援技術（視覚障害・聴覚・言語障害及び重複障害（盲ろう）に応じた介護）	浜崎
第4回	障害に応じた生活支援技術（重症心身障害に応じた介護）	中森
第5回	障害に応じた生活支援技術（知的障害）	中森
第6回	障害に応じた生活支援技術（高次脳機能障害）	中森
第7回	人生の最終段階の意義と介護福祉士の役割／終末期ケアの意味	浜崎
第8回	終末期におけるアセスメントの視点／死に対する心理の理解	浜崎
第9回	危篤時や臨終期の観察ポイントと介護の実際／家族・遺族へのケア	浜崎
第10回	死後のケア(確認)	浜崎
第11回	死後のケア(演習)／多職種の役割と協働	浜崎
第12回	障害に応じた生活支援技術（精神障害に応じた介護①）	中森
第13回	障害に応じた生活支援技術（精神障害に応じた介護②）	中森
第14回	災害時における生活の変化と介護福祉士による支援	中森
第15回	災害時における生活支援の実際	中森

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士及び看護師としての実務経験を活かし、生活支援技術の基本的な技能が身につくように教授する。		
事前学習	・「こころとからだのしくみ（生活支援）」「生活支援技術A」で学んだ内容について、事前に復習をすること。	学習合計時間(h)	15
事後学習	・実施した演習内容について、繰り返し練習をすること。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	前期：月曜日　16：30～17:00　研究室(西館315号室)　後期：火曜日　12：30～13:00　研究室(西館315号室)		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座生活支援技術Ⅰ』第2版介護福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規　2022年　2200円（税別）（ISBN978－4－8058－8395-2）『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規　2022年　2200円(税別)
参考文献等	『最新・介護福祉士養成講座　こころとからだのしくみ』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規　2022年　2600円(税別)（ＩＳＢＮ：978－4－8058－8400－3)
成績評価基準	人生の最終段階にある人とその家族を支援について理解すること。応急手当や災害時の生活支援の基本を理解すること。障害に応じた生活支援技術の基本を理解すること。
成績評価の方法	レポート（30%）、期末試験（70%）で総合的に判定する。状況によりレポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	生活支援技術（食）	**科目ナンバー**	**S11305**
担当者	今村　純子		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	オムニバス
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	尊厳の保持の観点からどのような状態であってもその人の人格を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について伝授する。			
授業の到達目標	テキストによる復習。実習時にはレポート作成。日々調理に携わり、技術等の向上に努め、自身の食生活の改善にも繋げる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	食事の意義、食生活の基本知識、衛生管理(食中毒予防)	今村
第2回	調理操作の基本理論(実習)	今村
第3回	高齢者の身体機能と栄養(口腔支援と水分管理)(実習)	今村
第4回	障害のある人の栄養と食生活(安全で的確な介護食)(実習)	今村
第5回	治療食、生活習慣病の配慮	今村
第6回	家事支援における調理支援(自立を支え楽しい食を支える)（実習）	今村
第7回	ひとり暮らしに便利な調理法、災害時の支援食(実習)	今村
第8回	調理上の様々な工夫や活用(有り合わせの食材を用いての献立作成・実技)(個人実習)	今村
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストによる予習。実習時にはレポート作成。日々調理に携わり、技術等の向上に努め、自身の食生活の改善にも繋げる	学習合計時間(h)	30
事後学習	テキストによる予習及び復習。実習時には事前・事後レポート作成　　日々調理に携わり、技術等の向上に努め、自身の食生活の改善にも繋げる	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、授業内で課題の要点に触れるとともに、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフイスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	金曜日　授業の前後　講義室		

テキスト	『生活支援技術Ⅰ』　介護福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規出版 2019　2,200円(税抜き)　 　　『新版 基礎から学ぶビジュアルクッキング』　改訂第9版 教育図書㈱　720円(税抜き)
参考文献等	文部科学省「日本食品標準成分表2020年版(八訂)」
成績評価基準	基本的な食事介護の知識・技術を理解すること。
成績評価の方法	(食)　レポート(30%) 調理実習(30%) 定期試験(30%) 受講態度(10%)の総合評価
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	生活支援技術（家事）	科目ナンバー	S11605
担当者	淺海　真弓		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［介護］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	生活の継続性を支援する観点から、対象者が家事を自立的に行うことを支援するための基礎的知識について講義する。また、演習を通して、洗濯や裁縫などの具体的な家事支援の技術について学ぶ。			
授業の到達目標	1. 自立生活を支える家事の意義について理解できる。　2. 家事支援の基本となる知識と技術を身につける。　3. 衣服の性質や機能を理解し、衣服の選択や管理の場面で適切に対応できるようになる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能介護福祉及び医療・福祉事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	自立した家事とは／自立に向けた家事の介護1（掃除・ごみ捨て、買い物）	淺海
第2回	自立に向けた家事の介護2（家庭経営、家計の管理）／家事の介護における多職種との連携	淺海
第3回	衣服の素材（繊維の種類と性質）	淺海
第4回	衣服の管理1（洗濯、漂白）	淺海
第5回	衣服の管理2（しみ抜き、保管）	淺海
第6回	衣服の機能1（体温調節、快適性）	淺海
第7回	衣服の機能2（動きやすさ、安全性）	淺海
第8回	裁縫の基礎・衣服の補修／高齢者および障害のある人の衣服の工夫	淺海
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○			○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストや配布資料を読んで予習する。わからないことがあれば、参考文献等で調べておくこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業の要点を整理して復習する。課題の指示がある場合は、文献等で調べて作成する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	ワークシート、課題、小テストそれぞれの返却日に、授業の中で要点を解説する。また、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後に対応する。		
オフィスアワー			

テキスト	『最新介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ(第2版)』　介護福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2022年　2,200円(税抜き）（ISBN：978-4-8058-8395-2)
参考文献等	『ビジュアル衣生活論』　岡田宣子編著　建帛社　2010年　2,500円(税抜き）（ISBN：978-4-7679-1445-9）
成績評価基準	衣生活を中心とした家事支援における基本的な知識・技術を習得すること。
成績評価の方法	ワークシート・課題(40%)、小テスト(40%)、授業への参加態度(20%) で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	介護過程Ⅲ		科目ナンバー	S11306
担当者	中森　美恵子			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	演習			
配当年次	2年	科目群	専門科目［介護］	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1単位	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：介護福祉士			

授業の概要	・他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスが提供できるために行う介護過程の展開を、介護実習や事例課題を個人およびグループで演習を行い作成ができるように講義を進める。・介護実習要項で定められた書式について、正確に理解し使用できるように講義する。			
授業の到達目標	1. 一連の介護過程の展開ができる。　2. 利用者の「尊厳の保持」「自立支援」を踏まえた、介護計画を作成することができる。　3. 定められた書式の内容を正しく理解し、記入することができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	介護過程の一連の展開について、介護過程Ⅱを振り返り。 介護実習Ⅱの介護過程振り返り（情報取集）	中森
第2回	介護実習Ⅱのアセスメント振り返り（情報収集）	中森
第3回	介護実習Ⅱのアセスメント振り返り（解釈・関連付け・統合化）	中森
第4回	介護実習Ⅱのアセスメント振り返り（解釈・関連付け・統合化と課題の明確化）	中森
第5回	事例に基づいた介護過程の展開(介護計画の作成）	中森
第6回	事例に基づいた介護過程の展開(介護計画の記録方法）	中森
第7回	事例に基づいた介護過程の展開(介護内容・方法の考え方）	中森
第8回	事例に基づいた介護過程の展開(介護内容の記録方法①基礎）	中森
第9回	事例に基づいた介護過程の展開(介護内容の記録方法②表現の工夫）	中森
第10回	事例に基づいた介護過程の展開(介護内容の記録方法③具体的な記述）	中森
第11回	事例に基づいた介護過程の展開(実施についての考え方）	中森
第12回	事例に基づいた介護過程の展開(実施の記録方法）	中森
第13回	事例に基づいた介護過程の展開(評価の考え方）	中森
第14回	事例に基づいた介護過程の展開(評価の記録方法）	中森
第15回	事例に基づいた介護過程の展開　まとめ	中森

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かして、介護支援の専門的展開について教授する		
事前学習	授業の予習(テキストを読む。概論について理解する。プリントを整理する)	学習合計時間(h)	15
事後学習	講義内容の部分のプリントの整理。加筆・修正をする。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	・学習した内容については、必ずプリントを仕上げておく。求めに応じて個別に多対応する。		
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	木曜日　15:00～16:30　研究室(西館316号室)		

テキスト	・『最新介護福祉士養成講座9「介護過程」』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版　2022年(ISBN　978-4-8058-8398-3)　2,420円(税込)
参考文献等	・『最新介護福祉士養成講座9「介護過程」』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版　2022年(ISBN　978-4-8058-8398-3)　2,420円(税込)　・介護実習要項(令和7年度入学生用)
成績評価基準	・一連の介護過程の展開を利用者主体で作成することができる。
成績評価の方法	事例課題への取り組み(90%)、授業出席・演習参加態度（10%）で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	介護過程Ⅳ	**科目ナンバー**	**S11405**
担当者	中森　美恵子		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	・他の科目で学習した知識や技術を統合して、より専門的な介護過程を展開を介護実習Ⅳで取り組むことができるように、具体的な事例で繰り返し演習を中心に講義を進める。・介護実習において介護過程を展開し実践した結果についてまとめ、相互に発表をすることで、自分の視点の把握と知識および技術が身につくことができるように講義する。			
授業の到達目標	1. 計画した介護を利用者の状況に応じて適切に展開できる　2. 介護過程において評価とは何か理解し、計画に沿って実施した介護を適切に評価することができる			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	本科目の意義と目的　介護実習Ⅲの事例の整理をする	中森
第2回	介護実習Ⅲの事例の振り返り（個人・グループ）	中森
第3回	演習　障害者の事例の展開をする （情報収集）	中森
第4回	演習　障害者の事例の展開をする （情報収集、解釈・関連付け・統合化）	中森
第5回	演習　障害者の事例の展開をする （課題の明確化）	中森
第6回	演習　障害者の事例の展開をする （「課題の明確化」の修正）	中森
第7回	演習　障害者の事例の展開をする （計画の作成の考え方）	中森
第8回	演習　障害者の事例の展開をする （計画の作成）	中森
第9回	演習　障害者の事例に展開をする（実施の記録方法） カンファレンスの進め方を学ぶ	中森
第10回	演習　障害者の事例の展開をする （実施・評価）	中森
第11回	介護実習Ⅳでの介護過程の整理をする	中森
第12回	介護実習Ⅳのまとめをする	中森
第13回	介護過程の展開の実際　発表会	中森
第14回	介護過程の展開の実際　発表会	中森
第15回	介護過程の展開とチームアプローチの重要性について理解する	中森

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かし、介護の実践的展開について教授する。		
事前学習	授業の予習(テキストを読む。概論について理解する。作成しているプリントを整理する。)	学習合計時間(h)	15
事後学習	講義内容の部分を加筆・修正を行い整理する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	授業中の個別指導で対応する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日　12:20～14:30　研究室(西館316号室)		

テキスト	・『最新介護福祉士養成講座9「介護過程」』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版　2022年(ISBN　978-4-8058-8398-3)　2,420円(税込)
参考文献等	・『最新介護福祉士養成講座9「介護過程」』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規出版　2022年(ISBN　978-4-8058-8398-3)　2,420円(税込)　・介護実習要項(令和4年度入学生用)
成績評価基準	1.利用者の状況に応じて介護計画を作成している。　2. 介護過程について理解している。
成績評価の方法	課題(発表資料)の成績(70%)、課題(レポート)(30%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	ケアマネジメント	**科目ナンバー**	**S12303**
担当者	久留須　直也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	オムニバス
免許・資格情報	必修：介護福祉士　　選択必修：介護保険実務士		

授業の概要	介護保険制度とケアマネジメントの関係性及びケアマネジャーの立案するケアプラン（本科目では「施設サービス計画」に特化する）と介護計画との関係や介護福祉士の役割と連携の方法、サービス担当者会議の実際を講義する。その上で、実際にケアプランの立案演習をする。（久留須）様々な利用者の状態の事例を用い、利用者の状態に応じた介護過程の展開の演習で学ぶ。（中森）			
授業の到達目標	１．介護保険制度とケアマネジメントの関係性を理解する。２．施設サービス計画書の作成方法を身につける。　３．サービス担当者会議について理解する。４．利用者の状態に応じた介護過程を理解し展開することができるようになる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	介護保険制度とケアマネジメントの関係・ケアマネジメントとは	久留須
第2回	認知症Lv・ADLLv・課題整理総括表・施設サービス計画書の記入方法	久留須
第3回	課題整理総括表・施設サービス計画書の確認（事例1）	久留須
第4回	課題整理総括表の作成①（現在～備考）（事例2）	久留須
第5回	課題整理総括表の作成②（見通し～優先順位）（事例2）	久留須
第6回	施設サービス計画書の作成①（第1表）（事例2）	久留須
第7回	施設サービス計画書の作成②（第2表）（事例2）	久留須
第8回	施設サービス計画書の作成③（第2表の提出）（事例2）	久留須
第9回	サービス担当者会議①	久留須
第10回	サービス担当者会議②・まとめ	久留須
第11回	状態に応じた介護過程の展開①　アセスメント（事例１）	中森
第12回	状態に応じた介護過程の展開②　計画の立案（事例１）	中森
第13回	状態に応じた介護過程の展開①　アセスメント（事例２）	中森
第14回	状態に応じた介護過程の展開②　多職種連携（施設サービスとの関係）（事例２）	中森
第15回	状態に応じた介護過程の展開③　計画の立案（事例２）	中森

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	医療機関における医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)及び介護支援専門員としての実務経験を活かし、多様な事例を示し、ケアマネジメントについて教授する。(久留須)介護福祉士の実務経験を活かし、介護過程の展開について教授する。(中森)		
事前学習	次回の授業内容について，教科書等を熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく。	学習合計時間(h)	15
事後学習	学習内容の復習をする中で，分からない箇所はテキストや授業資料を見直し，自主学習を行う。自主学習で不明な点があれば担当教員へ質問をする。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前にGoogleclassroomを利用したコメントシートを入力し、課題等の回答を促し，次回の授業で回答する。		
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また毎回入力するコメントシートに質問事項を入力させ，次回の授業時に質問についての解説を行う。		
オフィスアワー	中森：水曜日　11:00～15:30　研究室(西館316号室)、久留須：月・水曜日　昼休み（12:20～13:10）研究室（西館314号室）		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座　介護過程(第2版)』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規　2022年　2200円(税別)　ISBN：978-4-8058-8398-3
参考文献等	『五訂　介護支援専門員のためのケアプラン作成事例集』　後藤佳苗編著　中央法規出版　2020年　2,800円(税別)　ISBN 978-4-8058-8212-2
成績評価基準	到達目標に掲げた項目をおおよそ理解すること。
成績評価の方法	久留須：授業への参加態度（20%）と4回の提出物（各20%：計80%）で総合的に評価する。ただし、状況により評価をレポートで代替する場合がある。なお、久留須70点、中森30点の合計100点満点で評価する。中森：アセスメント表、介護計画書の提出（80%）授業への参加態度（20%）で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	第1回目の講義に講師作成授業資料を配布するため、毎時間持参する。Googleclassを利用してコメントシート作成する。

科目名	介護総合演習Ⅲ	**科目ナンバー**	**S12304**
担当者	浜崎　眞美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	オムニバス
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	介護総合演習は，実習と組み合わせての学習とする。介護実習前の介護技術の確認や施設等の理解及びオリエンテーション，実習後の反省会等を通じて，介護福祉士に必要な知識や技術，介護過程の展開能力等を学内での学びと実習での学びとを総合することで深めることができるように授業を進める。また，学生個人の学習到達状況に応じた学習の機会であるように工夫する。			
授業の到達目標	1．実習の目的を理解し，実習に必要な事前準備ができる。　2．実習後の振り返りを通じて実習での学びをまとめることができる。　3．各種の福祉用具を知り，使用方法を理解できる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	介護総合演習Ⅲの目的，実習の意義・目的・目標実習に関する諸注意(実習の心得，姿勢・身だしなみ・感染予防等)	久留須
第2回	介護実習Ⅱの評価・プロセスレコード	浜崎
第3回	介護実習Ⅱの評価・プロセスレコード	浜崎
第4回	介護実習Ⅲの配置の発表(変更になる可能性あり)，介護実習の具体的目標・方法関係書類の配布・記入方法・提出及び回収方法(個人票，出席表，実習計画，生活支援技術チェック，個人情報誓約書，実習評価表，自己評価表)	久留須
第5回	実習先の概要把握(事前学習)	浜崎
第6回	「受け持ち利用者希望表」の記入方法→(指導は巡回担当教員)，フェイスシート，アセスメント表，介護計画書について(記入方法は介護過程で)検便容器の配布・説明(変更になる可能性あり)，介護実習計画(目標含む)の作成→(指導は巡回担当教員)	中森
第7回	事前訪問(6月上旬)について(アポ取り)，交通手段，所要時間確認，事前訪問報告書について	中森
第8回	「住施設機器や福祉用具について」記入方法	久留須
第9回	介護実習普及センター見学	久留須
第10回	介護実習普及センター見学	久留須
第11回	＜事前訪問後＞学生と巡回担当教員との打ち合わせ→(指導は巡回担当教員)事前訪問報告書提出，お礼状の準備，実習反省会について，服装チェック	久留須
第12回	前半(10日間)終了後の介護過程の指導1	中森
第13回	前半(10日間)終了後の介護過程の指導2	中森
第14回	後半(5日間)開始前の介護過程の指導	中森
第15回	＜介護実習Ⅲ終了後＞実習反省会	久留須・浜崎・中森

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○		○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士や看護師，社会福祉士の実務経験を活かし，介護実習の方法など具体的に教授する。		
事前学習	テキストを用いた予習，これまでの事前訪問記録の確認をする	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習で学んだことを自身でまとめ，反省会に向けた準備をするテキストやこれまでの配布資料を基に復習をする	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合，求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	久留須：月・水曜日　昼休み(12:20～13:10)研究室(西館314号室)浜崎：木曜日　12：20～15：00　研究室(西館315号室)中森：木曜日　15：00～16：30　研究室(西館316号室)		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』(第2版)　介護福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規　2022年　2,200円(税別)　ISBN：978-4-8058-8399-0
参考文献等	『介護実習要項』『最新・介護福祉士養成講座　介護過程(第2版)』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規　2022年　2200円(税別)　ISBN：978-4-8058-8398-3
成績評価基準	・介護実習の目的を理解し，実習に必要な事前準備の必要性が理解できること。　・実習後の振り返りにより，実習での学びをまとめることができること。
成績評価の方法	介護過程の展開(アセスメント～計画の立案：80%)，介護実習普及センター見学レポート（20%)で評価する。ただし，状況により評価をレポートで代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	実習施設とのやり取りの中で，講義の順番に変更が生じる可能性がある。Googleclassを利用して資料を配布することもある。

科目名	介護総合演習Ⅳ	**科目ナンバー**	**S12402**
担当者	久留須　直也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	オムニバス
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	介護総合演習は，実習と組み合わせての学習とする。介護実習前の介護技術の確認や施設等の理解及びオリエンテーション，実習後の反省会等を通じて，介護福祉士に必要な知識や技術，介護過程の展開能力等を学内での学びと実習での学びとを総合することで深めることができるように授業を進める。また，学生個人の学習到達状況に応じた学習の機会であるように工夫する。			
授業の到達目標	1．実習の目的を理解し，実習に必要な事前準備ができる。　2．実習後の振り返りを通じて実習での学びをまとめることができる。　3．専門職としての介護福祉士の役割についてまとめることができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	介護実習Ⅲの評価介護総合演習Ⅳの目的，実習の意義・目的・目標	浜崎
第2回	介護実習Ⅳの配置の発表(変更になる可能性あり)，介護実習の具体的目標・方法実習に関する諸注意(実習の心得，姿勢・身だしなみ・マナー・感染予防等)	久留須
第3回	関係書類の配布・記入方法・提出及び回収方法(個人票，出席表，実習計画，生活支援技術チェック，個人情報誓約書，実習評価表，自己評価表)	久留須
第4回	障害者支援施設・療養介護事業所について(夜勤について)	福留
第5回	実習先の概要把握(事前学習)	浜崎
第6回	「受け持ち利用者希望表」の記入方法→(指導は巡回担当教員)検便容器の配布・説明(変更になる可能性あり)フェイスシート，アセスメント表，介護計画書，実施・評価表について(記入方法は介護過程で行う。)，介護実習計画(目標含む)の作成→(指導は巡回担当教員)	中森
第7回	事前訪問(10月上旬)について(アポ取り)，交通手段，所要時間確認，事前訪問報告書について	中森
第8回	多職種協働・家族との連携について	田中
第9回	多職種協働・家族との連携について	田中
第10回	「利用者の夜間と日中の状態変化について」の記入方法「施設運営のプログラムについて」の記入方法	浜崎
第11回	＜事前訪問後＞学生と巡回担当教員との打ち合わせ→(指導は巡回担当教員)事前訪問報告書提出，お礼状の準備，実習反省会について，服装チェック	久留須
第12回	＜介護実習Ⅳ終了後＞実習反省会	久留須・中森・浜崎
第13回	専門職能団体の理解(介護福祉士会)	中森
第14回	介護過程の展開の振り返り1	中森
第15回	介護過程の展開の振り返り2	中森

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士や看護師，社会福祉士の実務経験を活かし，介護実習の方法など具体的に教授する。		
事前学習	テキストを用いた予習，これまでの事前訪問記録の確認をする	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習で学んだことを自身でまとめ，反省会に向けた準備をするテキストやこれまでの配布資料を基に復習をする	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合，求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	久留須：月・水曜日　昼休み(12:20～13:10)研究室(西館314号室)　中森：水曜日　12：50～13：30　研究室(西館316号室)浜崎：水曜日　16：20～16：30　研究室(西館315号室)　福留・田中(非常勤)：水曜日　16：20～16：35　講義室		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』(第2版)　介護福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規　2022年　2,200円(税別)　ISBN：978-4-8058-8399-0
参考文献等	『介護実習要項』『最新・介護福祉士養成講座　介護過程(第2版)』　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規　2022年　2200円(税別)　ISBN：978-4-8058-8398-3
成績評価基準	・介護実習の目的を理解し，実習に必要な事前準備の必要性が理解できること。・実習後の振り返りにより，実習での学びをまとめることができること。
成績評価の方法	久留須・浜崎・中森：介護過程の展開(アセスメント～実施・評価・考察)(70%)・福留(10%)・田中(20%)で評価する。ただし，状況により評価をレポートで代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	実習施設とのやり取りの中で，講義の順番に変更が生じる可能性がある。Googleclassを利用して資料を配布することもある。

科目名	介護研究	**科目ナンバー**	**S12606**
担当者	浜崎　眞美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	ゼミナール		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	前期・後期	**卒業の選択・必修**	必修：介護福祉士
単位数	1単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	介護福祉士の実践をより科学的に高めることを目的とし、事例研究を行う。・1～5回までは全体的内容の講義を行い、6回目以降は決められたゼミの担当教員の下で事例研究をまとめる。			
授業の到達目標	1．事例研究の目的について理解できる　2．事例研究の書き方を理解し、研究テーマを設定できる　3．事例研究をまとめることができる			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	事例研究の目的・意義事例研究のテーマ事例の選び方と考え方	久留須
第2回	ゼミ（担当教員）希望調査仮説（研究疑問）とは何か研究計画書の作成方法	久留須
第3回	先行研究や文献の検索方法	久留須・A
第4回	事例研究の書き方（執筆要領・PCの使用方法）	久留須
第5回	研究計画書の作成	久留須
第6回	研究計画者の指導事例研究の執筆打ち合わせ	B
第7回	事例研究の執筆①（はじめに①）	B
第8回	事例研究の執筆②（はじめに②）	B
第9回	事例研究の執筆③（利用者の基本情報）	B
第10回	事例研究の執筆④（介護過程の展開①・アセスメント）	B
第11回	事例研究の執筆⑤（介護過程の展開②・生活課題～支援方法）	B
第12回	事例研究の執筆⑥（介護過程の展開③・実施～評価）	B
第13回	事例研究の執筆⑦（考察）	B
第14回	事例研究の執筆⑧（おわりに～引用・参考文献）	B
第15回	事例研究の総括	B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士、看護師、社会福祉士等の実務経験を活かし事例研究を具体的に教授する。		
事前学習	授業資料等による予習、論文検索を含む情報収集、資料の収集	学習合計時間(h)	15
事後学習	指導教員からの指導を受け、自らの言葉で追記、修正を的確に行う。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	各担当教員による、添削指導		
質問・相談方法	各担当教員による、オフィスアワー等を利用しての質問時間を設定		
オフィスアワー	・浜崎：月、水～金曜日8:30～17:00研究室(西館315号室)・久留須：水曜日16：20～17：00研究室(西館314号室)中森：火・水曜日を除く 12：30～17:00　研究室(西館316号室)		

テキスト	講師作成資料
参考文献等	・『最新・介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習』　第2版　介護福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規　2019年(ISBN：978－4-8058－8399－0)　2200円　(税抜)・「ケーススタディをはじめよう！介護事例研究の手引き」　和田要・大島美登子・江原勝幸 日総研出版
成績評価基準	到達目標に達することで評価する
成績評価の方法	事例研究のまとめ(100点)
ＧＰＡ基準	
備考	Ａ：図書館職員Ｂ：生活福祉専攻教員（竹中・浜崎・中森・久留須）Googleclassを利用して資料を配布することもある。

科目名	介護実習Ⅲ	科目ナンバー	S12305
担当者	浜崎　眞美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［介護］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	3単位	担当形態	複数
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	個別ケアを行うために介護過程を展開する。個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にし、介護計画の作成、実施までを行う。前回までの実習経験や他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。介護実習Ⅲでは、鹿児島県内の入所系施設(介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか)にて実習し、10日間をかけて学ぶ。			
授業の到達目標	1. 一連の介護過程の展開を行うことができる　2. 各種の住設備機器や福祉用具を知り、その使用方法を理解し、活用できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ1(自己紹介､施設の概要、感染予防等について)	実習指導者
第2回	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ2(オリエンテーションの情報を記録する)	実習指導者
第3回	日課表沿った業務の進め方･内容を把握する	実習指導者
第4回	実習記録1(実習目標及び計画を記録する)	実習指導者
第5回	実習記録2(一日の目標と計画を指導者に報告し助言を受ける)	実習指導者
第6回	実習記録3(実習内容及び評価・考察についてまとめ記録する)	実習指導者
第7回	介護の実際(指導者の助言のもと生活支援技術を用いながらの実習する)	実習指導者
第8回	介護の実際(施設での業務にそって介護を実践する)	実習指導者
第9回	介護の実践(施設での個別ケアの実際を実践する)	実習指導者
第10回	介護過程の展開(受け持ちの利用者を観察し、情報を解釈しながら理解を深める)	実習指導者
第11回	介護過程の展開(情報の解釈・関連づけ・統合化及び課題を明らかにする)	実習指導者
第12回	介護過程の展開(計画の立案　実施)	実習指導者
第13回	福祉用具や機器、施設設備の実際(施設にある、福祉用具や機器、設備を把握する)	実習指導者
第14回	福祉用具や機器、施設設備の実際(使用方法などについてまとめる)	実習指導者
第15回	総括(実習の振り返り)	実習指導者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○			○	

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士、看護師、社会福祉士等の実務経験を活かし、実習について教授する		
事前学習	施設でのオリエンテーションを受ける前に、施設の概要を調査し、用紙にまとめる	学習合計時間(h)	30
事後学習	実習後に全員で反省会を開催し、意見交換で出てきた内容を代表者がまとめて各自に配布する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	実習で発見した課題については、次回の実習に活かせるよう全体の反省会時にフィードバックする。		
質問・相談方法	実習期間中は実習指導者、施設職員に尋ねる。教員の巡回指導時にも質問できるようにしている。		
オフィスアワー	浜崎：木曜日　14：50～16：20　研究室(西館315号室)久留須：木曜日　14：50～16：20　研究室(西館314号室)中森：木曜日　13：00～16：30　研究室(西館316号室)		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座　10「介護総合演習・介護実習」』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2022年　2，420円(税込) ISBN 978-4-8058-8399-0
参考文献等	介護実習要項(令和6年度入学生用)
成績評価基準	到達目標に掲げた項目に達すること。
成績評価の方法	実習中の提出物や実習態度及び施設からの実習評価(100%)により総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	原則1.0
備考	COC関連科目

科目名	介護実習Ⅳ	**科目ナンバー**	**S12403**
担当者	浜崎　眞美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［介護］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	3単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、前回までの実習経験や他科目で学習した知識や技術を統合して、より具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。介護実習Ⅳでは、鹿児島県内の入所系施設(介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか)にて実習し、15日間かけて学ぶ。			
授業の到達目標	1. 一連の介護過程の展開を継続的に実践することができる　2. チームの一員としての役割を自覚し、総合的判断力を身につけ、介護業務を遂行できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ1(自己紹介､施設の概要、感染予防等について)	実習指導者
第2回	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ2(オリエンテーションの情報を記録する)	実習指導者
第3回	日課表沿った業務の進め方･内容を把握する	実習指導者
第4回	実習記録1(実習目標及び計画を記録する)	実習指導者
第5回	実習記録2(一日の目標と計画を指導者に報告し助言を受ける)	実習指導者
第6回	介護の実際(施設での業務にそって介護を実践する)	実習指導者
第7回	介護の実践(施設での個別ケアの実際を実践する)	実習指導者
第8回	介護過程の展開(受け持ちの利用者を観察し、情報を解釈しながら理解を深める)	実習指導者
第9回	介護過程の展開(情報の解釈・関連づけ・統合化及び課題を明らかにする)	実習指導者
第10回	介護過程の展開(計画の立案　実施)	実習指導者
第11回	介護計画の展開(評価、カンファレンスの開催、計画の修正、実施、再評価)	実習指導者
第12回	チームケアの実際(利用者の変化、夜間と日中の状態変化や反応を観察・考察し記録する)	実習指導者
第13回	チームケアの実際(施設内の記録や申し送りの情報を記録、理解する)	実習指導者
第14回	チームケアの実際(職員会議やケースカンファレンス等、施設運営プログラムに参加する)	実習指導者
第15回	総括(実習の振り返り)	実習指導者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○			○	

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士、看護師、社会福祉士等の実務経験を活かし、実習について教授する		
事前学習	施設でのオリエンテーションを受ける前に、施設の概要を調査し、用紙にまとめる	学習合計時間(h)	45
事後学習	実習後に全員で反省会を開催し、意見交換で出てきた内容を代表者がまとめて各自に配布する	学習合計時間(h)	45
課題に対するフィードバックの方法	今後の就職活動などに活かせるように全体の反省会時にフィードバックする。		
質問・相談方法	実習期間中は実習指導者、施設職員に尋ねる。教員の巡回指導時にも質問できるようにしている。		
オフィスアワー	浜崎：木曜日　14：50～16：20　研究室(西館315号室)久留須：木曜日　14：50～16：20　研究室(西館314号室)中森：木曜日　13：00～16：30　研究室(西館316号室)		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座　10「介護総合演習・介護実習」』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会編　中央法規出版　2022年　2，420円(税込) ISBN 978-4-8058-8399-0
参考文献等	介護実習要項(令和6年度入学生用)
成績評価基準	到達目標に掲げた項目に達すること。
成績評価の方法	実習中の提出物や実習態度及び施設からの実習評価(100%)により総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	原則1.0
備考	COC関連科目

科目名	認知症の理解Ⅱ	科目ナンバー	S12307
担当者	岡村　友美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［こころとからだのしくみ］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	認知症の人の理解及び認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、認知症の人を支える家族への支援について学び、認知症の人の特性をふまえた本人主体のケアの実践につながる学習内容とする。			
授業の到達目標	1. 認知症者の理解を深め、その人らしさを生かした介護の基本を身につけることができる　2. 家族支援と地域サポートについて学び､認知症者が安心できる生活支援を考えることができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	パーソン・センタード・ケア	岡村
第2回	長いおわかれ(DVD)	岡村
第3回	認知症の人の理解	岡村
第4回	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール	岡村
第5回	認知症の人とのコミュニケーション	岡村
第6回	認知症の人のケア1	岡村
第7回	認知症の人のケア2	岡村
第8回	小テスト	岡村
第9回	認知症の人へのさまざまなアプローチ	岡村
第10回	認知症の人の終末期医療と介護	岡村
第11回	環境づくり	岡村
第12回	家族への支援	岡村
第13回	介護福祉職への支援	岡村
第14回	認知症の人の地域生活支援	岡村
第15回	多職種連携と協働	岡村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業の予習としてテキストを読み込むこと	学習合計時間(h)	15
事後学習	レポート作成・確認テスト	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題についてレポート提出		
質問・相談方法	授業中、授業の前後やオフィスアワーなどで対応する。		
オフィスアワー	月曜日　12：20～12：30　講義室(西館203号室)		

テキスト	最新介護福祉士養成講座13認知症の理解(第2版)　中央法規　2022　2200円(税別)（ＩＳＢＮ978‐4‐8058‐8402‐7)
参考文献等	配布プリント
成績評価基準	定期試験において、到達目標に掲げた項目について6割以理解できたと確認できた場合を合格とする。
成績評価の方法	定期試験(80%)　受講態度(10%)　レポート・確認テスト(10%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	障害の理解 II	**科目ナンバー**	**S11406**
担当者	福留　弘		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［こころとからだのしくみ］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	身体的、知的、精神的な面に障害のある人および難病のある人の医学的・心理的特徴と生活支援(生活理解、介護上の留意点)について解説する。また、障害のある人のサポート環境について解説する。			
授業の到達目標	1. 身体的、知的、精神的な面に障害のある人および難病のある人の特徴を理解し，適切な生活支援の在り方を考えることができる。2. 障害のある人のサポート環境について理解する。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション(科目の意義と目的・ねらい)	福留
第2回	重症心身障害のある人の生活：重症心身障害の特徴と生活支援	福留
第3回	内部障害のある人の生活：心臓機能障害の特徴と生活支援	福留
第4回	内部障害のある人の生活：呼吸器機能障害の特徴と生活支援	福留
第5回	内部障害のある人の生活：腎臓機能障害、膀胱・直腸機能障害の特徴と生活支援	福留
第6回	内部障害のある人の生活：HIV・免疫機能障害、肝臓機能障害の特徴と生活支援	福留
第7回	知的障害のある人の生活：知的障害の特徴と生活支援	福留
第8回	精神障害のある人の生活：精神障害の特徴と生活支援	福留
第9回	高次脳機能障害のある人の生活：高次脳機能障害の特徴と生活支援	福留
第10回	発達障害のある人の生活：発達障害の特徴と生活支援	福留
第11回	難病のある人の生活：難病の特徴と生活支援	福留
第12回	障害のある人に対する介護委：介護の基本的視点と基本的視点に基づいた個別支援、社会資源の開発	福留
第13回	家族への支援：家族への支援、家族の状態の把握と介護負担の軽減	福留
第14回	連携と協働：保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携、地域におけるサポート体制、総括	福留
第15回	授業のまとめ：身体的、知的、精神的な面の障害及び難病のある人の生活支援のあり方について考える	福留

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業の予習(教科書における該当ページの読み込みと整理)	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業の復習(教科書における該当ページの読み込みと整理)　講義で学んだ障害について，メディア等を用いて情報収集する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	講義で用いた資料、教科書の該当ページの見込み		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に口頭・質問票(書式なし)により対応		
オフィスアワー	月曜日　14：25～14:35　講義室(西館203号室)		

テキスト	『障害の理解　最新介護福祉士養成講座』 中央法規　2019年　2200円　(ISBN：978-4-8058-5774-8)『生活支援技術Ⅲ　最新介護福祉士養成講座』 中央法規　2019年　2200円　(ISBN：978-4-8058-5768-7)
参考文献等	特になし
成績評価基準	定期試験において、到達目標に掲げた項目について6割以理解できたと確認できた場合を合格とする。
成績評価の方法	定期試験(80%)　受講態度(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	こころとからだのしくみ（心理）	科目ナンバー	S11307
担当者	篠原　美穂		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［こころとからだのしくみ］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士　　選択必修：介護保険実務士　　選択必修(▲4単位)：ピアヘルパー認定試験受験資格		

授業の概要	この科目では、心身の両面から被介護者の状態をアセスメントし、如何に被介護者の自立を支援するための介護方法が提供できるのかを考える力を養うことを目的に、人の精神機能及び老化に伴う身体・精神機能や心理状態の変化について講義を行う。			
授業の到達目標	1.精神・身体機能の変化に伴う心理状態について理解する2.被介護者の心身状態の基本的なアセスメントができる3.残存能力や意欲を引き出す援助の方向性を考えることができる			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連	○			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／健康とは何か	篠原
第2回	自己概念・尊厳	篠原
第3回	自己実現と生きがい	篠原
第4回	脳とこころのしくみの関係	篠原
第5回	学習・記憶・思考のしくみ	篠原
第6回	感情・意欲・動機づけのしくみ	篠原
第7回	適応のしくみ	篠原
第8回	ストレスのしくみ	篠原
第9回	移動に関連したこころのしくみ	篠原
第10回	身じたくに関連したこころのしくみ	篠原
第11回	食事に関連したこころのしくみ	篠原
第12回	入浴・清潔保持に関連したこころのしくみ	篠原
第13回	排泄に関連したこころのしくみ	篠原
第14回	休息・睡眠に関連したこころのしくみ	篠原
第15回	総括	篠原

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	病院等での臨床心理士としての実務経験を活かし、老化や障がいに伴う精神的な変化等について授業を行う。		
事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	配布された資料をレジュメと照合しながら整理する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。		
オフィスアワー	木曜日　12：30～14：20　研究室(西館304号室)		

テキスト	『こころとからだのしくみ　第2版』　介護福祉士養成講座編集委員会(編集)中央法規出版　2022年　2,600円(税別)(ISBN?978-4805884003)
参考文献等	特になし
成績評価基準	精神・身体機能の変化に伴う心理について理解し、被介護者の心身状態の基本的なアセスメントに基づいて援助の方向性を考えることができる。
成績評価の方法	定期試験(80%)、授業中のレポート課題および授業への参加態度(20%)で総合的に判定する。ただし、定期試験および追再試験はレポートで代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	ターミナルケア	**科目ナンバー**	**S13401**
担当者	馬見塚　勝郎		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［こころとからだのしくみ］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	オムニバス
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	高齢化社会において加齢を背景とした慢性期疾患、その中でも癌患者の増加が想定される。今までは緩和ケアは医療の現場で癌患者に対して必要とされる知識であった。今後の日本が迎える超高齢者社会においては単に癌だけではなく、高齢者がかかえる治癒困難な慢性呼吸不全、心不全、腎不全、さらにはアルツハイマー型認知症などの末期に対しても介護施設で行われる事が予想される。当科ではこれらの対応すべく介護の現場で役にたつ人材育成を目標にする。			
授業の到達目標	1．高齢者の身体変化を知る　2．癌の病態変化を知る　3．介護の現場に役に立つ緩和ケアの基本的態度を身に着ける			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	—
DPとの関連		○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	緩和医療総論：ターミナルケアの概要	馬見塚
第2回	死にまつわる文化：医学的な死(死の三兆候)	馬見塚
第3回	介護施設におけるターミナルケア：多職種協働	馬見塚
第4回	死をめぐる倫理的課題：病状告知と自己決定	辻田
第5回	ターミナル期の身体的特徴：各症状のメカニズム	吉田
第6回	高齢者の身体的変化：加齢的な内臓機能低下	馬見塚
第7回	ターミナル期の全人的苦痛：身体、精神、社会、霊的	吉田
第8回	ターミナル期にある家族への配慮: 大切な人を失う苦痛	吉田
第9回	意思決定を支える援助: 治療から緩和ケアのギアチェンジ	辻田
第10回	エンゼルケアの実際：死後のケア	吉田
第11回	ケアとは何か：ケアの要素と本質	賞雅
第12回	トータルペイン①：スピリチュアリティを支えるケア	賞雅
第13回	トータルペイン②：介護施設におけるケアを事例として	賞雅
第14回	インドにおける死生観と看取り	堀内
第15回	日本における死生観と看取り	堀内

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	医療やトータルペイン等の経験から、ターミナルケアについて教授する。		
事前学習	祖父母の死に立ち会った経験などの思いをまとめておく	学習合計時間(h)	30
事後学習	毎回の授業後にミニレポート等を持ち帰らせ自宅学習する	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業後に課題を提示、回答を促し次回の授業で検討する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日　12:05～12:15　講義室(西館204号室)		

テキスト	『成人看護学　緩和・ターミナルケア看護論 (第2版)』　鈴木 志津枝/内布 敦子編　ヌーベルヒロカワ　2011年　2,200円　(ISBN：9784861740442)
参考文献等	特になし
成績評価基準	評価において、到達目標に掲げた項目について6割以理解できたと確認できた場合を合格とする。
成績評価の方法	試験(80%)　　記述(20%)講義中に触れた内容を元にした、各自が考える施設でのターミナルケアの実践に関して試験・レポートを実施する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	喀痰吸引	**科目ナンバー**	**S11309**
担当者	浜崎　眞美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［医療的ケア］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得できるように講義する。この科目では、医療的ケアの中の喀痰吸引を中心とし、呼吸器の理解や喀痰吸引のしくみ、必要な援助方法、報告・記録の必要性等を説明できることを目指し進める。医療的ケアに関する科目は、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得することで、「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することを基本とし、進めていく。			
授業の到達目標	1. 呼吸器のしくみ、呼吸苦がもたらす障害について説明ができる2. 喀痰吸引のしくみ、安全な実施に関する説明ができる3. 説明と同意の必要性、報告・記録の重要性について説明ができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	呼吸のしくみとはたらき	浜崎
第2回	いつもと違う呼吸状態とは	浜崎
第3回	喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引	浜崎
第4回	人工呼吸器と吸引	浜崎
第5回	子供の吸引について、吸引を受けることの説明と同意	浜崎
第6回	呼吸器系の感染と予防(吸引との関連)	浜崎
第7回	実施に伴う危険・安全確認、事故発生時の対応や対策	浜崎
第8回	事故発生時の対応と対策、連携体制の確認	浜崎
第9回	用いる器具器材としくみ、清潔の保持について	浜崎
第10回	必要物品の準備・設備と留意点	浜崎
第11回	実施前の利用者の状態観察、利用者の準備と留意点	浜崎
第12回	実施手順と留意点、実施に伴う身体変化の確認と報告	浜崎
第13回	実施後の吸引物の確認と報告、片付け方法と留意点	浜崎
第14回	喀痰吸引に伴うケア	浜崎
第15回	報告及び記録について	浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連	看護師としての実務経験に基づき、要点を押さえながら学生が理解しやすいよう授業を行う。		
事前学習	・各回の授業内容について、次回までの間に復習し、不明な点は辞書等で調べること。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・授業中に実施する小テストについては、分かるまで辞書等で調べること。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	水曜日　10：30～13：00　研究室(西館315号室)		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規　2022年　2600円　(ISBN978－4－8058－8404－1)
参考文献等	『改定介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト』　一般社団法人全国訪問看護事業協会編集　中央法規　2017年　2000円　（ＩＳＢＮ978－4－8058－5250－7)
成績評価基準	特に呼吸器のしくみと安全な喀痰吸引の実施につながる手順や留意点を理解すること。
成績評価の方法	期末試験(90%)、途中の小テスト(10%)で総合的に判定する。状況によりレポートで代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	医療的ケアに関する科目は、講義科目を修了した上で演習を行うことができると示されている。よって、基本的に、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得した上でなければ、演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することはできない。

科目名	経管栄養演習	科目ナンバー	S11308
担当者	浜崎　眞美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［医療的ケア］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得できるようにする。この科目では、医療的ケアの中の経管栄養を中心とし、シミュレーターを用いて効果的な演習を繰り返すことで、一連の支援過程を一人で実施できるようになることを目指し進める。また、救急蘇生法も一人で実施できることを目指し進めていく。演習の評価は、各行為最低5回の実施を評価表に基づいて行うこととし、手順通りにできて合格とする。合格するまで繰り返し行うようにする。			
授業の到達目標	1．胃ろう・腸ろう及び経鼻における経管栄養を一人で実施できる2．救急蘇生法を一人で実施できる			
ディプロマポリシー（DP）	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	胃ろう・腸ろうにおける経管栄養(一連の支援過程の確認・1／5回目)	浜崎
第2回	胃ろう・腸ろうにおける経管栄養(2／5回目)	浜崎
第3回	胃ろう・腸ろうにおける経管栄養(3／5回目・手順の確認と振り返り)	浜崎
第4回	胃ろう・腸ろうにおける経管栄養(４／5回目)	浜崎
第5回	胃ろう・腸ろうにおける経管栄養(５／5回目)、安全・確実な実施について（まとめ）	浜崎
第6回	経鼻からの経管栄養(一連の支援過程の確認・1／5回目)	浜崎
第7回	経鼻からの経管栄養(2／5回目)	浜崎
第8回	経鼻からの経管栄養(3／5回目・手順の確認と振り返り)	浜崎
第9回	経鼻からの経管栄養(4／5回目)	浜崎
第10回	経鼻からの経管栄養(5／5回目)、安全・確実な実施について（まとめ）	浜崎
第11回	救急蘇生法	浜崎
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	看護師としての実務経験に基づき、観察や支援方法などの実践例を示していき、連携の下実践する医療的ケア(経管栄養)が身につくよう教授する。		
事前学習	・「医療的ケア」「経管栄養」で学んだ内容を予習しておくこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・評価表に基づいて手順どおりに実施ができるように繰り返し練習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	演習(経管栄養)の評価に対して課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水曜日　12:10～16：20　研究室(西館315号室)		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア』第2版　介護福祉士養成講座編集委員会編集　中央法規　2022年　2600円　(ISBN978－4－8058－8404－1)
参考文献等	『改定　介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト』　一般社団法人全国訪問看護事業協会編集　中央法規　2017年　2000円　（ＩＳＢＮ978－4－8058－5250－7)
成績評価基準	胃ろう・腸ろう及び経鼻における経管栄養を、評価表に基づき手順どおりに最低5回の実施を達成したものは合格とする。
成績評価の方法	毎回の授業で実施する実技試験の成績(80%)と期末試験(実技)の成績(20%)を総合的に判定する。状況によりレポート等で代替することがある。
ＧＰＡ基準	
備考	本科目は教育効果向上を図るため、11回の授業時間で進める。

科目名	喀痰吸引演習	科目ナンバー	S11407
担当者	浜崎　眞美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［医療的ケア］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：介護福祉士		

授業の概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得できるようにする。この科目では、医療的ケアの中で喀痰吸引を中心とし、シミュレーターを用いて効果的な演習を繰り返すことで、一連の過程を一人で実施できるようになることを目指し進めていく。演習は各行為最低5回の実施を、評価表に基づいて行うこととし、手順どおりに実施できて合格とする。合格するまで繰り返し行うようにする。			
授業の到達目標	1. 口腔内及び鼻腔内、気管カニューレ内部の喀痰吸引を一人で実施できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○			
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	口腔内吸引・鼻腔内喀痰吸引(一連の支援過程を確認、1／5回目)	浜崎
第2回	口腔内喀痰吸引・鼻腔内喀痰吸引(2／5回目)	浜崎
第3回	口腔内喀痰吸引・鼻腔内喀痰吸引(3／5回目)、手順の再確認・ふり返り	浜崎
第4回	口腔内喀痰吸引・鼻腔内喀痰吸引(4／5回目)	浜崎
第5回	口腔内喀痰吸引・鼻腔内喀痰吸引(5／5回目)、安全・確実な実施について（まとめ）	浜崎
第6回	気管カニューレ内部の喀痰吸引(一連の支援過程の確認、1／5回目)	浜崎
第7回	気管カニューレ内部の吸引(2／5回目)	浜崎
第8回	気管カニューレ内部の喀痰吸引(3／5回目)、手順の再確認・ふり返り	浜崎
第9回	気管カニューレ内部の喀痰吸引(4／5回目)	浜崎
第10回	気管カニューレ内部の喀痰吸引(5／5回目)、安全・適切な実施について(まとめ)	浜崎
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	看護師としての実務経験に基づき、観察や支援方法などの実践例を示していき、連携の下実践する医療的ケア(喀痰吸引)が身につくよう教授する。		
事前学習	・「医療的ケア」「喀痰吸引」で学んだ内容を予習しておくこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	・評価表に基づいて手順どおりに実施ができるように繰り返し練習を行うこと。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	演習(喀痰吸引)の評価に対して課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日　12：10～16：20　研究室(西館315号室)		

テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア』第2版　介護福祉士養成講座委員会編集　中央法規　2022年　2600円　(ISBN978－4－8058－8404－1)
参考文献等	『改定　介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト』　一般社団法人全国訪問看護事業協会編集　中央法規　2017年　2000円　（ＩＳＢＮ978－4－8058－5250－7)
成績評価基準	口腔内及び鼻腔内の喀痰吸引と気管カニューレ内部の喀痰吸引とを、評価表に基づき手順どおりに、最低5回の実施を達成したものは合格とする。
成績評価の方法	毎回の授業で実施する実技試験の成績(80%)と期末試験(実技)の成績(20%)を総合的に判定する。状況によりレポート等で代替することがある。
ＧＰＡ基準	
備考	本科目は教育効果向上を図るために、10回の授業時間で進める。

科目名	薬理の基礎		科目ナンバー	S11408
担当者	井上　和彦			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	講義			
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目［医事実務士］	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2単位	担当形態	単独	
免許・資格情報	選択：介護福祉士　　必修：医事実務士			

授業の概要	薬理学とは、生体と外界の物質(薬物および毒物) の相互作用の結果、生じる現象(薬理作用) を研究する学問体系である。医療に携わる人は、基本的な医薬品に関する知識を持っていることが求められている。この授業では、薬理作用を説明するための基礎知識の習得に重点を置き、身近に接する薬物の薬理作用を解説する。			
授業の到達目標	1.薬理作用の一般的概念を理解し、説明できる。 2.薬物動態、薬物相互利用の基本的概念を理解し、説明できる。 3.身近に接する代表的な薬について学び、その薬理作用及び有害作用を説明できる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	薬の種類と特徴	井上
第2回	かぜの薬	井上
第3回	胃や腸の薬	井上
第4回	さまざまな痛みの薬	井上
第5回	皮膚と粘膜の薬	井上
第6回	目薬	井上
第7回	痔の薬	井上
第8回	乗り物酔いの薬	井上
第9回	花粉症の薬	井上
第10回	漢方の薬	井上
第11回	婦人科系の薬	井上
第12回	泌尿器の薬	井上
第13回	栄養剤・ドリンク剤	井上
第14回	体と心の薬	井上
第15回	アレルギーの薬	井上

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	担当教員は民間企業で医薬品開発に携わった経験があり、授業では実務経験を含めて学生に還元する。		
事前学習	各回の内容について、事前にテキストの該当箇所を読む。	学習合計時間(h)	30
事後学習	各回の内容を復習し、課題に取り組む。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題の解説は、次回以降の授業で行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	月曜日・火曜日12:30～13:00 研究室(西館309号室)		

テキスト	『改訂版　世界一やさしい！　おくすり図鑑』 池上文雄　新星出版社　2026年　1,500円 (税別)
参考文献等	『イラストで理解するかみくだき薬理学　改訂4版』 町谷安紀　南山堂　2026年　2,300円（税別）
成績評価基準	到達目標を達成できること。
成績評価の方法	定期試験（70%）、課題（20%）及び授業に取り組む姿勢（10%）で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	人類学	科目ナンバー	S11409
担当者	竹中　正巳		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［医事実務士］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：介護福祉士　　必修：医事実務士		

授業の概要	人々が健康に生きていくためには、個人と地域社会とのかかわりや、自然環境とのかかわりが重要となる。まず、ヒトの生物学的・生態学的な特徴を理解する。次に、現在の医療、病気、疾病予防や健康状態の保健衛生統計を知る。特に日本人について、日本列島の人類史の中で、さまざまな地域環境に適応し、暮らし、時代ごと、地域ごとにどのような病気が多いかということ知った上で、人の健康を考える。また、現代日本の疾病予防や健康増進の取り組みを理解する。			
授業の到達目標	1．ヒトの生物学的・生態学的特徴を知り、社会生活において、疾病予防や健康増進の大切さを知る。2．病気の流行や社会の衛生状態の歴史的変遷の実態を知り､現代日本の健康増進・疾病予防の取組みを理解する。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	ヒトと人社会の生物学的特徴	竹中
第2回	ヒトの自然環境への適応	竹中
第3回	世界各地の人々の健康、病気と医療	竹中
第4回	現代日本の医療、病気、疾病予防や健康状態の保健衛生統計	竹中
第5回	生物統計の基礎	竹中
第6回	疫学研究の実際(現代)	竹中
第7回	疫学研究の実際(先史時代から近代)	竹中
第8回	先史時代の日本列島の病気や衛生状態の実態	竹中
第9回	中世日本列島の病気や衛生状態の実態	竹中
第10回	近世日本列島の病気や衛生状態の実態	竹中
第11回	感染症(流行の歴史的実態)	竹中
第12回	生活習慣病(出現頻度の歴史的実態)	竹中
第13回	現代日本の健康増進活動(母子・老人保健)	竹中
第14回	現代日本の健康増進活動(地域・学校保健)	竹中
第15回	現代日本の医療・社会保障制度と行政	竹中

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	参考図書や授業で紹介する文献をよく読んで講義に臨む	学習合計時間(h)	30
事後学習	参考図書や授業で紹介する文献をよく読んで理解度を確かめる	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、受講者の求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	授業の前後15分（授業実施教室）		

テキスト	特になし
参考文献等	『国民衛生の動向2025/2026』　雑誌　厚生の指標　増刊　厚生労働統計協会　2025年3,400円(税抜き) (ISSN 0452-6104)
成績評価基準	到達目標を踏まえて、人類学、生態学および公衆衛生学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。
成績評価の方法	レポート(100%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	介護事務総論	**科目ナンバー**	**S11310**
担当者	片平　知博		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［介護保険実務士］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	選択：介護福祉士　　必修：介護保険実務士		

授業の概要	介護報酬を行ううえで必要な知識、介護保険制度の概要や医療保険(診療報酬)との関係、報酬請求までの流れを理解する。			
授業の到達目標	1．介護保険制度の報酬請求の仕組みと、請求事務について理解できる。2．介護保険と医療保険との関係について理解できる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎		○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	介護保険制度の成立の背景・改革の経緯について	片平
第2回	介護保険制度の概要、運営主体(保険者)、被保険者について	片平
第3回	要介護認定とサービスの利用手続きについて	片平
第4回	介護サービスの種類、支給限度基準額、利用者の自己負担について	片平
第5回	介護保険と医療保険の関係について	片平
第6回	介護保険と公費負担医療の関係について	片平
第7回	給付管理業務の流れ、各種帳簿の作成の仕方について	片平
第8回	介護報酬の原則と特徴について	片平
第9回	居宅(在宅)サービスの算定の考え方、ポイントについて	片平
第10回	施設サービスの算定の考え方、ポイントについて	片平
第11回	介護報酬請求の流れについて	片平
第12回	介護給付費明細書の作成方法(訪問系サービス、通所系サービス、福祉用具貸与)	片平
第13回	介護給付費明細書の作成方法(短期入所、短期療養)	片平
第14回	介護給付費明細書の作成方法(施設サービス)	片平
第15回	教科の総括	片平

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	介護保険制度における各サービスでの実務経験を活かして、制度設立の背景や給付管理について教授する。		
事前学習	専門用語について調べ、不明な部分や疑問についてまとめておくこと	学習合計時間(h)	20
事後学習	前回振り返り小テスト、期末試験のために復習すること	学習合計時間(h)	40
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーにて対応。		
オフィスアワー	木曜日　12：05～12：15　講義室(西館204号室)		

テキスト	『介護報酬基本テキスト』　ケアアンドコミュニケーション株式会社　2021年　3000円(税抜き)
参考文献等	特になし
成績評価基準	介護報酬の流れが理解でき、給付管理票が作成できること。介護保険と医療保険において同じサービスがある場合、どちらが優先となるか理解できること。
成績評価の方法	期末試験(70%)　授業態度・小テスト(30%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	介護事務演習	科目ナンバー	S11410
担当者	片平　知博		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［介護保険実務士］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	選択：介護福祉士　　必修：介護保険実務士		

授業の概要	居宅介護支援事業所で必要なサービス計画作成・給付管理業務等のの事務処理、介護サービス事業所で必要な介護給付費明細書の作成や請求業務等の事務処理を、実際に介護事務ソフトを使用し理解し身に着ける。			
授業の到達目標	1．各種サービスを組み合わせた計画を作成できる。2．介護保険制度の報酬請求の仕組みが理解でき、請求処理ができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	介護事務ソフトの操作方法について	片平
第2回	サービス事業所の登録方法について	片平
第3回	利用者基本情報の登録の仕方について	片平
第4回	週間計画表の作成・入力について	片平
第5回	サービス利用票・別表の作成・入力について	片平
第6回	訪問系サービス,、福祉用具貸与の計画作成	片平
第7回	通所系サービスの計画作成	片平
第8回	短期入所生活介護・短期入所療養介護の計画作成	片平
第9回	訪問系、通所系、短期入所を組み合わせた計画作成	片平
第10回	請求業務の処理フロー	片平
第11回	公費負担、自己負担の異なるケースの計画作成・請求業務について	片平
第12回	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)の計画作成・請求処理	片平
第13回	介護老人保健施設の計画作成・請求処理	片平
第14回	介護療養型施設(診療所型・病院療養型)の計画作成・請求処理	片平
第15回	教科の総括	片平

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
					○

担当教員の実務経験と授業の関連	各サービス毎の実務経験を活かし、介護サービス事業所で即戦力となる実践的な給付管理業務について教授する。		
事前学習	居宅・施設各サービスの違いについて把握しておくこと	学習合計時間(h)	5
事後学習	作成した各サービス毎の給付管理票について見直しすること	学習合計時間(h)	10
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーにて対応。		
オフィスアワー	木曜日　14：25～14：35　MM教室(南館401号室)		

テキスト	『介護報酬基本テキスト』　ケアアンドコミュニケーション株式会社　2021年　3,000円(税抜き)『介護保険演習問題集』　ケアアンドコミュニケーション株式会社　2021年　3,000円(税抜き)
参考文献等	特になし
成績評価基準	各サービスを組み合わせたサービス計画に沿ったサービス利用票を作成できること。居宅サービス毎の請求から国保連に請求するまでの過程が理解できること。
成績評価の方法	期末試験(70%)　授業態度(30%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	レクリエーションワーク	科目ナンバー	S12601
担当者	中村　礼香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目［関連科目］
開講期	前期・後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	選択：介護福祉士		

授業の概要	介護福祉士として、利用者の方の豊かな表現を引き出し、楽しく活動するための基本的な技術を多様な音楽活動や製作活動を通して解説する。			
授業の到達目標	1. 介護現場で簡単な音楽活動を指導できるようになる技術を習得する。2・様々な製作活動を通して介護現場で利用者と共に表現活動を行うための基本的な技能を習得し表現の喜びを味わう。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連		○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	中村
第2回	童謡・唱歌について学ぶ	中村
第3回	歌謡曲について学ぶ	中村
第4回	音楽を使ったゲームについて学ぶ	中村
第5回	郷土の民謡・わらべうた遊び・手遊びについて学ぶ	中村
第6回	簡易楽器を用いたレクリエーション活動について学ぶ	中村
第7回	グループによる模擬レクリエーションの発表	中村
第8回	紙コップでの遊びについて学ぶ	井上
第9回	スライムによる感触遊びについて学ぶ	井上
第10回	新聞紙によるバッグづくりについて学ぶ	井上
第11回	折り紙による多様な製作について学ぶ	井上
第12回	多様な表現技法1　モダンテクニックについて学ぶ	松下
第13回	多様な表現技法2　モダンテクニックを用いた課題制作	松下
第14回	色形を写す活動　スチレン版画による課題制作	松下
第15回	光や造形に親しむトランスパレントの制作	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	中村：介護施設で行われている音楽活動を調べておく。井上・松下：介護施設における様々な製作活動について調べておく。	学習合計時間(h)	15
事後学習	【中村】実習施設で実践する。【井上・松下】実習施設で実践する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	実習を通して学んだことを授業内で共有し、解説する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	中村：水曜日　12:20～13:10　研究室(本館601号室)　井上：金曜日　16:30～18:00　研究室(本館609号室)　松下：金曜日　12:20～13:10　研究室(本館602号室)		

テキスト	中村：『童謡唱歌集』　野ばら社　1990年　400円(税抜き) (ISBN978-4-88986-373-4)井上・松下：特になし（適宜資料を配布する）
参考文献等	中村：『高齢者のための元気が出る！音楽レクリエーション』　オフィスリブスタイル監修　ナツメ社　2014年　1,800円(税抜き) (ISBN978-4-8163-5717-6)松下：『わくわくレクプログラム集』木下正明　日総研グループ　2012年　2,190円(税抜き)
成績評価基準	中村：介護施設における音楽活動について理解する。井上・松下：現場における製作活動について理解する。
成績評価の方法	中村：受講態度(10%)、模擬レクリエーション発表(40%)で評価する。　井上・松下：受講態度(10%)、作品(40%)で評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	第1回から第7回までの音楽活動は前期開講、第8回から第15回までの製作活動は後期開講※製作活動は数百円程度の教材費を徴収する。

科目名	介護ホスピタリティ	科目ナンバー	S12404
担当者	浜崎　眞美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目［関連科目］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	―		

授業の概要	・介護福祉の現場で役立つ知識や技術の向上に役立つ、聴覚障害者の理解・支援、認知症の理解・支援(ハンドマッサージ等)、メイクの技術、地域で生活する障害者の理解・支援についてを授業の中で扱っていく。・各分野で活躍している先生方による授業(オムニバス形式)で実施する。			
授業の到達目標	1. 障害や認知症のある方の理解および具体的支援方法を身につけることができる。2. 職業人としての身だしなみの基本を身につけることができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 専門的知識・技能 介護福祉及び医療・介護事務に関する実践的かつ体系的な専門的知識と技能を修得している。	2 主体的・創造的な課題解決能力 修得した専門的知識と技能を活かして、地域社会の実態を踏まえ、主体的・創造的に貢献する能力と意識をもっている。	3 人間関係形成力とコミュニケーション能力 倫理観と責任感をもち、コミュニケーション能力と協働性を有し、多様な問題に臨む社会人としての態度を身につけている。	―
DPとの関連				
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(本科目の概要、学び方、介護コンシェルジュ資格について)	A
第2回	聴覚障害の理解　実技：名前の表現・挨拶の表現・家族の表現	下田代
第3回	聴力検査について、補聴器について　　実技：趣味の表現・数字の表現	下田代
第4回	学外実習(器材や用具を実際に使用してみる)　　実技：時刻の表現	下田代
第5回	重複障害　盲ろう者に応じた介護、聴障者との交流　　実技：介護現場で使用する用語の表現	下田代
第6回	まとめ(ロールプレイ)　　実技：介護現場で使用する用語の表現・自己紹介表現のまとめ	下田代
第7回	認知症者の理解	宮園
第8回	認知症ケアの基本	宮園
第9回	ハンドマッサージの基本	田代
第10回	ハンドマッサージの実践	田代
第11回	認知症ケア(まとめ)	宮園
第12回	印象のよいメイク術(基本)	A・学外講師
第13回	印象のよいメイク術(実践)	A・学外講師
第14回	障害者の理解(見学学習)	A
第15回	障害者の理解(見学学習)	A

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉士、看護師、社会福祉士等の実務経験を活かし教授する		
事前学習	授業計画を確認し、意味の分からない用語は調べておくこと。	学習合計時間(h)	30
事後学習	学習内容の振り返りを行う。わからない部分については、調べたり質問をしたりする等で理解すること。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	授業後　16：20～16：40　講義室		

テキスト	・授業の時に資料を配布する
参考文献等	『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ』　介護福祉士養成講座委員会編集　中央法規　2019年　2，420円(税込)　(ISBN：978?4?8058?5768?7)
成績評価基準	障害、認知症のある人の理解および支援野方法、メイクの技術について、具体的な方法の基礎を身につけることができることで合格とする。
成績評価の方法	聴覚障害の理解：実技及びレポート課題(30%)、認知症ケア：実技及びレポート課題(30%)、メイク：実技及びレポート課題(20%)、障害の理解：レポート課題(20%)を総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	1介護ホスピタリティ(1年前期開講科目)、2レクリエーション・ワーク(2年前後期開講科目)、3介護の日関連イベント（10月上旬予定）への参加1・2の科目を履修し単位を修得することと、3介護の日関連イベントへの参加により『介護コンシェルジュ』を取得することができる。

専 門 科 目

食物栄養学専攻

科目名	公衆衛生学Ⅰ	科目ナンバー	S21301
担当者	郡山　千早		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目［社会生活と健康］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	個人に対する医学のみでは疾病の予防、治療に限界がある。公衆衛生学は人間を集団とみなし、社会的側面から介入することで人間の健康を維持する学問である。本講では、私たちの身の回りの環境や環境汚染が、人々にどの様な健康影響を及ぼすのかを簡単に概説し、これらの健康影響から人々の生活をまもるために、日本ではどの様な社会保障制度や仕組みが整えられているのかを理解し、人々が健康な社会生活をおくる為に必要な知識を身につけさせる。			
授業の到達目標	1．公衆衛生学が身近な問題であることを認識できるようになる2．社会生活において健康増進の大切さを理解する3．健康増進への取組みが行われている組織・活動を理解する			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	公衆衛生総論	郡山
第2回	環境と健康	松山
第3回	予防と健康管理	郡山
第4回	地域保健	郡山
第5回	母子保健	松山
第6回	学校保健	郡山
第7回	成人・高齢者保健	郡山
第8回	社会保障制度	郡山
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	参考図書及び配布資料による復習	学習合計時間(h)	15
事後学習	身の回りの健康維持の取り組みについて調べてみる	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して、必要に応じて個別に対応を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー			

テキスト	テキストは指定しません　資料を配布します。
参考文献等	『公衆衛生学がみえる』　赤澤宏平他　メディックメディア、『社会・環境と健康2024-2025』　吉池信男/寶澤篤/栗木清典　編集　南江堂　2024年
成績評価基準	公衆衛生学に関する基礎的な知識を身につけたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(80%)　　レポート提出など(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	公衆衛生学Ⅱ	科目ナンバー	S21302
担当者	郡山　千早		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目［社会生活と健康］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	公衆衛生学は、人々の健康の保持、増進と疾病や障害を予防し、健康な状態で生活できることに貢献する学問である。そのためには、国民の生活、健康状況の様々な実態把握が必要不可欠である。公衆衛生学Ⅱでは、実態把握に必要な情報に関する知識、健康課題への対応などを理解することを目標に講義を行う。			
授業の到達目標	1. 保健統計の仕組みとその情報の活用について理解する　2. 感染症対策の実際について理解する　3. 疫学の基礎的知識を習得し、実践に応用できるようになる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	保健統計の概要、人口静態統計、人口動態統計	郡山
第2回	生命表、疾病統計	郡山
第3回	感染症対策1	松山
第4回	感染症対策2	松山
第5回	国際保健	郡山
第6回	疫学の概念、疫学の指標とバイアス	郡山
第7回	疫学研究デザイン	郡山
第8回	疫学・演習	松山
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	配布資料を事前に読んでおくこと	学習合計時間(h)	15
事後学習	授業最後に課題を提示するので調べること	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	授業内で解説する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー			

テキスト	テキストは指定しません　必要に応じてプリントを配布します
参考文献等	『国民衛生の動向』　厚生労働統計協会　2025年
成績評価基準	試験及びレポート等で、社会生活における健康増進や現代社会の実態や問題点を6割以上理解できたと確認できた場合を合格とする。
成績評価の方法	定期試験(80%)　　レポート提出など(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	社会福祉概論	科目ナンバー	S21401
担当者	久留須　直也		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	科目群	専門科目［社会生活と健康］
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士，栄教免		

授業の概要	本講義では，「社会福祉とは何か」という点を含め，現代社会における社会福祉の動向や理念を講義する。その後，医療保障・介護保障・所得保障・公的扶助・障害者福祉・児童家庭福祉などの生活者としての視点で社会福祉の法制度や課題についても講義していく。　また，社会福祉における専門職である「ソーシャルワーカー」が展開するソーシャルワークについても事例を通して理解を深め，実際にソーシャルワークの援助技法をロールプレイを通して体験する。			
授業の到達目標	１．社会福祉が私達の身近な生活の中に深く関わり，生活を支えているものであるということを理解することができる。２．社会福祉の基本的知識・理解を深めることができる。３．社会福祉の法律や制度の仕組みについて理解することができる。４．社会福祉における相談援助技法（ソーシャルワーク）について理解することができる。５．社会福祉の近年の動向と課題について理解することができる。			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎		○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	社会福祉の考え方について学ぶ	久留須
第2回	社会福祉を取り巻く環境について学ぶ	久留須
第3回	社会福祉の歴史について学ぶ	久留須
第4回	社会福祉の仕組みと社会福祉サービスの利用の仕組みについて学ぶ	久留須
第5回	社会福祉の機関と施設について学ぶ	久留須
第6回	年金制度と医療保険の仕組みについて学ぶ	久留須
第7回	低所得者福祉（公的扶助）について学ぶ	久留須
第8回	子ども家庭福祉について学ぶ	久留須
第9回	高齢者福祉について学ぶ①（介護保険制度の利用の流れ）	久留須
第10回	高齢者福祉について学ぶ②（介護保険制度のサービス）	久留須
第11回	障害者福祉について学ぶ	久留須
第12回	地域福祉と利用者保護制度について学ぶ	久留須
第13回	ソーシャルワークについて学ぶ	久留須
第14回	社会福祉の担い手と多職種連携について学ぶ	久留須
第15回	社会福祉概論のまとめ	久留須

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連	医療機関における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）及び介護支援専門員としての実務経験を活かし，社会福祉政策等の全般を教授する。		
事前学習	次回の授業内容について，教科書等を熟読し，分からない用語は辞書等で調べておく。	学習合計時間(h)	30
事後学習	学習内容の復習をする中で，分からない箇所はテキストや授業資料を見直し，自主学習を行う。自主学習で不明な点があれば担当教員へ質問をする。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業終了前にGoogleclassroomを利用したコメントシートを入力し、課題等の回答を促し，次回の授業で回答する。		
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また毎回入力するコメントシートに質問事項を入力させ，次回の授業時に質問についての解説を行う。		
オフィスアワー	月・水曜日　昼休み（12:20～13:10）研究室（西館314号室）		

テキスト	『社会福祉』〔第6版〕　石田慎二・山縣文治編著　ミネルヴァ書房　2,000円（税別）　ISBN 978-4-623-09683-1
参考文献等	『ミネルヴァ社会福祉小六法2023［令和5年版］』　ミネルヴァ書房　2023年　1,800円(税別)　ISBN 978-4-623-09512-4
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること。
成績評価の方法	【本試験・再試験・追試験時の評価方法】授業への参加態度（30%）と期末試験（70%）で総合的に評価する。ただし，状況により評価をレポートで代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	教養学科と合同授業となる。第1回目の講義に講師作成授業資料を配布するため、毎時間持参する。Googleclassを利用してコメントシートを作成する。

科目名	解剖生理学実験	科目ナンバー	S21303
担当者	竹中　正巳		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実験		
配当年次	2年	科目群	専門科目［人体の構造と機能］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修：栄養士		

授業の概要	自らの身体機能の計測等を通し、循環器系、感覚器系、骨格系、筋肉系、神経系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系の構造や機能についての理解を深める実験・実習を行う。人体の正常な構造と機能に関する知識を実験を通して体得する。			
授業の到達目標	1. 循環器、感覚器、骨格、筋肉、神経、呼吸器の仕組みと働きを理解する。　2. 人体の構造と機能の関連を多面的にとらえられるようになる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	竹中
第2回	循環に関する実験Ⅰ(血圧とその調節、運動機能検査)	竹中
第3回	循環に関する実験Ⅱ(心電図、運動機能検査)	竹中
第4回	感覚に関する実験Ⅰ(味覚)	竹中
第5回	感覚に関する実験Ⅱ(錯視)	竹中
第6回	骨格に関する実習Ⅰ(人体構造の立体的位置関係の把握)(体幹骨・上肢骨)	竹中
第7回	骨格に関する実習Ⅱ(人体構造の立体的位置関係の把握)(頭蓋・下肢骨)	竹中
第8回	歯に関する実習Ⅰ(乳歯、永久歯の形態の観察)	竹中
第9回	歯に関する実習Ⅱ(永久歯列と無歯顎)	竹中
第10回	体温に関する実験(身体各部の温度、体温とその調節機構)	竹中
第11回	神経疲労に関する実験(ﾌﾘｯｶｰ試験、疲労とは、視環境)	竹中
第12回	呼吸に関する実験(ｽﾊﾟｲﾛﾒｰﾀｰを用いた実験、肺機能検査)	竹中
第13回	組織標本の観察	竹中
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	実験の手順を記したプリント、参考書をよく読んで実験に臨む	学習合計時間(h)	13
事後学習	実験後は、得られたデータをもとに考察を深め、レポートを作成する	学習合計時間(h)	26
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、受講者の求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	実験の前後等で対応する。		
オフィスアワー	実験の前後15分（講義実施教室）		

テキスト	テキストは特になし。実験の手順を記したプリントを配布する。
参考文献等	坂井建雄・宇賀 貴紀・小野富三人　『系統看護学講座１　解剖生理学（第12版）』　医学書院　2026年　4,300円(税抜き) ISBN　978-4-260-06184-1
成績評価基準	到達目標を踏まえて、解剖生理学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。
成績評価の方法	実験ごとに提出するレポート(70%)、筆記試験(30%)(状況に応じ、評価方法をレポートで代替する場合がある)
ＧＰＡ基準	
備考	※教育効果向上のため、2コマ(180分)×13回で実施する

科目名	運動生理学	**科目ナンバー**	**S21402**
担当者	大村　一光		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［人体の構造と機能］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	身体のさまざまな生命現象のメカニズムを研究する学問に生理学があるが、なかでも運動・スポーツによって、身体の諸器官、機能がどのような働きを示し、それらがどのように変化するのかを明らかにする学問を運動生理学と呼ぶ。本講義では、ウォーキング、ジョギングなど身近な運動を通して運動による人体生理機序の理解をはかる。			
授業の到達目標	1．人体各種機能の理解を深める　2．運動に伴う機能の変化を理解する　3．指導現場への応用ができるようにする			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	運動と身体組成(体脂肪率、除脂肪体重)	大村
第2回	運動と筋肉(骨格筋)	大村
第3回	運動とエネルギー(無酸素運動の定義と運動効果)	大村
第4回	運動とエネルギー(有酸素運動の定義と運動効果)	大村
第5回	運動と呼吸(最大酸素摂取量と運動による変化)	大村
第6回	運動と循環(運動による循環系への適応　ｽﾎﾞｰﾂ心臓と毛細血管)	大村
第7回	運動と神経(運動と技能の上達，神経系の役割)	大村
第8回	運動と骨(骨粗しょう症，運動の効果)	大村
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	解剖生理学等での学習内容について確認する	学習合計時間(h)	15
事後学習	生理学的知見をもとに栄養領域への応用ができるようにする	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、必要に応じて個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーなどで対応する		
オフィスアワー	水曜日～金曜日　　12:20～13:10 研究室(体育館101号室)		

テキスト	特になし(授業中に自作資料を配布する)
参考文献等	特になし(関連する項目についてWEBなどを利用して学習すること)
成績評価基準	人体各種機能の理解を深め、 運動に伴う各機能の変化を理解できること
成績評価の方法	定期試験(70%)ただし、レポートで代替する場合がある、　受講態度(30%)
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	生化学実験	**科目ナンバー**	**S21304**
担当者	大賀　早希		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実験		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［人体の構造と機能］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	選択必修：栄養士		

授業の概要	この実験を通して「栄養生化学Ⅰ、Ⅱ」で学んだ糖質(単糖類、二糖類、でんぷん)、アミノ酸とたんぱく質、酵素、脂肪酸、核酸の性質や特徴、「栄養学総論」で学んだ三大栄養素の消化についての理解を深め、栄養士として必要な基礎知識を身に付けさせる。			
授業の到達目標	1. 「栄養生化学Ⅰ、Ⅱ」及び「栄養学総論」で学んだことを､実験を通して確認、理解できる　2. 実験の結果を科学的、論理的に解釈し､考察できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション(実験の心得、レポートの書き方・理解）、ヨウ素デンプン反応による多糖類の理解	大賀
第2回	酵素に関する実験1(酵素の基質特異性：グルコースオキシダーゼの糖質との反応)	大賀
第3回	糖とは？：糖の種類、構造、性質の理解（メチレンブルーによる糖の定量）	大賀
第4回	唾液アミラーゼによるでんぷんの消化	大賀
第5回	密室の謎を解け！(透析後のたんぱく質、でんぷん、グルコース、アミノ酸の検出による透析の理解)	大賀
第6回	君の名は？　（糖の未知試料を推察）	大賀
第7回	脂質に関する実験1(脂肪酸の構造の違いによるの性質(融点)の違い)	大賀
第8回	脂質に関する実験２(コレステロールの定量とその臨床的意義)	大賀
第9回	抗体の抗原特異性に関する実験(ELISA法による抗原の検出)	大賀
第10回	核酸に関する実験1(犯人は誰だ？科捜研の女ごっこ：制限酵素とは、DNA の電気泳動)	大賀
第11回	核酸に関する実験2(コメDNAの抽出とPCR 反応による増幅)	大賀
第12回	酵素に関する実験2(消化酵素の三大栄養素の消化)	大賀
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	関連する「栄養生化学Ⅰ、Ⅱ」及び「栄養学総論」で学んだ内容について復習を行っておくこと。	学習合計時間(h)	20
事後学習	毎授業後にはレポートを作成し、提出すること。その際に不明な点や理解が不十分な点について調べること。	学習合計時間(h)	40
課題に対するフィードバックの方法	レポート作成時に、質問があれば個別に指導を行うほか、レポート返却時に、授業内で全体に対して、レポートの講評と要点の解説を行う。		
質問・相談方法	実験中や実験終了時に対応するほか、オフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日12：20～13：10　研究室		

テキスト	プリントを配布するため、テキストは使用しない
参考文献等	『はじめてみよう生化学実験』　山本 克博 編著　三共出版　2010年　2,200円(税抜き)（ISBN978-4782705551）　『栄養生理学・生化学実験(栄養科学シリーズNEXT)』　加藤秀夫・木戸康博・桑波田雅士／編　講談社サイエンティフィック　2012年　2,800円(税抜き)（ISBN978-4-06-
成績評価基準	各回の実験の目的に沿って結果を解釈でき、それが栄養生化学等で学んだこととどのように関連しているのかを理解して考察できたものは合格とする。
成績評価の方法	実験レポート点(60%)，平常点（実験態度・意欲）（30%)，小テスト（10%）、
ＧＰＡ基準	
備考	・「栄養生化学Ⅰ、Ⅱ」及び「栄養学総論」の単位を修得していることが望ましい ・教育効果向上のため、2コマ(180分)×12回で実施する

科目名	食品加工学実習	**科目ナンバー**	**S21305**
担当者	木戸　めぐみ		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［関連科目］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	選択必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	食品の加工は、保存性を高めるだけでなく、利便性や簡便性、機能性などの付加価値を高め、新たな経済的価値の創出や、地域活性化が期待されることから、食品開発分野においても着目されている。本実習では食品成分の特性を理解し、加工技術を習得できるよう実習をする。さらに、地域食材を使用し、新たな製品開発のための活動をする。			
授業の到達目標	1．食品の貯蔵法、加工法について説明できる2．食品の加工時における食品成分の変化について説明できる3．食品の加工原理・技術を習得し、実践できる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	概要説明・小麦粉の加工1：ふくれ菓子、かぼちゃ饅頭	木戸
第2回	加工施設見学	木戸
第3回	小麦粉の加工2：うどん　他	木戸
第4回	米穀の加工：あくまき、いこもち、大福　他	木戸
第5回	いも類の加工：大学芋、いきなり団子　他	木戸
第6回	豆類の加工：味噌、豚味噌、木綿豆腐　他	木戸
第7回	野菜・果実の加工：キャベツのレモン漬け、らっきょう漬、梅干し、ジャム　他	木戸
第8回	水産物の加工：さつま揚げ、昆布の佃煮、ところてん、黒糖羊羹　他	木戸
第9回	小麦粉の加工3：パン各種	木戸
第10回	乳、卵類の加工：ヨーグルト、レモンカード　他	木戸
第11回	オリジナル加工品の試作・検討1	木戸
第12回	オリジナル加工品の試作・検討2	木戸
第13回	オリジナル加工品の発表・評価	木戸
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	地域食材や加工食品に関する情報収集を行う。	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習に関連する課題と実習レポートを翌週の実習開始までに提出する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題(レポート等)に対して、適宜授業の中で解説、講評する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日　16:30～18:30　研究室(本館505号室)		

テキスト	テキストは使用せずに、資料を配布する。
参考文献等	『食品加工学と実習 ・実験 第2版』・谷口亜樹子編著・光生館・2016年・2,100円(税抜き)・(ISBN978-4-332-04064-4) 『つくってみよう加工食品－第7版』・仲尾玲子・中川裕子・学文社・2019・2,500円(税抜き）・(ISBN978-4-7620-2905-9)『食べ物と健康，食品
成績評価基準	課題レポートが提出され、食品加工の知識や技術を習得したと認められたものは合格とする。
成績評価の方法	実習・課題レポート(30%)、 実習中のグループの活動、試作検討・発表(70%)で総合的に判定する。グループ発表はレポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	・教育効果向上のため、2コマ(180分)×13回で実施する ・実習を欠席した場合でもレポートは必ず提出すること

科目名	臨床栄養学概論	科目ナンバー	S21306
担当者	寺師　睦美		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［栄養と健康］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免　　選択必修：こども食物アレルギー実務課程		

授業の概要	医療・福祉・介護等における栄養士の役割、傷病者の病態の特徴や栄養状態の評価、適切な栄養管理、疾病予防の考え方を講義する。チーム医療における治療の基本的知識や手法、疾病の再発や重症化予防に繋がる栄養管理の方法を説明する。			
授業の到達目標	1. 傷病者の栄養代謝状態の評価方法や栄養補給、栄養治療計画のあり方を理解できる　2. 各疾患の定義、病因や症状、治療、栄養管理の考え方を理解できる　3. 臨床の基本的な専門用語や治療の実際を学び理解できる　4. 免疫・食物アレルギーの病態と食事療法の考え方、栄養教育の実際を理解できる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	臨床栄養学の基礎、医療と介護制度	寺師
第2回	栄養管理の概要、栄養補給法、食事と医薬品の相互作用	寺師
第3回	栄養・代謝・内分泌系疾患?(栄養障害、ビタミン・ミネラル欠乏症)	寺師
第4回	栄養・代謝・内分泌系疾患?(メタボリックシンドローム、肥満症、糖尿病)	寺師
第5回	栄養・代謝・内分泌系疾患?(脂質異常症、高尿酸血症、内分泌疾患)	寺師
第6回	循環器系疾患?(高血圧症、動脈硬化症、脳血管障害)、小テスト	寺師
第7回	循環器系疾患?(虚血性心疾患、心不全、妊娠高血圧症候群)	寺師
第8回	消化器系疾患?(口腔疾患、胃・腸疾患、炎症性腸疾患)	寺師
第9回	消化器系疾患?(肝疾患、胆・膵疾患)	寺師
第10回	腎・尿路系疾患?(腎炎症候群、ネフローゼ症候群、慢性・急性腎臓病)	寺師
第11回	腎・尿路系疾患?(糖尿病性腎症、腎不全、透析)、小テスト又は課題	寺師
第12回	外科分野、精神・神経疾患、呼吸器系疾患、血液系疾患	寺師
第13回	免疫・食物アレルギー疾患、皮膚疾患	寺師
第14回	悪性腫瘍、小児疾患、高齢者疾患、筋・骨格系疾患	寺師
第15回	総括、課題学習（討議）	寺師

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として病院や福祉施設等での実務経験を活かし、傷病者の栄養管理と疾病発症予防の考え方について教授する。		
事前学習	解剖生理学や関連科目を復習し、授業範囲を予習する。	学習合計時間(h)	30
事後学習	臨床栄養学実習と関連付けて復習する。テーマに基づいて、調べたことをまとめる。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題のポイントを説明する。ユニパを活用する。課題の質問事項や改善点は、個別に対応する。		
質問・相談方法	講義・実習の後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日　16：30～18：00　研究室(西館313号室)		

テキスト	『はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ7　臨床栄養学概論　病態生理と臨床栄養管理を理解するために第2版』　位田忍他著　(株)化学同人　2,700円(税抜)　(ISBN978-4-7598-1865-9)
参考文献等	『エッセンシャル臨床栄養学第9版』　佐藤和人・本間健・小松龍史編　医歯薬出版株式会社　2022年　3,700円(税抜)　(ISBN978-4-263-70826-2) 『糖尿病食事療法のための食品交換表』　日本糖尿病協会編著　文光堂　2013年　900円(税抜)　(ISBN 978-4-8306-6046-7)　『腎臓病食品交換
成績評価基準	臨床現場における栄養管理の基礎知識、各疾患の病態の特徴や治療方法、基本的な病態別栄養管理の考え方、臨床の専門用語を理解できるし、医療・福祉・介護等に応じた栄養管理と、生活習慣との関連について説明できるものは合格とする。
成績評価の方法	課題(10%)、小テスト(20%)、定期試験60分(70%)で総合的に評価する。レポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	臨床栄養学実習	科目ナンバー	S22301
担当者	寺師　睦美		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	実習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［栄養と健康］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	各疾患の病態や栄養状態に対応する治療食を提供するために必要な食事計画を立て、献立作成と調理方法の実践的な知識と技術の習得について学ぶ。実習前に実習方法を説明し、結果の検討・考察・評価、レポート作成など栄養管理を行う方法を講義する。			
授業の到達目標	1. 各疾患の治療食の基本的な考え方、献立作成と調理方法を理解する　　2. 各疾患に応じた治療食を調理し、比較・評価することができるようになる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	臨床栄養学実習の基礎(食事計画の作成：常食)	寺師
第2回	常食(食事計画作成)	寺師
第3回	易消化食(栄養管理の基本、食事計画作成)	寺師
第4回	易消化食(適切な食品選択と調理の工夫)（実習・グループワーク・発表）	寺師
第5回	エネルギーコントロール食(栄養管理の基本、糖尿病食品交換表の理解)	寺師
第6回	エネルギーコントロール食(糖尿病食品交換表を用いた食事計画作成)（討議）	寺師
第7回	エネルギーコントロール食(適切な食品の選択と調理の工夫)（実習・グループワーク・発表）	寺師
第8回	食塩制限食(栄養管理の基本、食事計画作成)（討議）	寺師
第9回	食塩制限食(適切な食品の選択と調理の工夫)（実習・グループワーク・発表）	寺師
第10回	たんぱく質コントロール食(栄養管理の基本、 腎臓病食品交換表の理解)（討議）	寺師
第11回	たんぱく質コントロール食(適切な食品の選択と調理の工夫)（実習・グループワーク）	寺師
第12回	脂質コントロール食(栄養管理の基本、食事計画作成)（討議）	寺師
第13回	脂質コントロール食(適切な食品の選択と調理の工夫)（実習・グループワーク）	寺師
第14回	口腔障害・摂食・嚥下障害食(栄養管理の基本)（実習・グループワーク）	寺師
第15回	総括	寺師

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として病院や福祉施設等での実務経験を活かし、実践的な傷病者の栄養管理の方法について教授する。		
事前学習	授業範囲を予習し、グループで課題に取り組む。	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習内容をまとめて、レポートを作成する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題のポイントを説明する。ユニパを活用する。課題の質問事項や改善点は、個別に対応する。		
質問・相談方法	講義・実習の後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日　16：30～18：00　研究室(西館313号室)		

テキスト	『臨床栄養学実習書』　玉川和子他編著　医歯薬出版株式会社　2022年　2700円(税抜)　(ISBN 978-4-263-70640-4)　『糖尿病食事療法のための食品交換表』　日本糖尿病協会　文光堂　2013年　900円(税抜)　(ISBN 978-4-8306-6046-7)　『腎臓病食品交換表』　黒川清監修　医歯薬出版株
参考文献等	『一品料理500選治療食への展開 第4版』 宗像伸子編著　医歯薬出版株式会社 2022年 6500円(税抜)　(ISBN 978-4-263-70828-6)　　『食品成分表』　香川芳子監修　女子栄養大学出版部　1500円(税抜)　(ISBN 978-4-7895-1021-9)
成績評価基準	各疾患に応じた基本的な栄養管理の考え方と、献立作成や調理方法の工夫を理解できるものは合格とする。課題やレポート作成から、学外実習に関連した実践的な手法を習得すること。
成績評価の方法	レポート作成(40%)、献立作成(10%)、定期試験60分(50%)で総合的に評価する。レポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	教育効果向上のため、2コマ(180分)×12回で実施する。

科目名	栄養指導実習Ⅰ	**科目ナンバー**	S22302
担当者	改元　香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	専門科目［栄養の指導］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	栄養指導論Ⅰ・Ⅱで得られた知識や技術を土台にして、健康・栄養状態、食行動、食習慣の評価・判定に基づき、栄養教育および栄養指導の指導案を作成し、教育することを実習する。※授業効率を鑑みて、1回180分（2コマ）で実施する。			
授業の到達目標	1．個人の栄養状態、健康状態を把握することができる　2．栄養アセスメントを実施できる　3．指導案を作成し、栄養教育・指導を実施できる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	栄養教育・栄養指導の基礎知識(食事摂取基準)	改元
第2回	栄養教育・栄養指導の基礎知識(食品構成表の作成)	改元
第3回	栄養教育・栄養指導の基礎知識(献立作成の基本)	改元
第4回	栄養教育・栄養指導の基礎知識(献立作成ソフトの使い方)	改元
第5回	実態把握の方法(栄養・食事調査、生活調査)	改元
第6回	実態把握の方法(嗜好調査・残食調査、統計処理)	改元
第7回	実態把握の方法(身体活動状況調査)	改元
第8回	栄養教育指導案および指導媒体の作成	改元
第9回	行動科学に基づく栄養指導の実践	改元
第10回	食品交換表を利用した栄養指導、献立作成	改元
第11回	献立作成ソフトを利用した献立作成と展開	改元
第12回	個人および集団を対象とした栄養教育、カウンセリング	改元
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
			○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、栄養指導について教授する。		
事前学習	栄養指導論Ⅰ・Ⅱで習得した関連項目をテキストなどで確認し、実習に備える	学習合計時間(h)	5
事後学習	実習で返却、演習したプリントを確実に理解する	学習合計時間(h)	5
課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	金曜日　13：00～14：00　研究室(本館　504号室)		

テキスト	『エスカベーシック栄養指導論第三版』古畑公、田中弘之他　同文書院　2300円（税抜）（ISBN978-4-8103-1531-8）　『日本人の食事摂取基準(2025年版)』　菱田明・佐々木敏監修　第一出版株式会社　2014年　2,700円(税抜)（ISBN978-4-8041-1312-8）　『糖尿病食事療法のための食品
参考文献等	特になし
成績評価基準	対象者の実態把握から問題点を抽出し、栄養指導の指導案を作成し、それに沿った栄養指導を実施できたものは合格とする。
成績評価の方法	レポート課題(50%)、実習取組状況(60%)で成績を評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	※教育効果向上のため、2コマ(180分)×12回で実施する、GoogleClassroom, UNIPAを使用して掲示や課題や資料の配信、提出をおこなう。

科目名	栄養指導実習Ⅱ	科目ナンバー	S22401
担当者	改元　香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［栄養の指導］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士		

授業の概要	栄養指導論Ⅰ・Ⅱおよび栄養指導実習Ⅰで得た知識や技術を土台にして、具体的な対象者に対する栄養アセスメントを実施し、指導する方法を学ぶ。また、食行動の変容に導く理論と技術について実習する。※事業効率を鑑みて1回180分（2コマ）で実施する。			
授業の到達目標	1．対象者に対して計画的に問題を解決することができる　2．対象者に応じた栄養教育を媒体を使用して実施することができる　3．行動変容の評価ができ、改善点を見出すことができる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	栄養指導法(プレゼンテーションのための指導案・報告書作成)	改元
第2回	栄養指導法(プレゼンテーションのための媒体作成)	改元
第3回	栄養指導法(プレゼンテーションの実施、1グループ目)	改元
第4回	栄養指導法(プレゼンテーションの実施、2グループ目)	改元
第5回	個人を対象とした栄養指導(ロールプレイング)	改元
第6回	集団を対象とした栄養指導(指導案作成)	改元
第7回	集団を対象とした栄養指導(文献検索・媒体作成)	改元
第8回	集団を対象とした栄養指導(媒体作成)	改元
第9回	集団を対象とした栄養指導(模擬指導、1グループ目)	改元
第10回	集団を対象とした栄養指導(模擬指導、2グループ目)	改元
第11回	集団を対象とした栄養指導(模擬指導、3グループ目)	改元
第12回	症例別栄養指導・栄養指導の総まとめ	改元
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、栄養指導について教授する。		
事前学習	栄養指導論Ⅰ・Ⅱで習得した関連項目をテキストなどで確認し、実習に備える	学習合計時間(h)	10
事後学習	実習で返却、演習したプリントを確実に理解する	学習合計時間(h)	5
課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	金曜日　13：00～14：00　研究室(本館　504号室)		

テキスト	『エスカベーシック栄養指導論第三版』古畑公、田中弘之他　同文書院　2300円（税抜）（ISBN978-4-8103-1531-8）『日本人の食事摂取基準(2025年版)』　菱田明・佐々木敏監修　第一出版株式会社　2,700円(税抜)（ISBN978-4-8041-1312-8）『糖尿病食事療法のための食品交換表
参考文献等	特になし
成績評価基準	栄養カウンセリングの技法を取り入れた個人指導、および指導媒体を使用した集団指導を実施することができたものを合格とする。
成績評価の方法	レポート評価(30%)、実習取組状況(70%)で成績を評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	※教育効果向上のため、2コマ(180分)×12回で実施する、GoogleClassroom, UNIPAを使用して掲示や課題や資料の配信、提出をおこなう。

科目名	給食実務演習Ⅰ	**科目ナンバー**	**S22303**
担当者	児玉　むつみ		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	**科目群**	専門科目［給食の運営］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	特定給食施設で給食を運営するための計画から提供までの各種業務(食材管理、調理・作業管理、安全・衛生管理、施設・設備管理など)をＰＤＣＡサイクルの流れの演習により習得させる。また、衛生管理報告会を通し衛生管理の重要性を認識させる。			
授業の到達目標	1. 給食を運営するための計画から提供までの業務を理解し、ＰＤＣＡサイクルの流れで適切な評価・改善ができる　2. 大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた安全・衛生管理の重要性を認識し、実践できる　3. 栄養・食事管理、食材管理、調理作業管理を協力しながら実践できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	献立計画に関するディスカッション	児玉
第2回	試作計画・準備	児玉
第3回	実施献立表の評価	児玉
第4回	衛生管理計画	児玉
第5回	衛生管理計画の評価	児玉
第6回	食材料管理	児玉
第7回	食材料管理の評価	児玉
第8回	生産管理計画	児玉
第9回	生産管理計画の評価　衛生管理報告会（ICT活用、ディスカッション含む）	児玉
第10回	会計・労務計画の評価	児玉
第11回	帳票等事務管理	児玉
第12回	栄養教育(食育だより、献立に関する発表)　衛生管理報告会（ICT活用、ディスカッション含む）	児玉
第13回	栄養教育(食育だより、献立に関する発表)　衛生管理報告会（ICT活用、デスカッション含む）	児玉
第14回	実習後報告会の運営計画	児玉
第15回	実施後報告会の実施・評価	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、給食実務について教授する。		
事前学習	事前に課題に取り組むこと。(自己学習、衛生管理計画等)	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習記録の記入やミーティング資料作成を進めておくこと。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じ個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日12：00～13：00　または　金曜日14：30～18：00　研究室(南館1階奥：104号室)		

テキスト	給食管理実習・給食実務演習　実習ノート　児玉むつみ　2024年　2980円（税抜き）ビジネス実用社　2980円（税抜き）（ISBN978-4-910911-11-3）調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル　文部科学省　学建書院　1000円（税抜き）(ISBN978-4-7624-0878-6)
参考文献等	改訂　給食経営管理論実習　石田裕美　建帛社　2400円（税抜き）（ISBN978-4-7679-0713-0)改訂新版　大量調理－品質管理と調理の実際－　殿塚婦美子　2700円（税抜き）（ISBN978-4-7624-2872-2)
成績評価基準	特定給食施設で給食を運営するための計画から提供までの各業務を理解し、説明できたものを合格とする。また、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた各種帳簿作成、発注業務、食材管理および栄養教育などの実務を実践できること。
成績評価の方法	定期試験(80%)、自己学習等の提出物（20%)により総合的に評価する。但し、レポートで代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	・Google Classroom, Unipaを使用する。

科目名	給食実務演習Ⅱ	科目ナンバー	S22402
担当者	児玉　むつみ		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［給食の運営］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	特定給食施設で給食を運営するための計画から提供までの各種業務(食材管理、調理・作業管理、安全・衛生管理、施設・設備管理など)をＰＤＣＡサイクルの流れの演習により習得させる。また、衛生管理報告会を通し衛生管理の重要性を認識させる。			
授業の到達目標	1．給食を運営するための計画から提供までの業務を理解し、ＰＤＣＡサイクルの流れで適切な評価・改善ができる　2．大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた安全・衛生管理の重要性を認識し、実践できる　3．栄養・食事管理、食材管理、調理作業管理を研究・協力しながら実践できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	献立計画に関するディスカッション	児玉
第2回	試作計画・準備	児玉
第3回	実施献立表の評価	児玉
第4回	衛生管理計画	児玉
第5回	衛生管理計画の評価　衛生管理報告会（ICT活用、ディスカッション含む）	児玉
第6回	食材料管理	児玉
第7回	食材料管理の評価	児玉
第8回	生産管理計画	児玉
第9回	生産管理計画の評価　衛生管理報告会（ICT活用、ディスカッション含む）	児玉
第10回	会計・労務計画の評価	児玉
第11回	帳票等事務管理	児玉
第12回	栄養教育(食育だより、献立に関する発表)	児玉
第13回	衛生管理報告会（ICT活用、ディカッション含む）	児玉
第14回	実習後報告会の運営計画	児玉
第15回	実施後報告会の実施・評価	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、給食実務について教授する。		
事前学習	事前に課題に取り組むこと。(自己学習、衛生管理計画等)	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習記録の記入やミーティング資料作成を進めておくこと。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じ個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日12：00～13：00　または　金曜日14：30～18：00　研究室(南館1階奥：104号室)		

テキスト	給食管理実習・給食実務演習　実習ノート　児玉むつみ　2024年　2980円（税抜き）ビジネス実用社　2980円（税抜き）（ISBN978-4-910911-11-3）調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル　文部科学省　学建書院　1000円（税抜き）(ISBN978-4-7624-0878-6)
参考文献等	改訂　給食経営管理論実習　石田裕美　建帛社　2400円（税抜き）（ISBN978-4-7679-0713-0)改訂新版　大量調理－品質管理と調理の実際－　殿塚婦美子　2700円（税抜き）（ISBN978-4-7624-2872-2)
成績評価基準	特定給食施設で給食を運営するための計画から提供までの各種業務を理解し、ＰＤＣＡサイクルの流れを繰り返しながら、研究的、積極的かつ円滑に行うことができたものを合格とする。また、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた各帳簿作成、発注業務、食材管理および栄養教育などの
成績評価の方法	定期試験(80%)、自己学習等の提出物（20%)により総合的に評価する。但し、レポートで代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	・Google Classroom, Unipaを使用する。

科目名	給食管理実習Ⅰ	科目ナンバー	S22304
担当者	児玉　むつみ		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［給食の運営］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	学生を対象とした給食の提供(大量調理)を行い、栄養士業務に必要な給食運営の計画策定・実践・評価方法・大量調理技術などを習得させる。18～29歳の女性、身体活動ふつうを対象とした献立作成、試作、食材料管理、作業管理、衛生管理、大量調理実習、評価などを班活動により理解させる。			
授業の到達目標	1．給食の栄養計画・献立作成・調理計画・衛生管理計画を作成できる　2．大量調理の方法、衛生管理の実際等について実習し、PDCAサイクルに従った改善・評価ができる3．食材管理、労務管理、会計管理等の給食の運営について理解できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション、実習計画、給食管理実習室衛生管理マニュアル	児玉
第2回	１計画（Plan)栄養・食事管理（献立計画および栄養計算）	児玉
第3回	栄養・食事管理（試作・献立検討）	児玉
第4回	食材管理および調理管理（献立指示書）	児玉
第5回	栄養教育計画および衛生管理（衛生ポイント）	児玉
第6回	２実施（Do)発注、出庫、生産管理（作業工程表・動線図、ミーティング）	児玉
第7回	品質管理（検収、保管）、調理管理（大量調理）	児玉
第8回	調理管理（大量調理、盛り付け）、品質管理（検食、保存食）	児玉
第9回	調理管理（大量調理、配膳、喫食）、衛生管理（衛生報告会）	児玉
第10回	調理・作業管理（大量調理の食器・調理器具の洗浄及び点検）	児玉
第11回	３評価（Check)品質管理（残食調査、反省会）	児玉
第12回	安全・衛生管理（衛生報告会）	児玉
第13回	事務管理（帳簿整理、栄養評価）	児玉
第14回	品質管理（満足度調査、反省会）、実習全体を通しての評価	児玉
第15回	４改善（Act)実施献立表作成、衛生管理マニュアル見直し	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、給食管理実習について教授する。		
事前学習	事前に課題(献立作成・役割分担）に取り組むこと。	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習記録の記入や会計、反省会資料作成など進めておくこと。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日12：00～13：00　または　金曜日14：30～18：00　研究室(南館1階奥：104号室)		

テキスト	給食管理実習・給食実務演習　実習ノート　児玉むつみ　2024年　2980円（税抜き）ビジネス実用社　2980円（税抜き）（ISBN978-4-910911-11-3）調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル　文部科学省　学建書院　1000円（税抜き）(ISBN978-4-7624-0878-6)
参考文献等	四訂給食運営管理実習・学内編　殿塚婦美子・三好恵子　建帛社　2100円(税抜き)(ISBN978-4-7679-0689-８)改訂新版　大量調理　－品質管理と調理の実際－　殿塚婦美子　2700円（税抜き）（ISBN978-4-7624-2872-2)
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解し、責任を持って、協力し合いながら係の活動、調理及び衛生管理等を行い、ミーティングや反省会などの事前・事後の活動も意欲的に取り組めたものを合格とする。
成績評価の方法	受講態度(40%)、実習記録やミーティング資料等の提出物(40%)、班活動や準備への参加状況(20%)により、総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	・Google Classroom, Unipaを使用する。 ・教育効果向上のため、2コマ(180分)で実施する。

科目名	学外実習Ⅰ・Ⅱ指導		科目ナンバー	S22305
担当者	寺師　睦美			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	演習			
配当年次	2年	科目群	専門科目［給食の運営］	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1単位	担当形態	オムニバス	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免			

授業の概要	6月実施の給食管理実習(学外Ⅰ)と学校給食管理実習(学外Ⅰ)、8月実施の給食管理実習(学外Ⅱ)を履修するに当たって、栄養士に必要な知識・技能・態度を養う。各施設で学ぶ具体的な目的と、実習の明確な目標、課題への取り組みについて講義する。実習施設での実習内容を予め把握し、予習や予備演習を行う場とする。実習施設から提示された課題(献立作成、試作、食育・栄養指導案、教材・資料作成等)について取り組み、実践的な具体例をあげて説明する。			
授業の到達目標	1. 学外実習の意義・目的を理解し、相応しい態度を身につける　2. 献立作成能力、調理技術など基礎的な技能を習得できる　3. 学外実習の成果を、今後の進路に生かすことができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	学外実習Ⅰ・Ⅱ指導オリエンテーション(学外実習の概要説明、事前訪問等の指導)	寺師・改元・児玉
第2回	各施設の体験発表	寺師・改元・児玉
第3回	各施設の意義と目的、心得と注意点の説明	寺師・改元・児玉
第4回	各施設の学外実習の目的と内容「目標と課題」の作成指導	寺師・改元・児玉
第5回	卒業生等の現場栄養士経験者による各給食施設の栄養士業務及び実習心得指導	寺師・改元・児玉
第6回	学外実習関係書類の内容説明、衛生管理の指導	寺師・改元・児玉
第7回	各施設の特徴と栄養士業務の理解(献立作成・栄養指導・教材・資料作成)	寺師・改元・児玉
第8回	施設別課題演習Ⅰ(献立作成・栄養指導作成)	寺師・改元・児玉
第9回	施設別課題演習Ⅱ(教材・資料作成)	寺師・改元・児玉
第10回	総括	寺師・改元・児玉
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	○		

担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として、各施設での実務経験を活かし、実践的な給食管理と栄養管理の考え方や方法について教授する。		
事前学習	実習施設の概要や特徴を調べる。実習施設の課題に取り組む。	学習合計時間(h)	10
事後学習	実習内容をまとめて、学外実習交流会にて1年生を指導する。	学習合計時間(h)	10
課題に対するフィードバックの方法	ユニパを活用する。課題の質問事項や改善点は、個別に対応する。		
質問・相談方法	講義の後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	寺師：月曜日　16：30～18：00　研究室(西館313号室)　改元：金曜日　13：00～15：00　研究室(本館504号室)児玉：木曜日　10：00～12：00　研究室(南館104号室)		

テキスト	給食管理実習(学外)記録
参考文献等	『衛生管理＆調理技術マニュアル』　文部科学省　学建書院　2018年　1000円(税抜)(ISBN：978-4-7624-0878-6)『糖尿病食事療法のための食品交換表』　日本糖尿病協会編著　文光堂　2013年　900円(税抜)　(ISBN：978-4-8306-6046-7)『腎臓病食品交換表』　黒川清監修　医歯薬出版株
成績評価基準	実習施設の概要を把握し、目的を理解し課題に取り組む。　実習内容をまとめて自己評価し、説明することができるものは合格とする。
成績評価の方法	課題提出状況(80%)、発表等(20%)により総合的に評価する。レポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	給食管理実習（学外Ⅰ）		科目ナンバー	S22306
担当者	改元　香			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	実習			
配当年次	2年	科目群	専門科目［給食の運営］	
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	2単位	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士			

授業の概要	給食現場における実践を通して、給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識および技能を習得するための実習を行う。			
授業の到達目標	1．給食の運営および栄養士の役割について理解できる。　2．実践の場における専門的知識と技術の統合ができる。3．実践の場における課題の発見(気づき)や問題を解決することができる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	事前指導：施設・業務の概要と特徴	実習先担当者
第2回	事前指導：給与栄養目標量の算定・食品構成表の作成	実習先担当者
第3回	事前指導：献立作成	実習先担当者
第4回	残食調査の実施、喫食アンケート作成	実習先担当者
第5回	残食調査報告・喫食アンケートの実施及び報告	実習先担当者
第6回	施設設備管理	実習先担当者
第7回	調理機器類の種類と保守管理、食器の選定	実習先担当者
第8回	食材料管理	実習先担当者
第9回	作業管理(食数管理・人員配置)	実習先担当者
第10回	作業管理(料理業務)	実習先担当者
第11回	作業管理(配膳・供与)	実習先担当者
第12回	作業管理(食器洗浄等)	実習先担当者
第13回	衛生管理・危機管理	実習先担当者
第14回	事務管理	実習先担当者
第15回	食に関する指導	実習先担当者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
				○	

担当教員の実務経験と授業の関連	実習先担当者の栄養士実務を活かして教授する。		
事前学習	実習実施に向けての目的や目標を明確にし、課された課題に対して十分に取り組み、施設概要や対象者の特性などを理解しておく。	学習合計時間(h)	5
事後学習	実習を通して気づいた点や、問題点、反省点を明確にし、改善策をまとめ、報告し、今後に生かす。	学習合計時間(h)	5
課題に対するフィードバックの方法	課題等に対し、個別に対応する。		
質問・相談方法	オフィスアワーに直接、およびメール等で対応する。		
オフィスアワー	金曜日　13：00～14：00　研究室(本館　504号室)		

テキスト	給食管理実習(学外)記録
参考文献等	『六訂　大量調理施設　衛生管理のポイント　HACCPの考え方に基づく衛生管理手法』　荘村明彦、　中央法規、　2018年　2400円(税別)(978-4-8058-5735-9)　『日本人の食事摂取基準』伊藤貞嘉、佐々木敏他　第一出版株式会社　2020年　2,800円(税抜)　(ISBN978-4-8041-1408-8)『ライ
成績評価基準	給食現場における実践を通して、給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士として具備すべき知識および技能を習得できた者は合格とする
成績評価の方法	学外実習の評価(100%)
ＧＰＡ基準	1
備考	連絡や資料等の配信はUNIPA、GoogleCrassroom、e-mailで行います。

科目名	給食管理実習（学外Ⅱ）	**科目ナンバー**	**S22307**
担当者	寺師　睦美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［給食の運営］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	2単位	**担当形態**	複数
免許・資格情報	選択：栄養士		

授業の概要	学外実習施設において、給食運営に必要な食事の計画や、調理を含めた給食サービス提供の基本的な業務を現職の栄養士のもとで経験し、栄養士として具備すべき知識、技能、態度および考え方、より実践的なスキルについて学ぶ。			
授業の到達目標	1. 各給食施設の給食について理解できる　2. 各給食施設の栄養士の役割について理解できる　3. 給食サービス提供に関する専門的技能を身につける			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	施設、業務の概要と特徴	実務先担当者
第2回	給与栄養目標量の算定、食品構成表の作成	実務先担当者
第3回	献立作成	実務先担当者
第4回	残食調査の実施、喫食アンケート作成	実務先担当者
第5回	残食調査の実施、喫食アンケート実施	実務先担当者
第6回	残食調査の実施、喫食アンケート報告	実務先担当者
第7回	調理機器類の種類と保守管理、食器の選定	実務先担当者
第8回	食材料管理(発注、検収、保管)	実務先担当者
第9回	作業管理(食数管理、人数配置、事務管理)	実務先担当者
第10回	作業管理(調理業務)	実務先担当者
第11回	作業管理(配膳、供与)	実務先担当者
第12回	作業管理(食器洗浄)	実務先担当者
第13回	衛生管理、危機管理	実務先担当者
第14回	病態や栄養状態に対応する栄養管理	実務先担当者
第15回	食に関する指導	実務先担当者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
			○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として、各施設での実務経験を活かし、実践的な給食管理と栄養管理の考え方や方法について教授する。		
事前学習	実習先施設の概要や特徴を調べ、課題に取り組む。目標を明確にし、提出書類などを作成する。	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習内容を実習記録にまとめて提出する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	ユニパを活用する。課題の質問事項や改善点は、個別に対応する。		
質問・相談方法	実習前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	寺師：月曜日　16：30～18：00　研究室(西館313号室)		

テキスト	給食管理実習(学外)記録
参考文献等	『改訂 応用栄養学実習〔第2版〕-PDCAサイクルによる栄養ケア-』　柳沢幸江・松井幾子編著　建帛社　2022年　2400円(税抜)　(ISBN 978-4-7679-0726-0)　『臨床栄養学実習書』　玉川和子他編著　医歯薬出版株式会社　2022年　2700円(税抜)　(ISBN 978-4-263-70640-4)『糖尿病食
成績評価基準	実習施設の概要を把握し、目的を理解し課題に取り組み、栄養士業務について、実践的かつ専門的技能を修得したものは合格とする。
成績評価の方法	学外実習先の評価(60%)および実習記録等(40%)により総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	1
備考	COC関連科目

科目名	学校給食管理実習（学外Ⅰ）	科目ナンバー	S22309
担当者	児玉　むつみ		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［給食の運営］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄教免		

授業の概要	学外実習先で学校給食運営に必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供の基本的業務を現職の栄養教諭または学校栄養職員のもと経験させ、栄養士として具備すべき知識・技能・態度および考え方を習得させる。			
授業の到達目標	1．学校給食施設の給食の運営について理解できる　2．学校給食施設の栄養教諭の役割について理解できる　3．給食サービス提供に関する専門的技能を身に付ける			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	学校給食施設・業務の概要と特徴	実習先担当者
第2回	学校給食の栄養管理、献立作成	実習先担当者
第3回	学校給食の衛生管理・危機管理、食物アレルギー対応	実習先担当者
第4回	学校給食施設設備管理、食器の選定	実習先担当者
第5回	残食調査、喫食アンケートなど	実習先担当者
第6回	食材料管理（発注、検収、在庫管理など）	実習先担当者
第7回	作業管理(食数管理・人員配置)、事務管理	実習先担当者
第8回	調理管理(保存食、料理業務)	実習先担当者
第9回	食に関する指導、給食の時間の指導媒体	実習先担当者
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
				○	

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、学外実習における給食管理実習ついて教授する。		
事前学習	実習実施に向けての目的や目標を明確にし、課された課題に対して十分に取り組み、施設概要や対象者の特性などを理解しておく。	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習を通して気づいた点や、問題点、反省点を明確にし、改善策をまとめ、報告し、今後に生かす。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応する。		
質問・相談方法	オフィスアワーで対応する。		
オフィスアワー	木曜日12：00～13：00　または　金曜日14：30～18：00　研究室(南館1階奥：104号室)		

テキスト	給食管理実習(学外)記録
参考文献等	調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル　文部科学省　学建書院　1000円(税抜き)(ISBN　978-4-7624-0878-6)学校給食実施基準の一部改正について(平成30年文部科学省)学校給食衛生管理基準(平成21年文部科学省告示第64号)
成績評価基準	学校給食現場における実習を通して、給食業務を行うために必要な給食サービス提供に関し、栄養士・栄養教諭として具備すべき知識および技能を習得できたものは合格とする。
成績評価の方法	学外実習先の評価(90%)実習記録(10%)
ＧＰＡ基準	1
備考	

科目名	給食管理実習Ⅱ	科目ナンバー	S22403
担当者	児玉　むつみ		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	実習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［給食の運営］
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	学生を対象とした給食の提供(大量調理)を行い、栄養士業務に必要な給食運営の計画策定・実践・評価方法・大量調理技術などを習得させる。18～29歳の女性、身体活動ふつうを対象とした献立作成、試作、食材料管理、作業管理、衛生管理、大量調理実習、評価などを班活動により理解させる。			
授業の到達目標	1．給食の栄養計画・献立作成・調理計画・衛生管理計画を作成できる　2．大量調理、衛生管理、食事サービス、喫食時の栄養教育等を実習し、PDCAサイクルに従った改善・評価を行うことで実践力を身に付ける3．食材管理、労務管理、会計管理等の給食の運営について理解できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション１計画（Plan)実習計画、栄養・食事計画	児玉
第2回	栄養・食事管理（試作・献立検討）	児玉
第3回	食材管理および調理管理（献立指示書、作業工程表、動線図）	児玉
第4回	２実施（Do)発注、出庫、生産管理（作業工程表、動線図）	児玉
第5回	ミーティング、調理管理（大量調理）、施設・設備管理	児玉
第6回	品質管理（検収、保管）、調理管理（大量調理）	児玉
第7回	調理管理（大量調理、盛り付け）、品質管理（検食、保存食）	児玉
第8回	品質管理（温度管理）、調理管理（大量調理）	児玉
第9回	調理管理（大量調理、盛り付け）、品質管理（検食、保存食）	児玉
第10回	調理・作業管理（大量調理の食器・調理器具の洗浄及び点検）	児玉
第11回	３評価（Check)品質管理（残食調査、衛生報告会、反省会）	児玉
第12回	安全・衛生管理（衛生報告会、反省会）	児玉
第13回	事務管理（帳簿整理、栄養評価）	児玉
第14回	品質管理（満足度調査、反省会）、実習全体を通しての評価	児玉
第15回	４改善（Act)実施献立表作成、衛生管理マニュアル見直し、レシピ集作成	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、給食管理実習について教授する。		
事前学習	事前に課題(献立作成・役割分担）に取り組むこと。	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習記録の記入や会計、反省会資料作成など進めておくこと。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日12：00～13：00　または　金曜日14：30～18：00　研究室(南館1階奥：104号室)		

テキスト	給食管理実習・給食実務演習　実習ノート　児玉むつみ　2024年　2980円（税抜き）ビジネス実用社　（ISBN978-4-910911-11-3） 調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル　文部科学省　学建書院　1000円（税抜き）(ISBN978-4-7624-0878-6)
参考文献等	四訂給食運営管理実習・学内編　殿塚婦美子・三好恵子　建帛社　2100円(税抜き)(ISBN978-4-7679-0689-８)改訂新版　大量調理　－品質管理と調理の実際－　殿塚婦美子　2700円（税抜き）（ISBN978-4-7624-2872-2)
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解し、責任を持って、協力し合いながら係の活動、調理及び衛生管理等を行い、ミーティングや反省会などの事前・事後の活動も意欲的に取り組めたものを合格とする。
成績評価の方法	受講態度(40%)、実習記録やミーティング資料等の提出物(40%)、班活動や準備への参加状況(20%)により、総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	・Google Classroom, Unipaを使用する。 ・教育効果向上のため、2コマ(180分)で実施する。

科目名	調理学実習 II	科目ナンバー	S22308
担当者	木戸　めぐみ		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	実習		
配当年次	2年	科目群	専門科目［給食の運営］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免		

授業の概要	健康増進を根底におき食材の栄養特性を知り、それをいかす調理技術を基礎から応用へ進めながら、合理的かつ安心安全で栄養学的に望ましい食事作りができる力を養うようにする。同時に、旬の食材や地域の特性をいかし、食文化について理解を深め、郷土料理や行事食を体験し日本の食文化を継承する意義について学ばせる。内容は、日本料理、西洋料理、中国料理を中心にそれぞれの料理様式の特徴を学ぶことで、様々な料理を組み合わせた献立作成の参考にさせる。			
授業の到達目標	1. 食材に関する基礎的知識を身につけ食品を扱うことができる2. 調理学実習の心得を意識し、段取りを考えた調理ができる3. 地域や旬の食材を活用した食事作りができる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	—
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	調理学実習の心得　基本的な調理操作や理論の確認・復習	木戸
第2回	日本料理の特徴と調理1(春の献立）：炊き込み飯 他	木戸
第3回	郷土料理の特徴と調理1：酒寿司他	木戸
第4回	西洋料理の特徴と調理1：チキンカレー 他	木戸
第5回	西洋料理の特徴と調理2：アサリのチャウダー他	木戸
第6回	中国料理の特徴と調理1 ：星洲炒米粉 他	木戸
第7回	中国料理の特徴と調理2：油淋鶏 他	木戸
第8回	菓子の特徴と調理：シュークリーム 他	木戸
第9回	日本料理の特徴と調理2：行楽弁当	木戸
第10回	西洋料理の特徴と調理3：米粉料理 他	木戸
第11回	日本料理の特徴と調理3：素麺 他	木戸
第12回	冷凍食品について　講演および講習会	木戸
第13回	郷土料理の特徴と調理2：魚汁 他	木戸
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	毎時間の事前資料を基に、料理レシピをフローチャート化し、実習の流れをイメージする。	学習合計時間(h)	15
事後学習	毎時間ごとに学習した内容をレポートにまとめ提出する　日々調理に携わり、技術の向上に努める	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題(レポート等)に対して、適宜授業の中で解説、講評する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	火曜日　16:30～18:30　研究室(本館505号室)		

テキスト	実習プリント(事前配布) 『毎日の調理』・福司山エツ子他・鹿児島調理研究会・2026年・3,000円（税抜）・（ISBN978-4-902709-48-3）
参考文献等	『調理科学 第2版』・中嶋 加代子・東京教学社・2,600円(税抜)・(ISBN978-4-8082-6101-6) 『八訂 食品成分表 2026』・香川明夫監修・女子栄養大出版部・1400円(税抜)・(ISBN978-4-7895-1026-4)
成績評価基準	実習・課題レポートを全て提出し、調理学の知識や調理の要点を習得したと認められた者を合格とする。
成績評価の方法	実習・課題レポート(30%、実習中のグループでの活動・発表(40%)、実技試験(30%)で総合的に判定する。実技試験はレポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	・教育効果向上のため、2コマ(180分)×13回で実施する ・実習を欠席した場合でもレポートは必ず提出すること

科目名	実践調理学実習		科目ナンバー	S23401
担当者	今給黎　菊代			
科目	―			
施工規則に定める科目区分または事項等	―			
授業形式	実習			
配当年次	2年	科目群	専門科目［給食の運営］	
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択	
単位数	1単位	担当形態	単独	
免許・資格情報	必修：栄養士、栄教免　　選択必修：こども食物アレルギー実務課程			

授業の概要	食は「いのちに繋がるもの」である考えを基本とし、調理を科学的、文化的に捉える。また、楽しい食卓作りのために伝統的な日本料理、郷土料理の価値を再認識し、異なる国の食文化の様式、マナー等を理解して総合的に調理を行う。さらに、食物アレルギーに配慮した献立作成や調理対応を理解し、安全に実践できる力を養う。そして、最終的には現場において、栄養士が行う調理の専門性を発揮し、社会で活用できるスキルを身に付けることを目的とする。			
授業の到達目標	1．食材に関する基礎的知識を身につけ食品を扱うことができる 2．調理の基本動作と技術、実習の心得を身につける 3．日本料理を中心に異なる国の食文化や調理法を理解し調理する 4．食物アレルギーの献立・調理対応を理解し、調理ができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(実習の心得)	今給黎
第2回	日本料理の特徴と調理1（お盆料理）：かいのこ汁、がね 他	今給黎
第3回	西洋料理の特徴と調理1：鯖の洋風煮、グリーンサラダ、ヴィシソワーズ他	今給黎
第4回	日本料理の特徴と調理2（秋の献立）：銀杏入り菊飯、鮭の香り焼き、吹き寄せ煮他	今給黎
第5回	中国料理の特徴と調理1：古咾肉、春捲、搾菜肉絲湯 他	今給黎
第6回	日本料理の特徴と調理3（行楽弁当）：秋刀魚の柚子庵焼き、秋野菜の炊き合わせ 他	今給黎
第7回	西洋料理の特徴と調理2：豚肉とトマトの重ね焼き、かぼちゃのクリーム煮、ジュリアンスープ 他	今給黎
第8回	西洋料理の特徴と調理3（クリスマスメニュー）：鶏肉のココナッツミルク煮、ロワイヤルスープ 他	今給黎
第9回	日本料理の特徴と調理4（正月献立）：鶏肉の鍬焼き、錦玉子、菊花蕪、雑煮 他	今給黎
第10回	西洋料理の特徴と調理4：白身魚のマヨネーズグラタン、パンプキンサラダ 他	今給黎
第11回	中国料理の特徴と調理2：中華ちまき、棒棒鶏、炸醸茄子 他	今給黎
第12回	日本料理の特徴と調理5（桃の節句）：押しずし、鯛の道明寺蒸し 他	今給黎
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	実習レシピをフローチャート化し、作業工程をまとめる器具、食器等を想定する。	学習合計時間(h)	15
事後学習	実習内容をレポートにまとめ提出する　日々調理に携わり、技術の向上に努める	学習合計時間(h)	24
課題に対するフィードバックの方法	課題(レポート等)に対して、適宜授業の中で解説、講評する。必要に応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	木曜日　8:30～8:50　　調理学実習室		

テキスト	資料(実習レシピ)を配布する。
参考文献等	『NEW調理と理論』 山崎清子・島田キミエ・渋川祥子ほか ・同文書院 ・ 2021年 ・2,800円(税抜) ・(ISBN978-4-8103-1507-3)
成績評価基準	食材に関する基礎的な知識及び調理の基本動作と技術を習得し、評価において 6 割以上の得点を合格とする。
成績評価の方法	実習・課題レポート(30%)、実習中のグループでの活動・発表(30%)、実技試験(40%)で総合的に判定する。実技試験はレポート等で代替する場合がある。
ＧＰＡ基準	
備考	・教育効果向上のため、2コマ(180分)×12回で実施する。実習を欠席した場合でもレポートは必ず提出すること。Google Classroom, Unipaを使用する。

科目名	栄養士実力試験対策演習	**科目ナンバー**	**S21404**
担当者	改元　香		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［関連科目］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	オムニバス
免許・資格情報	選択：栄養士		

授業の概要	栄養士実力認定試験は、「栄養士実力試験出題基準(ガイドライン)」に基づき出題され、栄養士の資質向上と質の均一化を図り、各養成校の教育に資することを目的としている。学生が自分自身の知識・実力を知り、栄養士としての知識や技能などの習得と質の向上を目指す。認定基準に基づく実力認定試験の各科目の要点や、専門的知識や技能について講義する。			
授業の到達目標	1. 栄養士に必要な知識を身につける　2. 学生自身が実力を再確認しながら、学習の充実を図る			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○		
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	栄養士実力認定試験の概要、試験科目の演習(模擬試験)	A
第2回	試験科目の演習(生化学・栄養学総論・解剖生理学)	A
第3回	試験科目の演習(食品学総論・食品学各論)	A
第4回	試験科目の演習(応用栄養学)	A
第5回	試験科目の演習(臨床栄養学)	A
第6回	試験科目の演習(調理学)	A
第7回	試験科目の演習(給食管理)	A
第8回	総括、終講模擬試験	A
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	栄養士実力認定試験の過去問題を学習する。教科書を復習し、わからないことを調べる。	学習合計時間(h)	15
事後学習	各専門科目を学習し、理解を深める。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	ユニパを活用する。質問事項は、個別に対応する。		
質問・相談方法	オフィスアワーを活用し、個別に対応する（各科目に応じて担当教員が対応します）		
オフィスアワー	木曜日　14:50～16:20 （各講義室）		

テキスト	『栄養士実力認定試験過去問題集』（一社）全国栄養士養成施設協会　建帛社　1,200円(税抜)(ISBN978-4-7679-0761-1)
参考文献等	各科目の教科書、配付資料など
成績評価基準	各講義に出席し、各科目の専門的知識や技能を理解した者を合格とする。
成績評価の方法	栄養士実力認定試験模擬試験及び試験の内容(60%)レポート・小テスト・課題(40%)により総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	A：専攻教員 掲示やお知らせ等はUNIPAやe-mailなどを使用します

科目名	スポーツと栄養	科目ナンバー	S21403
担当者	寺師　睦美		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	関連科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	スポーツ・運動活動時における生理的な変化と栄養の役割、スポーツ栄養学の基本的な知識を学ぶ。活動時に生じやすい疾患や、各ライフステージにおける体調の変化などを考慮した目的・対象者別の栄養関知について理解を深めることで、スポーツの現場に携わる栄養士としての専門性を高め、健康の維持増進に繋がる実践的な力を身につける。			
授業の到達目標	1.栄養とスポーツに関する科学的根拠に基づいたアスリートの栄養管理の基本的な考え方を理解できる。 2.アスリートのからだづくりや、目的・対象者別の栄養管理、健康問題について理解できる。 3. スポーツ栄養学の考え方を応用し、健康増進を目的としたサポートについて説明できる。			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	スポーツと栄養の基本	寺師
第2回	スポーツ栄養管理の考え方	寺師
第3回	アスリートの栄養補給（栄養素の役割）	寺師
第4回	ウエイトコントロールと食事	寺師
第5回	スポーツ現場における栄養管理	寺師
第6回	ライフステージ別のスポーツ栄養	寺師
第7回	競技別の栄養管理と食事	寺師
第8回	総括	寺師
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○		○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士の実務経験を活かし、各ライフステージにおける運動とアスリートの栄養管理の考え方について教授する。		
事前学習	授業範囲を代主旨、わからないことを調べる。	学習合計時間(h)	15
事後学習	授業内容を復習し、まなんだことをまとめる。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題のポイントを説明する。ユニパを活用する。課題の質問事項は、個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	月曜日　16：30～18：00　研究室(西館313号室)		

テキスト	『栄養科学シリーズNEXT運動・スポーツ栄養学』　中村亜紀・青井渉・加藤秀夫・中坊幸弘編　講談社　2021年　2,600円(税抜)　(ISBN978-4-06-522121-1)
参考文献等	『エッセンシャル スポーツ栄養学』　日本スポーツ栄養学会監修　市村出版　2024年　2,800円(税抜)（ISBN978-4-902109-54-2） 『理論と実践　スポーツ栄養学』　鈴木志保子著　日本文芸社　2024年　2,000円(税抜)（ISBN978-4-537-21582-3）
成績評価基準	スポーツ栄養学の基本的な栄養管理のあり方や競技・目的・対象者別に応じた栄養ケアを理解し、健康や日常生活との関連について説明できるものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験(60%)、小テスト(20%)、課題等への取組状況(20%)により総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	くらしとお茶Ｂ	科目ナンバー	S23303
担当者	木戸　めぐみ		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	専門科目［関連科目］
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2単位	担当形態	複数
免許・資格情報	選択：栄養士、栄教免　　選択必修：日本茶アドバイザー		

授業の概要	茶は2千年以上にわたり、人類に好まれてきた歴史のある飲み物である。多くの研究により、茶の効能・効果が明らかになり、健康飲料として認知される一方、茶の淹れ方や文化を知らない人も増えている。この授業では、茶の歴史や栽培法、機能性、性質や利用法に関する講義や、品質検査・鑑定法、お茶の淹れ方等の実習を行う。これらの学びを通して日本茶アドバイザーとして必要な知識を身につけ、茶文化の発展と普及に寄与する人材を育成する。			
授業の到達目標	1. 日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解できるようになる2. 茶に関する知識と理解を深める			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(日本茶アドバイザー認定までの説明)	木戸
第2回	歴史(日本茶、鹿児島茶の歴史を学ぶ)	松﨑
第3回	茶の利用(茶を使った料理や活用法について学ぶ)	木戸
第4回	茶業のあらまし(茶の生産、消費、流通等を学ぶ)	徳田
第5回	茶の栽培(種類別栽培・方法を学ぶ)	徳田
第6回	茶の製造(製造方法を学ぶ)	徳田
第7回	茶の化学(化学成分、品質等を学ぶ)	木戸
第8回	茶の健康科学(効能、効果等を学ぶ)	大賀
第9回	茶の品質検査と鑑定(官能検査法を学ぶ)	中禮
第10回	茶の品質検査と鑑定(鑑定技術を学ぶ)	中禮
第11回	インストラクション技術	改元
第12回	インストラクション技術(日本茶アドバイザーとして必要な項目)	中禮
第13回	インストラクション技術(日本茶アドバイザーとしての実技)	中禮
第14回	インストラクション技術(茶の淹れ方)	中禮
第15回	インストラクション技術(茶の鑑定の実際)	中禮

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業前にテキストを読んでおく。課題や模擬試験に取り組み、自ら学習する。	学習合計時間(h)	30
事後学習	日常生活の中で、お茶の葉の種類、色や香り、味等を確認する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	課題が課された場合は、担当者が個別に指導を行う。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。		
オフィスアワー	集中講義開講期間　9：00～16：30 （各講義室）		

テキスト	「日本茶アドバイザー講座Ⅰ、Ⅱ」ＮＰＯ法人日本茶インストラクター協会(協会による実習費に含まれるため､テキスト代として単独販売は行わない)
参考文献等	「シリーズ《食品の科学》茶の科学」村松敬一郎編、朝倉書店
成績評価基準	日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解し、茶に関する知識と理解が深められた者を合格とする。
成績評価の方法	定期試験60分(70％)と実技テスト(30％)で総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	夏季休暇集中講義

科目名	教育相談	**科目ナンバー**	**S21308**
担当者	篠原　美穂		
科目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	専門科目［関連科目］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	選択：栄養士　　必修：栄教免、ピアヘルパー認定試験受験資格		

授業の概要	カウンセリングと教育相談の理解を深め、様々な問題を抱えた児童・生徒や保護者への支援、多職種(スクールカウンセラーなど)との連携について説明する。また、学習の理解を深められるよう、仮想事例を用いて具体的な支援の方向性を見出すグループワークを実施し、その解説を行う。			
授業の到達目標	1.学校現場での児童・生徒の適応上の問題について理解する2.カウンセリングの基本的知識と技能を習得し、児童生徒及び保護者への対応について考えることができる			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連		○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	教育相談の歴史・役割・意義	篠原
第2回	カウンセリングマインドと教育相談の具体的技法	篠原
第3回	いじめに対する教育相談	篠原
第4回	不登校に対する教育相談	篠原
第5回	非行・虐待に対する教育相談	篠原
第6回	発達障害および精神疾患の基礎知識	篠原
第7回	特別支援教育と教育相談	篠原
第8回	保護者への援助と教育相談/社会資源の活用	篠原
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	小学校・中学校・高等学校におけるスクールカウンセラーとしての経験を活かし、教育相談の基本について授業を行う。		
事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておく。	学習合計時間(h)	15
事後学習	配布された資料をレジュメと照合しながら整理する。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。		
オフィスアワー	木曜日　12：30～14：20　研究室(西館304号室)		

テキスト	一部、浜松学院大学オープン教育リソース「なぜ、学校に行かなければいけないのか」を教材として使用する。
参考文献等	『調べる・学ぶ・考える教育相談テキストブック　学校で出会う問題とその対応』　森慶輔・宮下敏恵(編著)金子書房　2021年　2,600円(税別)(ISBN978-4-7608-2440-3)
成績評価基準	児童・生徒の適応上の問題についての理解、及びカウンセリングの基本的知識と技能を習得し、児童生徒及び保護者への対応について考えることができること。
成績評価の方法	レポート提出(60%)、授業中のレポート課題(30%)、受講態度(10%)で総合的に判定する。
ＧＰＡ基準	
備考	他学科開放科目

科目名	教育課程		科目ナンバー	S21307
担当者	大庭　美紀			
科目	教育の基礎的理解に関する科目			
施工規則に定める科目区分または事項等	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			
授業形式	講義			
配当年次	2年	科目群	栄養教諭関連科目☒	
開講期	前期	卒業の選択・必修	―	
単位数	1単位	担当形態	単独☒	
免許・資格情報	必修：栄教免☒			

授業の概要	学習指導要領の総則を読み解き、体験していた小学校の教育課程が学習指導要領、法令に従って作られていることを学ぶ。さらに、例外的な教育課程等についても理解を深め幅広い教育課程について学ぶ。☒			
授業の到達目標	1. 学習指導要領の総則を読み解くことにより、小学校の教育課程について理解する。　2. その基本的な考え方について理解する。			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連		○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(教育課程とは)☒	大庭
第2回	教育課程と学習指導要領(学習指導要領の歴史)☒	大庭
第3回	教育課程の基準と法令☒	大庭
第4回	小学校教育の基本と教育課程の役割☒	大庭
第5回	教育課程編成における共通的事項☒	大庭
第6回	授業時数及び指導計画の作成☒	大庭
第7回	教育課程の実施と学習評価☒	大庭
第8回	学校運営上の留意事項(総則第5：カリキュラムマネジメント)と本講義の総括☒	大庭
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
		○	◎		

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	学習指導要領の全文、解説書を一字一句読み解くことはしないため、一度は目を通しておく☒	学習合計時間(h)	15
事後学習	講義を行ったところが、学習指導要領のどの部分の内容であったかの確認とそれに基づく解説書の内容の確認☒	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。☒		
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーで対応する。☒		
オフィスアワー	月曜日　16:30～18:00　研究室(西館401号)☒		

テキスト	『小学校学習指導要領』　文部科学省　平成29年3月　201円 (ISBN：978-4-491-03460-7)　『小学校学習指導要領解説　総則編』　文部科学省　平成29年7月 155円(ISBN：978-4-491-03461-4)☒
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する。☒
成績評価基準	教育課程の基準となる法令について理解し、学習指導要領総則に書かれているの内容について理解すること。☒
成績評価の方法	定期試験(100%)☒
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	道徳教育の指導法	**科目ナンバー**	**S23403**
担当者	村若　修		
科目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	栄養教諭関連科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	―
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄教免		

授業の概要	小学校・中学校で行われる道徳教育や「特別の教科　道徳」の理論と実際について学習する。なお、本授業では受講者にグループでの協働的な学びを求める。自分の考えを他者に伝え、他者の考えを受容的に受け止め、思考を深めてほしい。			
授業の到達目標	1．「道徳とは何か」について説明することができる。 |2．道徳教育および道徳科の目標と内容を理解している。 |3．道徳科の授業を構想することができる。		
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	○	◎	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	「特別の教科　道徳」の目標及び内容|	村若
第2回	学校の教育活動全体を通じた道徳教育とその指導計画	村若
第3回	道徳科の指導方法と教材の多様性（情報機器の活用を含む）	村若
第4回	道徳科の学習指導案作成・道徳科の評価	村若
第5回	日本の道徳教育の歴史	村若
第6回	現代の道徳教育の課題（いじめや情報モラルを中心に）	村若
第7回	子どもの道徳性の発達	村若
第8回	道徳教育と食育（ディスカッションを含む）	村若
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○		○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	道徳科の授業を構想するにあたっての事前準備を求める｜｜	学習合計時間(h)	15
事後学習	道徳科の授業を構想するにあたっての事後の振り返りを求める｜｜	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	ミニッツペーパーや課題については、提出した次の授業で要点に触れ、フィードバックする。個別にコメントすることもある。		
質問・相談方法	次のいずれかの方法による。（1）授業時のミニッツペーパーに質問事項を記入する。（2）授業後に質問をする。（3）オフィスアワーを利用する。		
オフィスアワー	火曜日15:00～17:00 研究室（西館410号室）｜		

テキスト	小学校学習指導要領解説　特別の教科道徳編　（平成29年6月　文部科学省）｜
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する｜
成績評価基準	到達目標が十分に達成されること｜
成績評価の方法	定期試験（80%）、小レポート（20%）｜
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	総合的な学習の時間の指導法	**科目ナンバー**	**S21405**
担当者	松﨑　康弘		
科目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	栄養教諭関連科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	―
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄教免		

授業の概要	前半は学習指導要領の読み込みや実践事例の分析を通して、総合的な学習の時間の目標・内容・評価等について理解を深める。後半は指導計画の作成・討論・振り返りをとおして、総合的な学習の時間の単元を構成する力を高める。			
授業の到達目標	総合的な学習の時間において、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	◎	○	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	イントロダクション（本授業の目的についての説明、小学校等の実践の振り返り）	松﨑
第2回	総合的な学習の時間の目標と意義	松﨑
第3回	総合的な学習の時間を踏まえたカリキュラム・マネジメント	松﨑
第4回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（１）（横断的・総合的な課題）	松﨑
第5回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（２）（地域や学校の特色に応じた課題）	松﨑
第6回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（３）（児童の興味・関心に基づく課題）	松﨑
第7回	総合的な学習の時間における体験活動の意義	松﨑
第8回	総合的な学習の時間におけるICTの活用	松﨑
第9回	総合的な学習の時間における施設等の活用	松﨑
第10回	探究的な学習の過程	松﨑
第11回	総合的な学習の時間の評価	松﨑
第12回	総合的な学習の時間の年間指導計画の事例	松﨑
第13回	総合的な学習の時間の単元計画の作成	松﨑
第14回	単元計画の発表と討論	松﨑
第15回	これからの総合的な学習の時間の在り方	松﨑

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	・指導要領解説の指定部分を読んでおく・食育等に関する文献を図書館で探す	学習合計時間(h)	30
事後学習	・定期試験に向けて総復習を行う	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	水曜日・金曜日　12：20～13：10　研究室（西館411号室）		

テキスト	『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編』　文部科学省　東洋館出版社　2018年　126円（税抜き）　(ISBN978-4-491-03468-3)
参考文献等	特になし
成績評価基準	・総合的な学習の時間の目標や内容を理解している。・指導計画作成、実践のための基礎的な能力を有している。
成績評価の方法	定期試験（100%）　※レポートで代替することがある。
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	特別活動の指導法	科目ナンバー	S23404
担当者	山元　有一		
科目	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容		
授業形式	講義		
配当年次	2年	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	―
単位数	1単位	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄教免		

授業の概要	何より小学校における特別活動の内容、その目的を概略し、特に学級活動について具体的な授業実践について考えていく。			
授業の到達目標	・特別活動の目標の把握　・特別活動の内容の理解　・指導法への関心			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連		◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		担当者
第1回	特別活動の意義、目的―学校における生活作りとしての特活	山元
第2回	特別活動の内容―小中の学習指導要領を用いて	山元
第3回	学級活動（話合い活動、係活動）	山元
第4回	学級活動（図書館、食育）―教員のチーム化も踏まえて	山元
第5回	児童会活動、クラブ活動、学校行事	山元
第6回	特別活動と他の教科との関連性―特別教科道徳との関連性を踏まえて	山元
第7回	特別活動の具体的な指導法（学級活動）―合意形成はいかにして可能か？	山元
第8回	特別活動の具体的な指導法―食育との関係で	山元
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	2年前期に栄養教育実習を済ませているので、実習での当別活動に係る経験や知識を振り返っておく各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる	学習合計時間(h)	10
事後学習	講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスアワー等で関連事項や発展的内容について伝える	学習合計時間(h)	20
課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。		
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。		
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く15：00～17：00（西館4階406号室）。要事前連絡（連絡方法は初回の講義で伝える）。		

テキスト	小学校学習指導要領解説　特別活動編　（平成29年6月　文部科学省）
参考文献等	講義中、参考資料としてプリントを配布する。
成績評価基準	提出されたレポートが「授業の到達目標」を満たしていること。
成績評価の方法	最終レポート（100%）講義期間中に小学校での栄養教育実習があるので、それを踏まえること
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	栄養教育実習指導	**科目ナンバー**	**S23301**
担当者	児玉　むつみ		
科目	教育実践に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	栄養教育実習		
授業形式	講義		
配当年次	2年	**科目群**	栄養教諭関連科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	―
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄教免		

授業の概要	栄養教育実習の意義・目的を理解し、教育実習生としての心得を確認させる。そして、栄養教育実習の目標を達成し得るための準備を行うよう指導する。また、栄養教諭としての自覚や心構えを養い、児童生徒の実態について理解を深め、食に関する適切な指導ができる実践的能力を培うことを目的とする。同時に栄養教諭としての資質能力を高めることを目標とする。栄養教育実習後には、実習で得たことや反省を記録としてまとめ、教諭になるための目標や課題を明確にさせる。			
授業の到達目標	1．栄養教育実習の意義・目的を理解する　2．食に関する学習指導案および関係資料を作成する　3．児童生徒に対し食教育を実践する能力を身につける			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	栄養教育実習事前オリエンテーション(先輩との交流会を含む)	児玉
第2回	小学校での観察参加実習	児玉
第3回	学校教育における栄養教育実習の位置づけ・実習の流れ	児玉
第4回	実習記録等の記録方法および提出について	児玉
第5回	栄養教育実習の心得	児玉
第6回	学習指導案の作成 (ICTの活用を含める)	児玉
第7回	「食に関する指導」(個別・集団指導、教材作成)	児玉
第8回	栄養教育実習を振返り、課題や反省をまとめ今後にいかすために共有する	児玉
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	小学校における1日観察参加実習に参加し児童の様子を学ぶ事前準備を十分に行い提出物の期限を守るようにする	学習合計時間(h)	15
事後学習	事後には資料の整理や記録のまとめを行う	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題やレポートに対し、評価後は返却する。質問事項や相談等がある場合は、個別に対応する。		
質問・相談方法	授業終了時やオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日12：00～13：00　または　金曜日14：30～18：00　研究室(南館1階奥：104号室)		

テキスト	栄養教育実習ノート食に関する指導の手引　第二次改訂版　文部科学省　東山書房　最新版　1,200円(税抜き)(ISBN978-4-8278-1453-8)
参考文献等	『栄養教諭論 理論と実際』　金田雅代　建帛社
成績評価基準	実習校の学校教育概要および目的を理解し、課題に取り組み、実習内容や栄養教諭として必要な資質をまとめ説明できるものは合格とする。
成績評価の方法	課題等提出物70%　受講態度30%　教諭になる為の資質が備わってきているかも含め総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	・Google Classroom, Unipa, e-mailを使用する。

科目名	栄養教育実習	**科目ナンバー**	**S23302**
担当者	児玉　むつみ		
科目	教育実践に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	栄養教育実習		
授業形式	実習		
配当年次	2年	**科目群**	栄養教諭関連科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	―
単位数	1単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄教免		

授業の概要	栄養教育実習の意義・目的を理解し、栄養教諭の職務や学校での役割等について、主に鹿児島県内の小・中学校において実施し理解を深めさせる。また、児童生徒の実態について理解した上で、栄養教諭としての児童生徒への食に関する指導方法を学ばせる。			
授業の到達目標	1．栄養教諭の職務を理解し体験する　2．児童生徒に対する指導の実際を学び実践する　3．学校教諭として責任ある教育活動を営む実践力を養う			
ディプロマポリシー(DP)	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	教師としての心構え、教員の服務規律等の指導講話	実習先教諭
第2回	学校経営・学校校務分掌・教育計画	実習先教諭
第3回	学級担任と学級経営、学級指導	実習先教諭
第4回	「食に関する指導」の年間計画の説明	実習先教諭
第5回	給食時間における放送 配膳 後片付け指導の参観補助	実習先教諭
第6回	食に関する指導等 各教科の参観	実習先教諭
第7回	食に関する指導等 学級活動等の参観	実習先教諭
第8回	児童生徒への個別的な相談に対する指導の参観補助	実習先教諭
第9回	食に関する指導の家庭・地域との連携・調整の参観補助	実習先教諭
第10回	食に関する指導 等 教科・ 学級活動等の教材研究	実習先教諭
第11回	学習指導案の作成(実態把握・計画)の実際	実習先教諭
第12回	学習指導案の作成(展開・評価)の実際	実習先教諭
第13回	食に関する指導(教科)の実施	実習先教諭
第14回	食に関する指導(学級活動)の実施	実習先教諭
第15回	食に関する指導に対する指導・評価	実習先教諭

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	現職教諭による指導		
事前学習	課題を行い実習校で十分に学習できるように事前準備を怠らない。	学習合計時間(h)	15
事後学習	資料の整理やまとめを行い実習記録等の提出をする。	学習合計時間(h)	15
課題に対するフィードバックの方法	提出された課題やレポートを確認し、不備がある場合は再提出を行い、実習校での学習が充実したものになるよう進める。		
質問・相談方法	メールやオフィスアワー等で対応する。		
オフィスアワー	木曜日12：00～13：00　または　金曜日14：30～18：00　研究室(南館1階奥：104号室)		

テキスト	食に関する指導の手引　第二次改訂版　文部科学省　東山書房　最新版　1,200円(税抜き)(ISBN978-4-8278-1453-8)
参考文献等	小学生用食育教材　たのしい食事つながる食育 中学生用食育教材　「食」の探求と社会への広がり
成績評価基準	実習校の学校教育概要を把握し、栄養教諭の業務について、実践的かつ専門的技能を修得したできたものは合格とする。
成績評価の方法	実習校の評価（80%）および実習記録等（20%）により総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	1
備考	

科目名	教職実践演習（栄養教諭）	**科目ナンバー**	**S23402**
担当者	児玉　むつみ		
科目	教育実践に関する科目		
施工規則に定める科目区分または事項等	教職実践演習		
授業形式	演習		
配当年次	2年	**科目群**	栄養教諭関連科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	―
単位数	2単位	**担当形態**	単独
免許・資格情報	必修：栄教免		

授業の概要	これまでに履修した授業、学外研修及び給食管理実習、栄養教育実習等を有機的に関連付けて学び栄養教諭として必要な資質能力を高めることを目的とする。そのために食農教育についての知識を深め、農業などの生産を体験することで苦労や喜びを実感し、栄養教諭としての専門性を高めさせる。鹿児島市内の栄養教諭ほか現場教諭、管理職経験者から指導を受け社会性や対人関係能力など教育者としての人間性を身につけさせる。さらに、模擬授業や活動発表を通して教育指導力を向上させる。			
授業の到達目標	1.履修カルテを基に自らの課題と目標を明確にする2.教諭の使命感や責任感を自覚し栄養教諭の資質向上を目指す3.社会性や対人関係能力を身につけ、教育指導力を向上させる			
ディプロマポリシー（DP）	1 食物・栄養に必要な専門性　健康の基盤となる食物と栄養に関する専門的な知識と技能を修得し、時代と社会の要請に応える力を有する。	2 課題解決能力　修得した食に関する知識と技能を活かし、地域や現代社会の食に関わる身近な課題を見出し、それを解決に導くために求められる能力を有する。	3 豊かな人間性　食に関する幅広い知識・興味・関心に基づき、人が健全な食生活を送るために、他者と目的を共有し、協働できるように自らを高めることができる。	―
DPとの関連	○	◎	○	
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	オリエンテーション及び「履修カルテ」を用いた学修の振り返り 地域に根ざした献立作成のための食材を知る・味わう	児玉
第2回	地域に根ざした献立に活かす食材を知る・味わう	児玉
第3回	地域の食材を活用したレシピ開発計画	児玉
第4回	栄養教諭による地域に根差した学校給食および食育活動についての講義	児玉・外部講師
第5回	学校給食用レシピ作成	児玉
第6回	学校給食用レシピの試作	児玉
第7回	学校給食用レシピの試作	児玉
第8回	「履修カルテ」を用いた学修の振り返り 開発レシピ、献立紹介作成	児玉
第9回	教師の魅力や教科の指導力向上について「ICTを活用した教育」	児玉
第10回	学生による「模擬授業発表」1各人またはTIT2での発表	児玉
第11回	学生による「模擬授業発表」2各人またはTIT2での発表	児玉
第12回	使命・責任・教育的愛情等に関する管理職経験者の講話	外部講師
第13回	学校給食の試食および児童との交流、食育活動	児玉
第14回	学校給食の試食および児童との交流、食育活動	児玉
第15回	総括 「履修カルテ」を用いた学修の振り返り	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○	○	○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、教職実践実習について教授する。		
事前学習	調査や準備を行った上で演習に参加する。	学習合計時間(h)	30
事後学習	演習の振り返りやまとめを行い、レポートを提出する。	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	オフィスアワーの時間に個別に対応する		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーの時間で対応する		
オフィスアワー	木曜日12：00～13：00　または　金曜日15：00～18：00　研究室(南館1階奥：104号室)		

テキスト	『食に関する指導の手引』第二次改訂版　文部科学省　東山書房　1,200円　(ISBN978-4-8278-1453-8)
参考文献等	小学生用食育教材　たのしい食事つながる食育 中学生用食育教材　「食」の探求と社会への広がり
成績評価基準	栄養教諭としての資質向上や社会性、対人関係能力を身につけ、教育指導力が向上されたかを判断し、合格点以上の者を合格とする。
成績評価の方法	受講態度(40%)、提出物(40%)、討論等への参加状況(20%)により、総合的に評価する。
ＧＰＡ基準	
備考	COC関連科目 ・掲示やお知らせ等はe-mailやUnipaなどを使用する。